

ISSN 2434-513X

東アジア日本学研究

第8号

Japanese Studies in East Asia

No.8

東アジア日本学研究学会

The Society of Japanese Studies in East Asia

2022 年 9 月 20 日発行

新型コロナウイルス感染拡大の危機と日本学研究

「不確実性の世界」(An uncertain world) だという。

「世界は複合する危機という“究極の嵐”の瀬戸際にある」と国連事務総長が警告したように、新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ戦争の泥沼化によって人類は、食糧、エネルギー、核、難民などをめぐって連鎖的で世界的規模の危機に直面している。この先に待ち構えているのは何だろうか。確実にいえるのは「不確実性」が増していることだけだ。

ドイツの社会学者ベックは、近代の科学技術の発展が富の生産とともにリスクも社会的に生産してしまうことを指摘し、こうした社会を「リスク社会」と呼んだ。人類が作り出したあらゆる仕組みはリスクを伴うという。危機やリスクを背負うことは、もはや現生人類の宿命なのだ。『銃・病原菌・鉄』で一世を風靡したジャレド・ダイアモンドの著書に『危機と人類』がある。七カ国をサンプルにそれぞれの国が陥ってきた危機、そしてそれへの対応、特徴、個人的・国家的危機の枠組みについての研究である。注目したいのは、その危機に関する12要因説である。例えば、危機意識の合意と共有、行動を起こすことへの責任の受容、局面打開に必要な国家的課題の明確化、支援の受入れを含む国際的連携、他国をモデルに学ぶ姿勢、ナショナルアイデンティティの形成、地政学的制約の有無…などである。著者は、日本が幕末の国家的危機を乗り越えた背景には、危機の存在を認め、危機対処の責任を担い、他国から解決モデルを取り入れ、客観的な自己評価を行い、自らの強みを生かして辛抱強く対処し、強いナショナルアイデンティティを維持し、自らの基本的価値観は譲らない、といった諸要因が働いたと指摘する。

このジャレド・ダイアモンドの指摘は我々の明治日本への理解のみならず、今日のコロナ過における研究活動に対しても有益な示唆を示しているように思われる。思い起こせば、本学会は2018年9月に発足して間もなく新型コロナウイルスの感染拡大の危機にさらされて今に至っている。研究者個人による調査活動、会員同士の学術交流が大幅に制限されたのみならず、学会開催と活動形態も感染動向の行方に大きく左右された。しかし、幸いなことに危機によって学会活動が中断することはなかった。この度発行に漕ぎついた『東アジア日本学研究』(第8号)がその証左である。第8号にも本学会の会員が感染拡大に伴う厳しい制限を乗り越えて弛むことなく追い求めてきた研究成果が掲載された。厳しい状況の中で日本学研究に熱心に取り組んできた会員の皆さんに敬意を表し、また学会活動の中核をなす学会誌の編集に献身的に携わってきた編集委員会の皆さんに心より感謝申し上げたい。

最後に、みんなの知恵で危機を乗り越え、研究活動をより充実したものにし、学術交流をより活発化し、より優れた研究成果を世に問うことを願ってやまない。

東アジア日本学研究学会

会長 金龍哲

目次

巻頭言	金龍哲(東アジア日本学研究学会会長)	1
【論文】		
王慈敏	評価のモダリティと認識のモダリティの連鎖の意味特徴 —ハズの実例から—	3
施暉・李凌飛	「性向語彙」における「特別にきれい好きな人」の日中対照研究 —「過剰価値」を中心に—	19
楊迪	「〜ばい」の意味・用法と構造的特徴に関する記述的研究	35
徐義紅	中国の大学における日本語作文授業の実態と対策研究	53
王雲姣	日本語の心理動詞の使役構文について	67
王会欣	「思う」と“想”の本動詞用法の対照 —多義語における構文というアプローチの試み—	83
崔雪梅	『虞美人草』における漢詩とその役割について	101
尹惠貞	日・中・韓平和絵本シリーズにおける平和の表象分析 —絵本『へいわって どんなこと?』を中心に—	119
学会役員		133
学会動向	李東哲(東アジア日本学研究学会副会長)	134
会員消息	李東哲(東アジア日本学研究学会副会長)	135
東アジア日本学研究学会会則		136
『東アジア日本学研究』投稿要領		139
『東アジア日本学研究』執筆要領		141
『東アジア日本学研究』査読要領		142
編集後記		144

評価のモダリティと認識のモダリティの連鎖の意味特徴 —ハズの実例から—

王 慈敏（桂林旅游学院）

要旨

評価のモダリティと認識のモダリティについて、益岡（1991）などでは、両者は表現者の判断が当為性と蓋然性という異なる意味領域に属することから、基本的にパラディグマティック(paradigmatic)な関係にあると指摘されている。ただし、タ形になれかつ連体修飾節に収められる評価のモダリティの形式であれば、認識のモダリティに前接できるという連鎖を認めている。本稿はこうした連鎖の存在を認めたうえで BCCWJ-NT に基づき、語用論的な観点から認識のモダリティのハズの実例を通じて、単独で用いられる場合と評価のモダリティが前接している場合を比較し、その連鎖の意味特徴を考察したものである。考察の結果、連鎖の存在する用例は明らかに、当該事態が現実と対立する場合に偏っていることが判明した。この場合の背景にあるのは、評価のモダリティが取り上げた事態は非実現になったが、その実現性はすでに問題とされないため、表現者がハズを通じた論理的帰結としての事態の正当性の主張である。そこには、連鎖に意味上の特徴が存在するという結論を得た。

キーワード： モダリティの連鎖、ハズ、非実現、現実との対立、事態の正当性

はじめに

評価のモダリティと認識のモダリティについては、両者とも表現者が客観的な事態に対し発話時に判断、発話そして伝達態度を表すものであると捉えられる。両者の表現者の判断は、益岡（1991）によると、評価のモダリティは事の適否を問題にする当為性、認識のモダリティは事の真偽の判断に関与する蓋然性であるという。このように評価のモダリティと認識のモダリティが異なる意味領域に属することから、益岡（1991）では、両者は基本的に「一方を選べば他方は選ばれない」というパラディグマティック(paradigmatic)な関係にあると指摘されている。ただし、益岡（1991）はタ形になれ、かつ連体修飾節に収められる評価のモダリティの形式であれば、次のように認識のモダリティに前接できるという連鎖を認めている。

- (1) オムレツは出来立てをたべるべきだろう¹⁾。(益岡（1991:58）による例文)

もともとパラディグマティックな関係にある両者の連鎖によって叙述される文に、いかなる意味特徴があるかを究明することが本稿の目的である。認識のモダリティのハズ²⁾の実例を通じて、単独で用いられる場合と評価のモダリティが前接する場合を比較し、語用論の観点から後者の場合の意味特徴を考察していく。

1. 先行研究

評価のモダリティと認識のモダリティについては、研究者によって対応する形式や名称が異なる³⁾。以下に、日本語記述文法研究会 (2003) が取り上げた形式を挙げる。

「評価のモダリティ」⁴⁾

トイイ・バイイ・タライイ・ハウガイイ・テモイイ・ナクテモイイ・テハイケナイ・ナケレバナライ・ザルヲエナイ・ベキダ・コトダ・モノダ。

「認識のモダリティ」

Ø (断定形)・ダロウ・カモシレナイ・ニチガイナイ・ハズダ・ヨウダ・ミタイダ・ラシイ・(し) ソウダ・(する) ソウダ。

評価のモダリティと認識のモダリティの連鎖を論じたものに益岡 (1991) と仁田など (2000) がある⁵⁾。両者とも、文は表現主体から独立した客観的な事態を表す部分 (命題) と、表現主体の発話時における判断と発話・伝達態度を表す部分 (モダリティ) から成るとしている⁶⁾。この立場の下で、評価のモダリティと認識のモダリティは、両者とも事態 (命題内容) に対する「表現者の判断」を表すと捉えられる。

評価のモダリティと認識のモダリティについて、益岡 (1991:53, 54) は、前者が事の適否を問題にする当為性に、後者が事の真偽の判断に関与する蓋然性に、という異なる領域に属するため、基本的に「一方を選べば他方は選ばれない」というパラディグマティック (paradigmatic) な関係にあると指摘している。また仁田など (2000:85) は、両者に現れる「命題」においては、評価のモダリティはテンス形式の分化を持たないのに対して、認識のモダリティはテンスの分化を持つことから、両者はその独立性をそれぞれ主張していると説明する。ただし、益岡 (1991) と仁田 (2000:86)⁷⁾ が共に認めるのは、タ形になれかつ連体修飾節の中に収められる評価のモダリティ形式であれば (ベキダ、ナケレバナライ、ハウガイイなど)、認識のモダリティに前接可能ということである。例えば、ベキダはその一つであるという⁸⁾。

(2) a. 出来たてのオムレツをたべるべきだった。

b. 出来たてのオムレツをたべるべきであることがよくわかった。

(益岡 (1991) による用例)

このような評価のモダリティ形式は、次のように認識のモダリティに前接できるという。

(3) a. オムレツは出来立てをたべるべきだろう。(益岡 (1991:58) による例文)

b. 河野代表ら幹部は組織の内部から動揺が出ていることを深刻に受け止めなけ

ればならないだろう。（仁田など（2000:86）による例文）

便宜上、本稿ではこのような連鎖を「評価のモダリティ+認識のモダリティ」のように示す。仁田など（2000:87）はこういった文について、評価のモダリティは認識のモダリティの作用対象であると説明している。言い換えれば、認識のモダリティによる判断が及ぶ命題の一部になるということである。ところが先行研究では、基本的にパラディグマティックな関係にある、両者の連鎖による叙述にどのような意味特徴があるかについては言及されていない。これに関しては、形式ごとに更なる検討を加える余地があると考ええる。

2. 評価のモダリティと認識のモダリティの連鎖の意味特徴

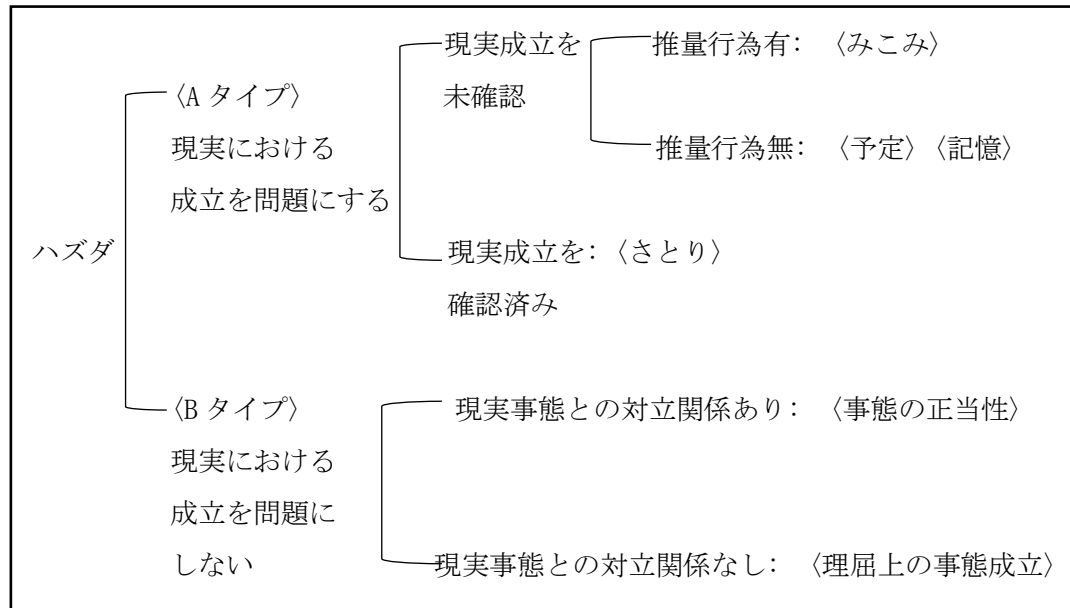
先行研究により「評価のモダリティ+認識のモダリティ」という連鎖において、評価のモダリティは認識のモダリティの判断対象になり、文は認識のモダリティによって事の真偽判断に関わる蓋然性のみが関与することが明らかになった。

次節からは、認識のモダリティのハズ⁹⁾を一つの例に、単独で用いられる場合と評価のモダリティが前接する場合を比較して、語用論の観点から「評価のモダリティ+はず」の場合における連鎖の意味特徴を考察する。

2.1 「はず」

従来の研究は、ハズダが表す論理に焦点を当てているが、その論理には確かな根拠が必要だとしている¹⁰⁾。そこから抜け出し、その意味用法を全般的に考察したのが岡部（2003）である。岡部はハズダの基本的意味を「事態を理屈の上で成り立つ事態として語る」と定義する。そして、用法を事態の性質に基づいて、現実における成立を問題にする〈A タイプ〉と、現実における成立を問題にしない〈B タイプ〉に分け、〈A タイプ〉には、事態の現実成立が未確認の〈みこみ〉〈予定〉〈記憶〉、さらに事態の現実成立を確認済みの〈さとり〉が存在する。そして、〈B タイプ〉には、〈事態の正当性〉と〈理屈上の事態成立〉がある。岡部（2003）は次のような全体像を示している。

図1：ハズダの意味用法（岡部（2003:113）が指し示す全体像）



〈A タイプ〉には、次の例が示されている。

〈みこみ〉

(4) 太郎はパーティ好きだから、明日のパーティに来るはずだ。

〈予定〉

(5) 予定では、このバスは明日の朝の六時に京都に着くはずだ。

〈記憶〉

(6) (山田さんはどこに住んでいるのかと聞かれて)

山田さんは八王子に住んでいたはずです。

〈さとり〉

(7) 「彼はもとプロ野球選手だって」

「どうりで野球がうまいはずだ」

(4) (5) (6) における「明日のパーティに来る」「このバスは明日の朝の六時に京都に着く」「八王子に住んでいた」という当該事態は、いずれも発話時に現実の成立は未確認という点で共通している。〈みこみ〉(4)の当該事態は話し手の推論行為による帰結であるのに対し、〈予定〉(5)と〈記憶〉(6)は定められた段取り、話し手の記憶を参照したものである。いっぽう、〈さとり〉(7)は、「彼は野球がうまい」ことは既に確認済みの事実であるうえ、「彼がもとプロ野球選手」ということにより、表現者は初めてそれが理屈上で成り立つ事態であると理解したとする。

一方、〈B タイプ〉には、次の例がある。

〈事態の正当性〉

(8) おかしい。僕は徹夜で疲れているはずだ。それなのにこんなに元気だなんて。

〈理屈上の事態成立〉

(9) ええと、値段が千五百円で一万円札を出したら、おつりは八千五百円のはずだな。
うん。

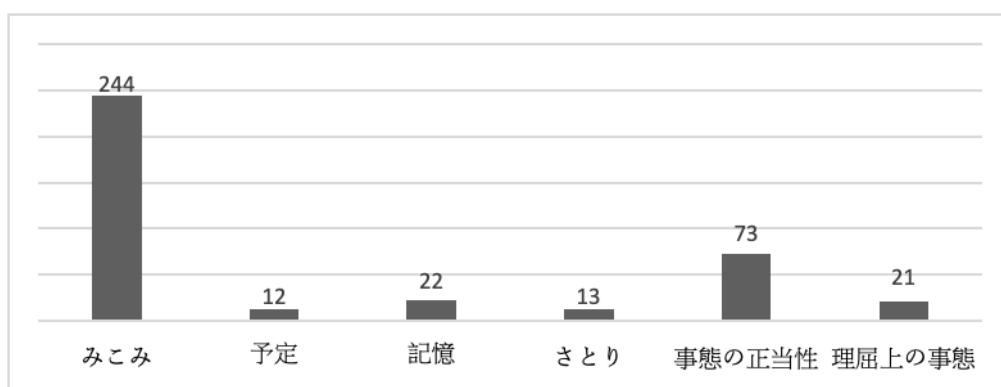
〈事態の正当性〉には、(8) のように文脈上の「僕はこんなに元気だ」ということから、当該事態の「疲れていること」が現実と対立することが理解できる。故に、当該事態の現実における成立は問題とされないが、徹夜という原因によって成立の正当性が説明される。さらに、〈理屈上の事態成立〉には、(9) のように単に理屈上のことが叙述されるため、当該事態の現実の成立も問題とされないという。

上述の岡部の意味用法による当該事態については、本稿は現実との対立があるか否かという点から、分類できると考える。対立がある場合には〈事態の正当性〉がある。一方、〈みこみ〉〈予定〉〈記憶〉は事態の成立がまだ確認されておらず、そして〈さとり〉は事実であることが発話時の前にすでに確認済みであるため、対立がない場合に属する。また〈理屈上の事態成立〉は専ら理屈が述べられるから同じくこの場合として捉えられる。以降では、岡部（2003）によるハズダの定義とその意味用法を参照し、さらに用法による当該事態を現実との対立があるか否かという点から「評価のモダリティ+ハズ」が表す意味特徴を究明する。

2.2 「はず」の使用実態

本稿は、BCCWJ-NT からハズの実例を無作為に 500 例抽出し、その否定形式と翻訳文を除外して、合計 385 例を収集した¹¹⁾。そして、岡部（2003）におけるハズダの用法に従って分類し、各場合の用例数を図 2 にまとめた。

図 2：ハズの使用実態¹²⁾



それぞれの用法は、以下の実例に対応する。

- (10) a. 〈みこみ〉「間違いなく、長峯夫人の声だったかね？」「そのはずです。顔は見ていませんが¹³⁾…」(『銭形砂絵殺人事件』)
 b. 〈予定〉「そうか、いよいよあしたがラストシーンの撮影か」(中略)「はい。片兵さんはきょう上京してるはずです」(『ホンペンの男たち』)

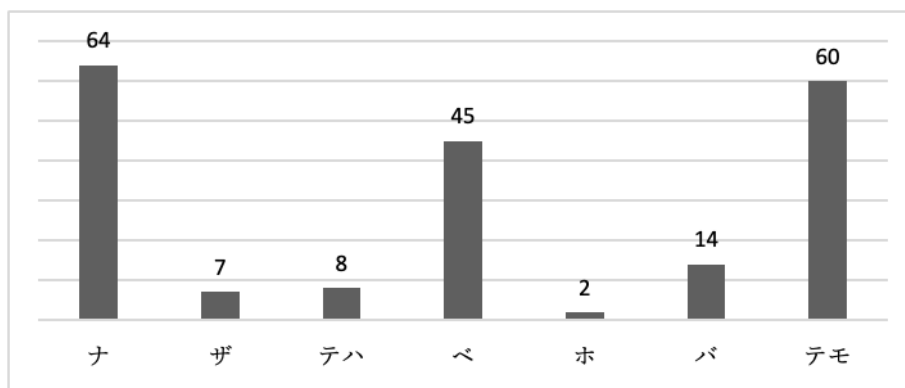
- c. 〈記憶〉頭に叩き込んだ見取り図を思い出す梨々。たしかあそこは宴会や披露宴用の大食堂があったはず。（『吉永さん家のガーゴイル』）
- d. 〈さとり〉密航船といっても、関係者には罪の意識なんてみじんもない。それもそのはず、本人たちにフィリピンへの帰属意識がきわめて薄く、むしろ同じイスラム国家のマレーシアのほうにアイデンティティを感じている。よって国境なんてあってないようなもの。（『ホンペンの男たち』）
- e. 〈事態の正当性〉その病院長は、日本の医療法の壁によって救えるはずの患者を救えなかったという苦い思いをたびたび味わっているのである。
（『がん患者のプロが書いた医療疎開のススメ』）
- f. 〈理屈上の事態〉内蔵の充電電池の充放電を繰り返すと容量が減ると共に電圧も下がってくるはずです。（「Yahoo!知恵袋」）

これらの用法の中で、〈みこみ〉が圧倒的に多く、63.4%の出現率を示す（全385例中244例）。次は、18.9%を示した〈事態の正当性〉である（全385例中73例）。松木（1993:5,6）は、「～スルはず だ/の」で行う推論は、導き出された帰結と現実との食い違いを暗示すると述べている。つまり、(10e)のような「患者が救える」という本来理屈上成り立つ事態が実際には成立しなかった〈事態の正当性〉を表す場合と言える。ところが、本稿の調査によると、ハズの使用実態は、特に〈事態の正当性〉には偏らず、むしろ事態の成立が未確認の〈みこみ〉に偏る傾向がある。

2.3 「評価のモダリティ+ハズ」の意味特徴

「評価のモダリティ+ハズ」の場合において、出現可能な評価のモダリティ形式はタ形になれかつ連体修飾節の中に収まる形式である。具体的にトイイ・バイイ・タライイ・ハウガイイ・テモイイ・ナクテモイイ・テハイケナイ・ナケレバナラナイ・ザルヲエナイ・ベキダがある。しかし、収集した合計200例¹⁴⁾の中には、トイイ・タライイと共起する実例は確認できていない。各形式の出現の数については、次の図3の通りである。

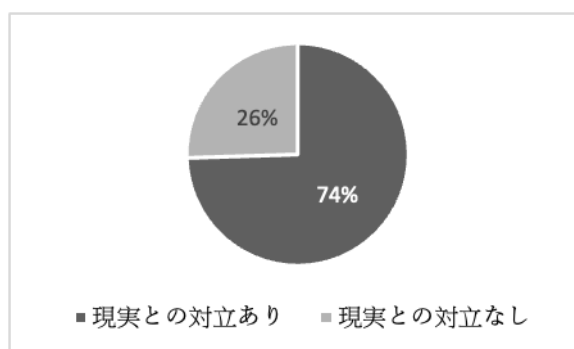
図3：「評価のモダリティ+ハズ」の共起実態¹⁵⁾



このうち、ナケレバナラナイとテモイイは、それぞれ 32% (200 例中の 64 例)、30% (200 例中 60 例) と高い割合を示している。

「評価のモダリティ+ハズ」の共起実態で次に注目すべき点は、当該事態が現実と対立する場合に圧倒的に偏っていることである (200 例中 149 例)。具体的な割合は、図 4 に示すとおりである。

図 4 : 「評価のモダリティ+ハズ」の使用実態



次節から、「評価のモダリティ+ハズ」における当該事態を「現実との対立がある場合」と「現実との対立がない場合」に分け、それぞれに対応する意味用法を検討していく。

2.3.1 現実との対立がある場合

ハズの用法において現実との対立があるのは、当該事態が現実と食い違う〈事態の正当性〉の場合である。この場合はどの形式とも共起する実例が存在する上で、表 3 全体の 74.5% (全 200 例中 149 例) を示すという有意な差が確認される。

〈事態の正当性〉

- (11) 翌日、ウエストミンスター寺院の日英の和解のためのミサには、日英たった三百人が集まっただけだったが、これが、この時期、日本の政府役人が招かれた唯一の追悼式であった。二十一世紀を迎えるにあたり、ふたつの元敵国は協力しなければならないはずなのに、そのうちの一国はまだその気にならないのというのであろうか。(『戦勝国イギリスへ日本の言い分』)
- (12) 一応は病気で会社を休んでいるのだから、昼食の配慮ぐらいしてくれていってもいいはずだった。冷蔵庫を開けてみたが、ろくなものはなかった。(『葬った首』)
- (13) 本当は枢密院の会議ではメモを取ってはいけないはずですが、この人はじょうずにメモを取っている。(『日米開戦・破局への道』)
- (14) ナイチンゲールの素晴らしさは、本来ならば、憎むべきはずの敵の将兵に対して、それを超えて人間としての善意を送り、負傷の介抱をしたという事実です。
(『氣くばりのすすめ』)
- (15) 元へ戻るのですが、国公法七十八条の 1 号、2 号が例示だと言え、3 号で適格性があるかないかだけで判断すればいいはずを、あの大阪高裁は、さらにその病

気、心身の故障も判断の要素に入れるとこう言っているのですよね。

（『新公務員労働の理論と実務』）

(16) おれははるのそばにいないよりいるほうがいいはずなのに、なんでこんなに文句
言われるんだろうって思うよ。（「Yahoo!ブログ」）

(17) それは、囚人のジレンマ状況の中で、人々が利害が対立する他者として合理的に
行動する限り、論理的には非協力に陥らざるを得ないはずなのに、現実にはしば
しば人々は非協力ではなく協力を生み出す、という事実です。

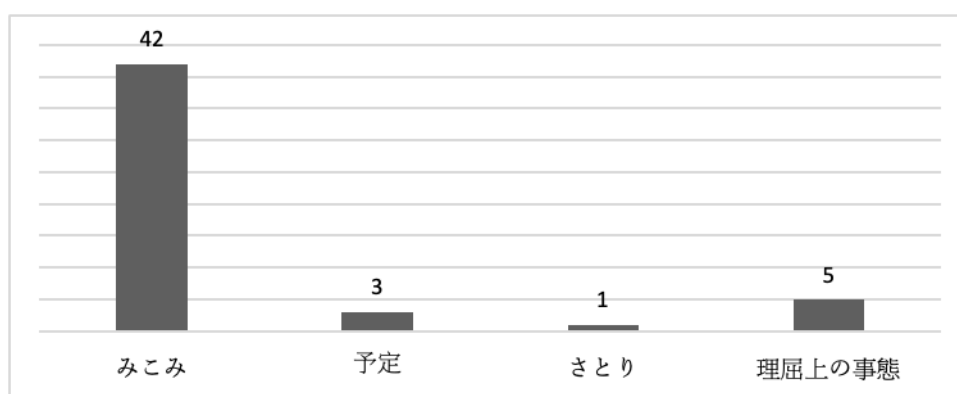
（『公共哲学とはなんだろう』）

現実との対立がある場合、表現者は「何らかの理由で実現しなかった当該事態の成立に正当性がある」と判断したと考えられる。例えば、(12) では、冷蔵庫にろくなものがないという状況から「昼食の配慮ぐらいしてくれてもいい」という当該事態が実際には成立しなかったことが分かる。そして、「病気で会社を休んでいる」という理由に基づいて、当該事態の成立に正当性があると判断されるのである。(14) でも、敵の将兵に人間としての善意を送り、負傷者の介抱をしたという事実が存在する。故に、「敵の将兵を憎むべき」という当該事態は現実と齟齬が生じたと捉えられる。ところが、敵とは本来善意を示す必要のない対象と考えられるので、実現しなかった当該事態は、もともと正当性があると考えられる。このような場合では、文脈上はよく「本来ならば」もしくは逆接の「なのに」や「が」が共起する。評価のモダリティを通じ、「昼食の配慮ぐらいしてくれること」や「敵の将兵を憎むこと」など実現が求められた事態が非実現になったため、表現者は認識のモダリティであるハズが示す理屈を通じて、本来実現すべき事態を理屈上成立する事態として、改めて捉え直すのではないかと考えられる。

2.3.2 現実との対立がない場合

現実との対立がない場合には、判断時において当該事態の実現が未確認の〈みこみ〉〈予定〉〈記憶〉、事態の実現が確認済みの〈さとり〉、そして実現が問題とされない〈理屈上の事態〉という場合が考えられる¹⁶⁾。合計 51 例中のそれぞれの用例数を図 5 に示す。

図 5：「評価のモダリティ+ハズ」における意味用法の実態



最も出現率が高いのは 82.3%の〈みこみ〉(51 例中 42 例)であり、どの形式とも共起する実例が存在し、他の用法とかなりの差異が認められる。

〈みこみ〉

- (18) 統合性失調症って精神分裂病の今の言い方ですよネ??なんらかの因子がなければならぬはずですが・・・(「Yahoo!知恵袋」)
- (19) おごってやるからには隣に座ってもいいはずだ。この考えに間違いはないか、ワタルは考えた。(『いつでもやりたい』)
- (20) 「こいつはまずい。“動いている球”は打ってはいけなかったはず」と思い、クラブを振り下ろすのを中止した。(『わかりやすいゴルフのルール』)
- (21) その世界が切迫し、危機を孕んだものであるとするなら、作品もまたおのずからに切迫と危機とを内容とし、同じように一首のかたちとし息吹きとしてうたわれていくべきはずである。(「Yahoo!ブログ」)
- (22) さてそのキャンペーンだが、大きく分けて2種類。入会時限定など条件付きの“一過性”、内容を見直しつつ継続していく“常設”。ピンポイントでお得な一過性キャンペーン目当てにカードを乗り換えていくのが面倒な人は、長期にわたりメリットが得られたほうがいいはず。(『DIME (ダイム)』)
- (23) 直接会うほうが不安が大きいという人は、自意識過剰ではないですか?自意識過剰ではなく、当然の不安だというのであれば、そういう女性は芸能界にでも入って、マネージャーをつけてもらえばいいはず。(「Yahoo!知恵袋」)
- (24) しかし、その感覚を日常的に接しているすべての他者と共有できているのかと問われれば、おそらく多くの人は否定的に回答せざるをえないはずである。

(『理解できない他者と理解されない自己』)

これらの当該事態は、いずれも判断時の推論行為による未確認の帰結と判定されたものである。例えば、(18)の「なんらかの因子がなければならぬ」という当該事態は、精神分裂病が生じる際に理屈上成り立つことであると考えられているが、判断時にはその真偽性が未確認であることを述べているのである。(19)の「隣に座ってもいい」というのも前件の「奢ってやるから」という事態に基づく当然許容される帰結であるが、実際判断時に相手の許可をもらったわけではない。(20)の「動いている球は打ってはいけなかった」ことは現況をもとに行われた判断であるため、判断時にその事態の真偽を確認する余地がなかったと考えられる。

いっぽう、〈予定〉と〈さとり〉及び〈理屈上の事態〉の例は極めて少数で、この三つの場合を合わせても全体の 4.5% (全 200 例中 9 例) しか占めていない。

〈予定〉

- (25) 例の自費出版本が遅れて、このところ残業がつづいていた。すべて著者の都合だったが、印刷や製本の日程は自動的に決まってしまうから、あとは編集がもろに

皺寄せを受けてしまう。きょうはもちろん、あすも出勤しなければならないはず
だった。（『あした蜚蜉の旅』）

〈さとり〉

（26）つまり、いきなり世界革命を成功させることは困難だから、まず、ソ連一国にお
ける社会主義的建設を成功させて、十分に力をつけてから、ソ連を基地として世
界革命をおしすすめようというわけだ。その後、フルシチョフによるスターリン
批判、さらにフルシチョフの失脚などがあつたが、この点に関するかぎり、原則
的には、絶対に変更のあるはずはない。 こういうわけだから、ソ連国民は、かた
くマルクス主義のイデオロギーを信奉し、世界革命のために情熱をもやしつづ
なければならないはずである。（『ソビエト帝国の崩壊』）

〈理屈上の事態〉

（27）また、保険料は、その月の末日に加入している保険で支払先が変わりますので、
十一月入籍して十一月三十日現在でご主人の扶養であれば、国民年金は十月分ま
で支払えばいいはずです。（「Yahoo!知恵袋」）

（25）における「あすも出勤しなければならない」という事態は、「例の自費出版本」を
完成させるためのすでに決まった「予定」としてみなしてよい。また、（26）における「ソ
連国民は、かたくマルクス主義のイデオロギーを信奉し、世界革命のために情熱をもやし
つづけなければならない」という事態は、波線部の歴史的事態を再確認したため、〈さとり〉
として捉えられる。そして、例（27）では、「国民年金は十月分まで支払えばいい」という
事態が、法律上の決まりとして叙述される、前件の条件節に基づく必然的な帰結である。
いずれにせよ、これらの例は現実とは対立していない。

3. 考察と結論

本節の考察により、「評価のモダリティ+ハズ」の連鎖の特徴として、次の二点が挙げら
れる。

- ① 認識のモダリティのハズと共起しやすい形式は、ナケレバナラナイとテモイイであ
る。
- ② ハズの使用実態と比較すれば、「評価のモダリティ+ハズ」の用例は、明らかに現実
との対立がある場合〈事態の正当性〉に偏っている（74.5%（全 200 例中 149 例））。
また、現実との対立がない場合（51 例）は〈みこみ〉が多い（82.3%（51 例中 42
例））。

まず①については、ナケレバナラナイとテモイイにもともと認識的な用法の存在が背景
にあると考えられる。日本語記述文法研究会（2003）では、次の例のようにナケレバナラ
ナイが論理的必然性を表し、テモイイが論理的可能性を表すケースがあると指摘している。

（28）a. 2 時間前に出発したのなら、もう到着していなければならない。

b. 田中さんは、2時間前に家を出ているそうだから、そろそろこちらに到着してもいい。(日本語記述文法研究会(2003)による例文)

ナケレバナラナイとテモイイにはこうした論理的必然性と論理的可能性という二つの論理表現を成立させる。このことにより、当該事態を理屈上成り立つと判断するハズと意味的に合致するため、共起しやすいのではないかと考えられる。

次に、②について、「評価のモダリティ+ハズ」の使用実態で〈事態の正当性〉が圧倒的に多いのは、評価のモダリティを通してその実現が求められた事態が実現せず、その上で表現者が評価のモダリティが含まれる当該事態を理屈上成立すると改めて捉え直すためである。即ち、実現がもはや問題とされない事態であるからこそ、ハズを通じてこうした事態を理屈上成立することとして認識しやすいのである。

ところで、〈みこみ〉も21%(全200例中42例)の出現率があるのはなぜであろうか。〈事態の正当性〉と〈みこみ〉は現実との対立があるか否かが異なるが、〈事態の正当性〉は、何らかの理由で実現しなかった当該事態の成立に、理屈上の帰結としての正当性があると判断する場合である。その一方、〈みこみ〉では当該事態は話し手の推論行為による帰結である。両者ともに「推論行為」が介在している。このことにより「評価のモダリティ+ハズ」という連鎖では、当該事態は表現者による判断の結果であるという特徴がある。その理由について、当該事態に含まれる評価のモダリティは本来表現者の判断を表すものであるためのではないかと考えられる。

おわりに

本稿は、益岡(1991)などの先行研究に従い、評価のモダリティと認識のモダリティは基本的にパラディグマティックな関係にあるという立場に立つ。その上で、ハズの用例を通じて、語用論的な観点から評価のモダリティとの連鎖の意味特徴を考察した。主な考察結果として、「評価のモダリティ+ハズ」においては、〈事態の正当性〉という用法に偏っていることが判明した。この場合、評価のモダリティが取り上げた事態は非実現となったが、その実現性がすでに問題とはならないため、表現者がハズを通じて理屈に依存する事態の正当性を叙述する。〈事態の正当性〉という場合には連鎖の意味上の特徴が存在すると考えられる。

なお、評価のモダリティと他の認識のモダリティとの連鎖の特徴は今後の課題としたい。

注

- 1) 本稿はこのように評価のモダリティと認識のモダリティが同一文中に現れる場合は、前者を二重下線で、後者を一重下線で示している。
- 2) 本稿では、「はず」を言及する際、鍵括弧を多用することを避けるため、カタカナのハズで統一する。

- 3) 例えば、益岡（2007）は両者を価値判断のモダリティと真偽判断のモダリティ、仁田など（2000）は価値判断のモダリティと認識のモダリティと名付けている。また益岡（2007）では、無標形式の \emptyset も価値判断のモダリティに属すると扱われ、仁田など（2000）では、価値判断のモダリティで特にバイイ・タライイ・トイイという三つの形式に言及されていない。紙幅のため、先行研究におけるそれぞれのモダリティ形式の分け方を探究することは別稿に譲りたい。
- 4) 評価のモダリティについて、特にその意味特徴から詳しく検討したのは高梨（2010）である。高梨は、評価のモダリティを「ある事態が実現することに対して、必要だ、必要でない、許容される、許容されないといった評価を表すもの」と定義している。
- 5) その他、杉村（2001）は、ベキダ・ハウガイイを「ベキ-ダ」「ハウガイイ- \emptyset 」のように捉え、「 \emptyset /ダ」を除く部分は命題として機能するという。そして、そのことから、認識のモダリティと共起される「政府は景気対策をするベキ-ダ」「政府は景気対策をするベキ-カモシレナイ」「政府は景気対策をしたハウガイイ- \emptyset 」「政府は景気対策をしたハウガイイ-ヨウダ」というような例を説明している。
- 6) 一方、尾上（1999）、野村（2003）、岡部（2013）などのように、モダリティという概念を非現実の事態を語る形式として捉える研究もある。
- 7) 仁田など（2000:87）は、認識のモダリティがすべて評価のモダリティと共起するわけではなく、ダロウとの共起は容易であるものの、ニチガイナイ・ヨウダ・ラシイ（伝聞的用法を除く）は共起が困難であると指摘している。ただし、この偏差の原因については説明されていない。
- 8) こうした形式について、益岡（1991）は二次的モダリティ形式、仁田など（2000）は疑似モダリティ形式としている。他方、益岡はこのように用いられないモノダとコトダは、一次的モダリティとし、仁田は真正モダリティとする。
- 9) 現代日本語研究では、国広（1982）、森田・松木（1989）、益岡（1991）、仁田（1991）、奥田（1993）、三宅（1995）など多くの研究は、コピュラ辞が含まれるハズダを認識のモダリティ形式として捉え、論じてきた。しかし、重見（2004:74）のようにハズが連体修飾節として単独で使われる場合においても、ハズダと同様に「推量」というモダリティ性があると指摘する研究もある。本稿は重見と同じ立場に立つ。例えば、次のようにハズが連体修飾節となる例も、主名詞の彼女との関係を踏まえると、「彼女の結婚生活は幸せいっぱいであつたはず」という元の文に還元でき、そこには推量判断が存在している。
- ・ 幸せいっぱいであつたはずの彼女の結婚生活も、その回想の中に映し出されるものを覗けば、「あれっ」と思わずにはいられないような代物である。（『現代イギリス女性作家を読む』）
- 10) 例えば益岡（1991:117）は根拠を示すカラ節などと共起できることを証拠に挙げている。
- ・ 太郎からすぐ行くという電話があつたから、10分くらいでこちらに到着するはずだ。

- 11) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (通常版, BCCWJ-NT)』に基づき、検索語を「はず」にして、合計 31267 件の検索結果をダウンロードした。「はず」構文の無作為検索のコーパス母集団は BCCWJ 中の以下のコーパスである。なお、「はず」構文のコーパス母集団において、各カテゴリーの出現率も件数の後ろに加える。

出版・新聞 (2001～2005 年, 201 件, 0.6%)、出版・雑誌 (2001～2005 年, 1467 件, 4.7%)、出版・書籍 (2001～2005 年, 9285 件, 29.7%)、図書館・書籍 (1986～2005 年, 11968 件, 38.3%)、特定目的・白書 (1976～2005 年, 34 件, 0.1%)、特定目的・ベストセラー (1972～2005 年, 1749 件, 5.6%)、特定目的・知恵袋 (2005 年, 3289 件, 10.5%)、特定目的・ブログ (2008 年, 2527 件, 8.1%)、特定目的・国会会議録 (1976～2005 年, 484 件, 1.5%)、特定目的・広報紙 (2008 年, 86 件, 0.3%)、特定目的・教科書 (2005～2007 年, 122 件, 0.4%)、韻文 (1980～2005 年, 55 件, 0.2%)。

本稿は上の「はず」構文のコーパス母集団からさらに 500 例を無作為に抽出した。抽出用例データの詳細は次の通りである。各カテゴリーの出現率については、その順番が母集団コーパスと同じで、出現率の差は 0.1%～2.7%の間にある。このことにより、抽出用例データは母集団コーパスに反映されているのではないかと考えられる。なお、実例を考察する際、否定形の「はずがない」「はずもない」「はずではない」などを排除した。また、翻訳文は原文からの影響の可能性を考慮して、これらも除外した。

出版・新聞 (2002～2004 年, 3 件, 0.6%)、出版・雑誌 (2001～2005 年, 24 件, 4.8%)、出版・書籍 (2001～2005 年, 135 件, 27%)、図書館・書籍 (1986～2005 年, 204 件, 40.8%)、特定目的・白書 (1986 年, 1 件, 0.2%) 特定目的・ベストセラー (1972～2005 年, 30 件, 6%)、特定目的・知恵袋 (2005 年, 46 件, 9.2%)、特定目的・ブログ (2008 年, 44 件, 8.8%)、特定目的・国会会議録 (1976～2005 年, 9 件, 1.8%)、特定目的・広報紙 (2008 年, 2 件, 0.4%)、特定目的・教科書 (2006 年, 1 件, 0.2%)、韻文 (2005 年, 1 件, 0.2%)。

- 12) ただし、この分類では明瞭に区分できない例も出てくる。〈事態の正当性〉では、次のような例文は〈記憶〉と解釈してもよい場合がある (合計 3 例)。

・市ヶ谷再編の夢は無残にも砕かれたわけです。そして絶望した者の数があるレベルに達した時、破棄されたはずの計画がひとり歩きを始めた。(『川の深さは』)

この例において、ハズの判断内容の「(計画が) 破棄された」は記憶の中の事態としても捉えられる。ただし、後段の「ひとり歩きを始めた」という文脈をみれば、その判断内容が現実と対立することが分る。現実と対立していることから、本稿はこのような例文を〈事態の正当性〉として扱うが、岡部 (2003) の分類は中間的な例文もあることを認めている。

- 13) 本稿はこのように用法に関わる文脈には波線を付している。
- 14) その中には、評価のモダリティのタ形とテイル形が介在する場合は 20 例ある。テモイイの実例には、内側の否定であるナクテモイイも含まれ、合計 7 例である。

- 15) 便宜のため、ナケレバナラナイ、ザルヲエナイ、テハイケナイ、ベキ、ハウガイイ、バイイ、テモイイはそれぞれ表2のように、ナ、ザ、テハ、ベ、ホ、バ、テのように略している。さらに、「評価のモダリティ+ハズ」は「評+ハズ」のように表記する。
- 16) ただし、〈記憶〉に相当する実例が見当たらない。理由は、評価のモダリティは事態に必要だ、必要でない、許容される、許容されないという評価を与えるものであるため、それらの意味が記憶という概念とは両立しないからではないかと考える。

参考文献

- 奥田靖雄（1993）「説明（その3）—はずだ」『ことばの科学』6、179-215 頁。
- 岡部嘉幸（2003）「ハズダとニチガイナイについて両者の置き換えの可否を中心に」『日本語科学』13、109-122 頁。
- 岡部嘉幸（2013）「モダリティに関する覚え書き」『語文論叢』28、96-75 頁。
- 尾上圭介（1999）「文の構造と“主観的”意味—日本語の文の主観性をめぐって・その2」『言語』28（1）、95-105 頁。
- 国広哲弥（1982）『ことばの意味3』平凡社。
- 重見一行（2004）「「はずだ」文の構造と表現意義」『語文』83、71-81 頁。
- 杉村泰（2001）「現代日本語における文末表現の主観性：ヨウダ、ソウダ、ベキダ、ツモリダ、カモシレナイ、ニチガイナイを対象に」『世界の日本語教育・日本語教育論集』11、209-224 頁。
- 高梨信乃（2010）『評価のモダリティ』くろしお出版。
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版。
- 益岡隆志（2007）『日本語モダリティ探究』くろしお出版。
- 松本正恵（1993）「「～はずだった」と「～はずがない」—過去形・否定形と話者の視点」『早稲田大学教育学部学術研究（国語・国文学編）』42、1-14 頁。
- 三宅知宏（1995）「ニチガイナイとハズダとダロウ」（宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（上）』くろしお出版）、190-196 頁。）
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩（2000）『モダリティ』岩波書店。
- 森田良行・松本正恵（1989）『日本語表現文型』株式会社アルク。
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法④モダリティ』くろしお出版。
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。
- 野村剛史（2003）「モダリティ形式の分類」『國語學』54、17-31 頁。
- 用例出典：『現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版』

The Connective Characteristics Between Deontic Modality and Epistemic Modality : A Study with Practical Application of “ハズ”

WANG, Tzu-Min

Abstract

In this paper, we can further comprehend the connection between “Deontic Modality” and “Epistemic Modality”. Take “ハズ” (an Epistemic Modality) as an example, under consideration of pragmatics, the instance from the BCCWJ-NT compares the exclusive use of “ハズ” and usage followed by the “Deontic Modality”. In the same statement, we describe the relationship as “Deontic Modality + ハズ”. The connective characteristics of the “Deontic Modality + ハズ” are as below: Compared with the exclusive usage of “ハズ”, the proposition described by the “Deontic Modality + ハズ” is obviously opposite to reality. About the root cause of the consequences, we consider that the proposition described by the “Deontic Modality” has not implemented, so the presenter adopts the usage of “ハズ” to restate it as a theoretically tenable proposition, emphasize its theoretical property.

Keywords : Connective Characteristics, Non-Existence, Opposite to Reality, Theoretical Property, Theoretical Existence.

「性向語彙」における「特別にきれい好きな人」の日中対照研究 —「過剰価値」を中心に—

施 暉（蘇州大学）、李 凌飛（蘇州大学大学院生）

要旨

日中両言語における「特別にきれい好きな人」という意味項目の調査と対照を通じ、異なり語数といい、延べ語数といい、中国語の方が日本語を超え、中国人の対人評価においてその語彙が豊かで、より強い造語力に富んだことが明らかになった。なかんずく「過剰価値」が働いたため、「特別にきれい好きな人」及び行為に関する評価は、プラス指向からマイナス指向へ著しく傾斜し、その傾向性は両言語で一致している。さらに、両言語はマイナス評価視点においても、プラス評価視点においても、明らかな共通点を見せているものの、相違点も察知できる。

キーワード： 性向語彙、過剰価値、擬自然喩、擬人喩、身体の性向化

はじめに

“新文科”という改革は中国において盛んな勢いで推進されている。“新文科”とは、「突破传统文科的思维模式，以继承与创新、交叉与融合、协同与共享为主要途径，促进多学科交叉与深度融合，推动传统文科的更新升级（伝統的な人文科学の研究様式を突破するために、踏襲と革新、横断型と融合型、協力と共有を主なアプローチとし、異なる学問分野の深い融合を促進させ、伝統的な人文科学の更新を加速させる）」（田・賈 2020:79）という理念である。40年近くの模索期と発展期を経て、中国における日本語学研究は豊富な成果が蓄積されているものの、停滞期に陥る危険も随伴していると認めざるを得ない。更なる発展を妨げる難関を切り抜け、日本語学研究の新天地を開拓しようとするには、学際的な研究を推し進めるべきだという提案は幅広い支持を獲得している（王ら 2021）。このような流れの中に、言語学、社会学、文化学、人類学といった諸分野の理論と成果を融合させて駆使する必要がある「性向語彙」についての研究（室山 2004）は、まさに苦境を打開し、“新文科”の理念を実践する有意義かつ重要な試みであるといつてよからう。

性向語彙は、「対人評価の実態とその構造的特質を言語の側にあつて最も具体的かつ端的に示すものであり、他者の生まれつきの性格や日ごろの振る舞いなどを評価の視点から把握し、表現する言葉のまとまり」（室山 2001:6）とされる。藤原（1962）、室山（1987、2001、

2004、2012）など、日本の方言性向語彙に関する先行研究を踏まえて、施と欒の研究グループは調査票を改善し、2003年7月から2014年12月にかけて、日中両国でアンケート調査を実施し、性向語彙を大量に採録した。その上、施・欒（2014a、2014b、2015a、2016a、2016b、2017a、2017c、2019）、施・李（2021）は異なり語数と延べ語数のベスト10に当たる評価項目¹⁾を中心に、日中両言語の対照研究を試みた。性向語彙についての研究は、語数の多寡や語彙体系、語構成などの言語内部の規律を帰納することにとどまらず、計量、記述及び対照などによって、「それぞれの言語文化における行動原理や対人評価、更には労働に対する価値観や理想的な人間像を解明することが可能となる」（施・欒 2019:55）ことを最終の目的としている。本論文はベスト10に入った意味項目「特別にきれい好きな人」に対しての性向語彙を取り上げて考察、比較を行なうことによって、日中両国人の共通点と相違点を明らかにすると共に、両言語の社会的規範、価値指向、対人評価の特質にも究明することとする。はじめて対照言語学の視野から日中両国人が認識している「特別にきれい好きな人」を解読する本論は、日中両国の「性向語彙」に関する研究を推し進めることに寄与すると期待できる。

1. 日中両国の「特別にきれい好きな人」について

施・欒（2015a）の調査は111意味項目を含んでいるが、室山（2001）に基づいて、その下位分類に対して上位分類としては、「(1) 動作・行為の様態に関するもの、(2) 言語活動の様態に関するもの、(3) 精神の在り方に関するもの」という3つの意味分野に大きく分節されている（文末に添付したシソーラスを参照）。「特別にきれい好きな人」は第16項目で、第1項目「働き者」とともに動作・行為の様態に関する意味項目であるが、「働き者」は仕事に対する態度に関している一方、「特別にきれい好きな人」は具体的な動作・行為の様態を踏まえた恒常的な性向と繋がる（施・欒 2017b）。アンケート調査は、日中両国合計460名（両国それぞれ社会人130名＜男女それぞれ65名＞、大学生100名＜男女それぞれ50名＞）を対象に行なった。具体的な方法は、調査協力者に文末に添付してある111の評価項目に当てはまると思う言葉を自由式で各項目に記入させる方法を取った（施・李 2021:27）。また、下の表1から表6まで見られるように、本論はプラス（正）、マイナス（負）及びニュートラル（中性）という3つの評価視点から採集された性向語彙を分類している。評価視点の認定について、日中両国のそれぞれ20名母語話者を対象に、アンケート調査と面接調査を実施した（施・欒 2015a:114）。

第16項目「特別にきれい好きな人」は、称賛に値すべき性向行為であるとはいえ、「きれい好きな人」は「指向価値」、即ち人々が望ましいとする評価価値を反映する意味項目と異なり、「特別にきれい好きな人」は「指向価値」を超えた評価価値、いわゆる「過剰価値」を示すものと解かれている（施・欒 2015b:40）。室山（2001:62）によると、「そのバランス指向とは、誰もが協働できる〈平準的な労働〉を地域社会にける労働秩序の規範（指向

価値)として位置づけ、それから逸脱する〈過小価値〉と〈過剰価値〉を設定し、それとともに否定することによって、地域社会の成員に共通して課せられる〈指向価値〉を鮮明の焦点化し、そこへ収斂するという、実に巧みなメカニズムである」という。111 意味項目の中に、例えば、プラス評価の第7項目「人一倍仕事に熱中する人」においても、マイナス評価語(「単純、仕事の虫、仕事馬鹿」など)が少なからず見られる(施・欒 2017b)。因みに、「人一倍仕事に熱中する人」に対する評価は、全ての村落社会で負の性向と評価されている(青木保 2002:142)。簡潔に纏めれば、第7項目と第16項目において、「過剰価値」が機能し、プラス評価からマイナス評価へと傾斜しており、「負性原理」を通して人々に必要以上にせずに、過不足するように戒めようとする。つまり、「特別にきれい好きな人」は「人一倍仕事に熱中する人」と共に、「人並み・世間並みを超える必要以上」「過剰価値」の行動を拘束、抑制するのに役立つものと考えられる。

きれい好きか否かは個人的な嗜好のようであるが、対人コミュニケーションの場合となると、人間関係にも影響を与えるに相違はない。それが原因で、日中両国人²⁾は第16項目「特別にきれい好きな人」に強い興味を示し、多様な視点からその性向の持ち主及び行為を形容、評価し、「その物事を表現する語彙量も種類も豊富多彩となり、意味構造も複雑で且つ重層となる」(施・欒 2014a:19)。以下は、この意味項目に対する分析及び日中対照を行なうことによって、思惟方法や価値判断、評価視点などに投影される日中両国人の異同点を解明していきたい。

1.1 中国語(異なり語数81語、延べ語数299語)

表1 (正) 異なり語数41語

讲卫生的人 衛生に気をつける人9	讲究的人 こだわりのある人6	讲卫生 衛生に気をつける6	爱清洁的人 清潔が好きな人5	整洁 清潔4	一尘不染 塵一つも見逃さない3	干净 清潔2
一尘不染的人 塵一つも見逃さない人2	清爽的人 爽やかな人2	洁净的人 清潔な人2	爱收拾 片付けが好き2	爱干净 清潔が好き2	干净利落 清潔で速やか2	洁净 清潔2
整洁的人 清潔な人1	体面 体裁がよい1	讲究 こだわりのある1	衣冠整洁 衣装がきれい1	好亮丽 明るくてきれい1	清爽 爽やか1	秀丽端庄 きれいで淑やか1
爱收拾的人 片付けが好き な人1	勤劳 勤勉1	卫生的人 衛生的な人1	很清爽的人 超爽やかな人1	爱清洁 清潔が好き1	讲究卫生 衛生に気をつける1	清清爽爽 爽やか1
利落的人 速やかな人1	满清爽 結構爽やか1	漂亮 きれい1	整齐清洁 几帳面で清潔1	利落 速やか1	文明人 文明人1	爱清爽 清爽が好き1
清洁的人 清潔な人1	要清爽 清爽が好き1	眉清目秀 眉目秀麗1	爱干净的人 清潔が好きな人1	冰清玉洁 玉や氷のよう に清らか1	干净整洁的人 几帳面で清潔な人1	

表 2 （中性）異なり語数 4 語

怕脏的人 汚いのが嫌いな人 2	极为讲究的人 大変こだわりのある人 1	特爱清洁 1 特に清潔が好き	护士 看護婦 1
--------------------	------------------------	-------------------	-------------

表 3 （負）異なり語数 36 語

洁癖 潔癖 125	有病 病気 14	臭美 派手に着飾る 12	太讲究 こだわりすぎる 10	有洁癖的人 潔癖がある人 7	有洁癖 潔癖がある 6	洁癖症 潔癖症 5	洁癖鬼 異常に潔癖な人 5
清洁癖 潔癖 3	洁癖精 異常に潔癖な人 3	有毛病 病気 2	装蛋 派手に着飾る 2	邋遢 だらしない 1	心理障碍 精神障害 1	麻烦的人 面倒くさい人 1	洁癖的人 潔癖な人 1
花枝招展 派手に着飾る 1	臭讲究 無理にこだわる 1	神经病 神経質 1	小白脸 ジゴロ 1	挑剔 好き嫌いが激しい 1	骚货 淫らか女 1	臭倒持 派手に着飾る 1	油头粉面 派手に化粧をする 1
有问题 異常 1	变态 変態 1	太认真 くそ真面目 1	洁癖狂 狂うように潔癖な人 1	臭美的人 派手に着飾る人 1	假干净 見せかけの清潔 1	洁癖者 潔癖な人 1	外面光 見せかけのきれい 1
超级洁癖狂 狂うように超潔癖な人 1	挑肥拣瘦 好き嫌いが激しい 1	败血病的人 敗血症にかかっている人 1	涂脂抹粉 派手に化粧をする 1				

語数を統計処理するに際して、本論は異なり語数と延べ語数という両視点に立って計量に当たった。延べ語数とは言葉の多様性を無視し、同じ単語でも用いられる度ごとに加算して得られる総数で統計する方法である（施・欒 2015a:114）。例えば、表 1 の“讲卫生的人（衛生に気を付ける人）”の後につけられる数字「9」は、アンケート用紙にこの言葉を記入した調査協力者は 9 名あるという意味である。一方、異なり語数とは同じ単語が何回用いられても一語とカウントし、全体で異なる単語がいくつかあるかを集計する方法である（施・欒 2015a:114）。つまり、異なり語数で統計すれば、先に挙げた“讲卫生的人（衛生に気を付ける人）”は 1 語とカウントする。

「きれい好きな人」と比較すれば、第 16 項目「特別にきれい好きな人」及び行為は「きれい好き」の度合いにおいて一段と高まり、称賛と認可を獲得すべきと推測したが、表 3 に見られるように、マイナス評価語の異なり語数は 36 語に達して、全体の 44.4%を占めている。中国人が「過剰価値」を辛辣に非難する姿は鮮明に展示されている。

延べ語数の 1 位“洁癖（潔癖）”125 語、2 位“有病”（病気）14 語、3 位“臭美”（派手に着飾る）12 語、4 位“太讲究”（こだわりすぎる）10 語を合わせてみると、161 語あり、全延べ語数の 53.8%に達して、過半数を超えている。以上の 4 語は全てマイナス評価に使

用されることに注意を要する。言い換えれば、「過剰価値」の働きによって、「特別にきれい好きな人」のマイナスな一面がかなり目立つようになる。中国人が“洁癖（潔癖）”を代表とするマイナス評価語を多用することで、人並み以上に清潔にこだわらないように人々を戒めている腐心が読み取れる。マイナス評価語から反映される中国の「特別にきれい好きな人」の意味特徴は大きく「清潔に気を付けすぎる」と「見せかけの清潔が好き」の2点からなっている。

第一、清潔に気を付けすぎる（人あるいは行動）

(1) こだわりすぎる：太讲究（こだわりすぎる）、臭讲究（無理にこだわる）、挑肥拣瘦（好き嫌いが激しい）、挑剔（好き嫌いが激しい）、太认真（くそ真面目）

(2) 異常（な人）：洁癖（潔癖）、清洁癖（潔癖）、有洁癖的人（潔癖がある人）、洁癖的人（潔癖な人）、洁癖者（潔癖な人）、洁癖鬼（異常に潔癖な人）、洁癖精（異常に潔癖な人）、洁癖狂（狂うように潔癖な人）、超级洁癖狂（狂うように超潔癖な人）、有病（病気）、有毛病（病気）、败血病的人（敗血症にかかっている人）、神经病（神経質）、心理障碍（精神障害）、有问题（異常）、变态（変態）

(3) 付き合いにくい（人）：麻烦的人（面倒くさい人）

第二、見せかけの清潔が好き（な人あるいは行動）

(4) 着飾りや化粧が派手（な人）：臭美（派手に着飾る）、臭美的人（派手に着飾る人）、装蛋（派手に着飾る）、花枝招展（派手に着飾る）、臭倒持（派手に着飾る）、涂脂抹粉（派手に化粧をする）、油头粉面（派手に化粧をする）、假干净（見せかけの清潔）、外面光（見せかけのきれい）、骚货（淫らかな女）、小白脸（ジゴロ）

マイナス評価視点にしてみれば、「こだわりすぎる」や「好き嫌いが激しい」といった性向行為は他人に不便、ひいては迷惑をかけやすく、相手に嫌われた挙句、面倒くさい人間と貶される恐れがある。前述したように「特別にきれい好きな人」は個人的な嗜好とはかぎらないが、人間関係にも一定の影響を与えることが裏付けられている。また、中国人の目に映っている「特別にきれい好きな人」は「精神が異常で、病気にかかっている」という特徴が賦与され、しかもその視点によるマイナス評価語の数はもっとも多数である。「性向語彙はその対人評価視点と程度には多様化と弱から強への展開という特徴を見せている」と施・欒（2016a:23-24）は解いている。「特別にきれい好きな人」においてもその特徴が一層明らかである。例えば、“洁癖人（者）（潔癖がある人）”→“洁癖鬼（異常に潔癖な人）、洁癖精（異常に潔癖な人）”→“洁癖狂（狂うように潔癖な人）”→“超级洁癖狂（狂うように超潔癖な人）、“有问题（異常）”→“有毛病（病気）、有病（病気）”→“神经病（神経質）”の如く、「異常にきれい好きな人」及び行為に対する風刺と批判の度合いは

段階を追って強まっていく。さらに、施（2017b、2017d）などの先行研究で明らかにされた性向語彙の性別差は、中国の「特別にきれい好きな人」にも存在している。例えば、“骚货（淫らかな女）”は専ら女性を侮辱するのに用いられる反面、“小白脸（ジゴロ）”は殆ど男性を皮肉る差別語とされる。

一方、中国人のプラス評価について下記のような特徴がまとめられる。

(1) 清潔に気を付ける（人）：讲卫生（衛生に気を付ける）、讲究卫生（衛生に気をつける）、讲卫生的人（衛生に気をつける人）、讲究（こだわりのある）、讲究的人（こだわりのある人）、爱清洁（清潔が好き）、爱清洁的人（清潔が好きな人）、爱干净（清潔が好き）、爱干净的人（清潔が好きな人）、爱清爽（清爽が好き）、要清爽（清爽が好き）、爱收拾（片付けが好き）、爱收拾的人（片付けが好きな人）、文明人（文明人）、勤劳（勤勉）

(2) 清潔（な人）：整洁（几帳面で清潔）、整洁的人（清潔な人）、整齐清洁（几帳面で清潔）、洁净（清潔）、洁净的人（清潔な人）、清洁的人（清潔な人）、清爽（爽やか）、清清爽爽（爽やか）、清爽的人（爽やかな人）、满清爽（結構爽やか）、很清爽的人（超爽やかな人）、干净（清潔）、干净利落（清潔で速やか）、干净整洁的人（几帳面で清潔な人）、冰清玉洁（玉や氷のように清らか）、利落（速やか）、利落的人（速やかな人）、一尘不染（塵一つも見逃さない）、一尘不染的人（塵一つも見逃さない人）、卫生的人（衛生的な人）

(3) 身ざれい（な人）：体面（体裁がよい）、衣冠整洁（衣装がきれい）、好亮丽（明るくてきれい）、漂亮（きれい）

(4) 容貌がきれい（な人）：秀丽端庄（きれいで淑やか）、眉清目秀（眉目秀麗）

中国人は「特別にきれい好きな人」を褒めるに際して、速やかに動く動作、衛生に気を付けたりするような性格といった点にウエイトを置きながら、衣装や容貌の称賛にも力点を据えている。同じく容貌に立脚する評価語であっても、“衣冠整洁（衣装がきれい）、秀丽端庄（きれいで淑やか）”はプラス評価語に対し、“涂脂抹粉（派手に化粧をする）、油头粉面（派手に化粧をする）、外面光（見せかけの清潔）”などはマイナス評価として使用される。外見をきれいに見えるように適度に身繕いをすれば、相手に清潔感と好感を感じさせるプラス効果をもたらせるが、もし化粧などが度をすぎるほど派手であれば、評価はマイナスの方向へ傾斜してしまうことが一目瞭然となる。つまり「負性原理」が働いて、中国語の性向語彙における「過剰価値」は「人並み指向」を構築、維持するうえで極めて重要な役割を果たしている。

プラス評価語の中に、“文明人（文明人）”は目を引いている。文明人は生理、知能、心理、行動といった様々な方面で先進的な地位にあり、生産力の発展に対して貢献があり、時代をリードできる素質が高い人を指すことが一般的である。この語が「特別にきれい好きな人」に対しての嘉賞に用いられる理由は、衛生に気を付けたり、清潔を保ったりするのも現代中国人が文明人を判断する基準になっていることを物語っている。要点をつかんていえば、中国人に好まれる「特別にきれい好きな人」の特徴を「清潔＋速やかな動き＋

きれいな衣装+きれいな容貌」のようにまとめることができる。

なお、考察を造語発想に移れば、中国人は以下のような造語法を運用することで性向語彙を作り出している。

第一、擬自然喩

自然現象：冰清玉洁（玉や氷のように清らか）

植物：花枝招展（派手に着飾る）

物事：装蛋（派手に着飾る）、涂脂抹粉（派手に化粧をする）、挑肥拣瘦（好き嫌いが激しい）

想像物：洁癖鬼（異常に潔癖な人）、洁癖精（異常に潔癖な人）

第二、擬人喩

職業：护士（看護婦）

第三、身体の性向化

目：眉清目秀（眉目秀麗）

顔：体面（体裁がよい）、外面光（見せかけの清潔）、小白脸（ジゴロ）

頭：油头粉面（派手に化粧をする）

病態：洁癖（潔癖）、洁癖症（潔癖症）、清洁癖（潔癖）、有病（病気）、有毛病（病気）、神经病（神経質）、心理障碍（精神障害）、败血病的人（敗血症にかかっている人）、变态（変態）

中国語に使用される造語法の最も顕著な特徴は、「こだわりすぎる、清潔に気を付けすぎる」人及び行為を潔癖、神経質、敗血症などの癖あるいは病気と関連させ、警鐘を鳴らすということである。また、想像に生きる“鬼（鬼）、精（精霊）”を認識した上で、潔癖の強い度合いを突出させながら、嫌悪と批判をありありと伝えられる接尾辞として使うことにも留意すべきである。中国的な比喩表現は、また“护士（看護婦）”が挙げられる。常に衛生に気を付け、清潔を保つのは看護婦を務める人の大切な品質で、それは「特別にきれい好きな人」の評価に使用できる起点であろう。「从评价者自身所在的环境或文化中寻找恰当的喻体。它使比喻新颖独创、活泼自然且又易懂易明（評価者を取り囲む環境あるいは文化の中から適当な喩材を探す。比喩を新奇、活発、適切、平易にさせるように働く）」と施・欒（2018:21）が指摘しているとおり、性向語彙の比喩表現は日常生活から洗練されたものとして、聞いた途端に、具体的なイメージはすぐに脳裏に浮かび上がる利点を見せている。

1.2 日本語（異なり語数 69 語、延べ語数 210 語）

表 4 （正）異なり語数 28 語

几帳面 10	綺麗好き 8	清潔 2	掃除好き 2	清潔感あふれる 2	おしゃれ 1	憧れ 1
特に几帳面な人 1	清潔好きな人 1	清潔感のある人 1	片付け上手な人 1	好感を持たれる 1	丁寧に整頓をする人 1	めちゃくちゃ綺麗好き 1
綺麗 1	まめな人 1	清潔な人 1	綺麗な人 1	身綺麗 1	お掃除好き 1	片付け上手 1
すごく清潔な人 1	きちんとした 1	堅実な人 1	綺麗好きな人 1	すごく片付け上手な人 1	育ちの良い人 1	特別に綺麗な人 1

表 5 （中性）異なり語数 11 語

過ぎたるは及ばない 1	特に清潔な人 1	チリ一つ見逃さない 1	ドレッシースト 1	偉い綺麗好きな人 1
律義な人 1	女性 1	洗い熊 1	完璧な人 1	細部に拘る人 1
整理整頓、掃除をしないではいられない人 1				

表 6 （負）異なり語数 30 語

潔癖症 70	潔癖 30	神経質 17	神経質な人 5	潔癖な人 3	病気 2
片付け魔 2	不清潔 1	潔癖性の人 1	病的に潔癖性のある人 1	見せかけのみの人 1	潔癖主義 1
異常な人はダメ 1	性癖のある人に見られる 1	綺麗好き過ぎる人 1	綺麗な人だけどね 1	近寄り難い人 1	近寄りがたい人 1
汚い 1	異状 1	超神経質 1	奇人 1	気にしすぎ 1	清潔過ぎる人 1
かんしょうやみ 1	けがれ 1	超潔癖症 1	潔癖家 1	精神が細かい人 1	姑根性のある 1

表 6 が示したように、日本語の「特別にきれい好きな人」の性向語彙にはマイナス評価語が 30 語に達し、全異なり語数の 43.4%を占め、中国語の 44.4%と比べれば伯仲の間となる。日本語の「特別にきれい好きな人」という意味項目は中国語のそれと同様、「過剰価値」によるマイナス評価の傾向性が極めて強いものである。延べ語数の 1 位「潔癖症」70 語、2 位「潔癖」30 語、3 位「神経質」17 語を加算すれば 117 語となり、全延べ語数の 55.7%に達している。最も使われている言葉はすべてマイナス評価語で、中国語と似ている一面を呈している。言い換えれば、「過剰価値」の機能が強いように見受けられている。日本人の「特別にきれい好きな人」に対するマイナス評価視点も中国人と同じく、主に「清潔に気を付けすぎる」と「見せかけの清潔が好きである」の 2 点に集中している。

第一、清潔に気を付けすぎる（人あるいは行動）

(1) こだわりすぎる（人）：片付け魔、綺麗な人だけどね、綺麗好き過ぎる人、清潔過ぎる人、気にしすぎ

(2) 異常（な人）：潔癖症、超潔癖症、潔癖、潔癖な人、潔癖性の人、性癖のある人に
見られる、病的に潔癖性のある人、潔癖主義、潔癖家、神経質、神経質な人、超神経質、
精神が細かい人、病気、異常な人はダメ、異状、奇人、かんしょうやみ、姑根性のある

(3) 付き合いにくい（人）：近寄りがたい人、近寄り難い人

第二、見せかけの清潔が好き（な人あるいは行動）

(4) 着飾りが派手（な人）：見せかけのみの人

室山（2001）によると、「特別にきれい好きな人」という意味項目には人間関係に焦点を
当てる方言性向語彙は一語も見られないという。本論文はそれと相違している結果を得て、
中国人だけではなく、「近寄りがたい人・近寄り難い人」のように、日本人も人間関係の立
場に立って「特別にきれい好きな人」を非難、批評していることがわかる。また、おもし
ろいことに、「特別にきれい好きな人」を「不清潔」、「邋邇（だらしない）」などのマイナ
ス評価語で貶すことを通じて対人評価を行うことが「物極まりて必ず反転す」を反映する。
この思惟方式は両国の文化に深く根付いている証明ともなれる。その点について、今後の
追加調査を通じてその動態を探りたい。

さらに、詳細に見てみると、以下のことが指摘できる。日本人は神経質などの病気を生
かして多くの諧謔で風刺の趣の潜んでいるマイナス評価語が巧みに作り出された点におい
て、中国人と類似している。また、中国語に見られた対人評価の分節化、多様化及び評価
程度の多極化といった特徴は、日本語にも洞察でき、より高い関心度の現れである。例え
ば、「潔癖性」→「潔癖家」→「潔癖主義」→「潔癖症」→「超潔癖症」、「神経が細かい」
→「異常」→「神経質・神経質な人」→「病気」→「奇人」のように、人並み以上清潔に
こだわる人及び行為に対する揶揄と批判は徐々に強まっていく傾向にある。他方、「見せか
けの清潔が好き」という角度から「特別にきれい好きな人」を警告する性向語彙は日本語
に「見せかけのみの人」の1語だけあり、中国語と比較すれば、数が少ないのみならず、
マイナス評価の度合いもなかなか中国語には及べない。その他に、衣装、化粧などが特別
に派手という特徴を風刺することによって生まれたマイナス評価語は、日本語に確認でき
ず、中国語と好対照を成している。

次に日本語のプラス性向語彙を検討するが、その対人評価視点は次のようになる。

(1) 清潔に気を付ける（人）：几帳面、特に几帳面な人、まめな人、堅実な人、綺麗好
き、綺麗好きな人、清潔好きな人、めちゃくちゃ綺麗好き、丁寧に整頓をする人、掃除好
き、お掃除好き、すごく片付け上手な人、片付け上手な人、片付け上手、おしゃれ、

(2) 清潔（な人）：清潔、清潔感あふれる、清潔な人、すごく清潔な人、清潔感のある
人、綺麗、綺麗な人、特別に綺麗な人、好感を持たれる、きちんとした

(3) 身ざれい（な人）：身綺麗

日本人は主として「清潔に気を付ける」と「清潔」の2点を通じて称賛を与えることが浮き彫りになっている。中国人と比べ、日本人は「容貌がきれい」というプラス評価視点を持っていない。その反面、「特別にきれい好きな人」を人々が追求すべき理想的な人間像として尊び、「憧れ」のような性向語彙を以て讃頌するのは、日本人の独特な発想であり、大変興味深い結果である。これは日本人、日本文化との関わりであるが、言語間の文化差を示唆している。

また、日本人に用いられる造語法は、以下のように分類できる。

第一、擬自然喩

動物：洗い熊

物事：几帳面、チリ一つ見逃さない、異状、完璧な人、潔癖家

想像物：片付け魔

第二、擬人喩

人物：女性、姑根性のある

第三、身体の性向化

手足：すごく片付け上手な人、片付け上手

心理精神：精神が細かい人

気：気にしすぎ

病態：潔癖症、潔癖、潔癖な人、潔癖性の人、潔癖主義、性癖のある人に見られる、超潔癖症、神経質、神経質な人、病気、超神経質

日中両国人が類似的想像力、発想力を発揮することは察知できる。まず、日本人は「魔」という想像物を利用し、「片付け魔」で片付けすぎる人と行為を訓戒しているのは、中国人の「清潔にこだわりすぎる人」が“洁癖鬼（異常に潔癖な人）、洁癖精（異常に潔癖な人）”と喩えられて揶揄するのと同工異曲であろう。また、“超级洁癖狂（狂うように超潔癖な人）”、“超神経質・超潔癖”などのように、外来語 super の訳語“超”と「超」の活用によって、清潔を好む程度の激しさを強調するのも中国語と日本語の共通点である。潔癖の程度を大げさに表現するために、日本人は「超」を使う他、「潔癖」の後に「主義」を付け加えることによって、「潔癖主義」が派生し、信仰を堅守するように清潔を徹底的に追求する人々のマイナスなイメージを具象化できる。「潔癖家」を構成する「家」は「主義」と同じく、無理に清潔の維持に力を尽くす癖を目立させることに機能している。

日本語の擬人喩を微視すれば、中国語と以下のような相違点も見られる。中国人は“护士（看護婦）”を「特別にきれい好きな人」と関連させるのは、その職業の特徴からヒント

を得たためである。それに対して、日本人が使う「女性」は、男性より女性の方が清潔が好きである一般的な認識に基づいている。また、「特別にきれい好きな人」とけちをつけたり、嫁さんに家事などをやらせたりする姑の間に類似性があるため、「姑根性のある」という日本的な比喻表現が生まれ、注目すべきである。これは日本人がからかう口調で姑のように好き嫌いが激しい人を扱き下ろす心理はありのままに描き出されている。また、擬自然喩の中に、「特別にきれい好きな人」を「洗い熊」に擬える比喻表現も中国語には見つからない。水辺に棲息している雑食動物として、洗い熊は果実などを食べる前に洗う習性がついている。日本人はその習性に目を向け、「洗い熊」と「特別にきれい好きな人」の類似点を見出し、おもしろみと独創性にあふれた対人評価語の創出に成功した好例だといえよう。

日中両言語における第16項目「特別にきれい好きな人」についての性向語彙に対する分析を通じて、施・欒（2015a:113）で力説されている「両国社会で『過剰価値』という『負性の原理』が機能して、過不足、人並みに働くということが『指向価値』となっている」という論点を再び検証できた。「特別にきれい好きな人」が清潔にこだわる程度は人並みな水準を超えたせいで、プラス評価に値すべき意味項目としても、その価値志向がプラス評価からマイナス評価に下向いて、猛烈な警告と批判を蒙るようになっている。

性向語彙だけではなく、日中両言語の慣用句やことわざなどからも「指向価値」を垣間見られる。例えば、“适可而止（物が行き過ぎないようにする）、不偏不倚（一方に偏らない）”のような成句は中国語に枚挙にいとまがないほどある。中国人が適度を唱導する思惟方式と価値観について、林が著した『中国人』には「中庸の道」という一章があり、その中に次のような正鵠を射た論述がある。つまり「対庸見或通情达理精神的信仰是儒家人文主义的组成部分。正是这种合情合理的精神才使得中庸之道—儒家的中心思想—得以产生……中国人如此看重中庸之道以至于把自己的国家也叫做“中国”。这不仅是指地理而言，中国人的处世方式亦然。这是执中的、正常的、基本符合人之常情的方式（中立的な見解と物知りに対する信仰は儒教の人文主義を構成する内容である。道理をわきまえた精神は中庸—儒教の中心思想—の誕生を促した。中国人は自分の国家を『中国』と名づけているほど中庸を崇めている。『中国』は地理を指すだけではなく、中国人の中立、常識と人情に合っている处世方策も意味している）」（林 1994:118—119）である。呂も「中庸」を中国人が最も期待している個人価値と位置づけ、「中庸是中国人民的黄金定律。过多或不及都是应该避免的事情。譬如说，人不应该太主动或太不主动、太外向或太内向、太骄傲或太谦卑、企图心太强或毫无企图心。即使是女人都不该太美丽，因为俗语说“红颜薄命”（中国人にとって、中庸は鉄則である。過度も不足も避けるべきである。例えば、人間として、特別な積極あるいは特別な消極、特別な外向あるいは特別な内向、特別な傲慢あるいは特別な謙遜、下心が特別に強いことあるいは全くないこと、どれも好ましくない。“红颜薄命（美人薄命）”という俗語が説いている如く、女性でもきれいすぎるのはよくないとされる）」（呂

2001:223)と論じている。「中庸」は伝統的な思想として現在に至っても中国人の日常生活を制約、影響していると言っても過言ではない。適度の原則を心得て、過度と不足の両面を回避し、時期、場所、事柄などの要素を思慮しながら、問題の解決に取り組むと行動面で唱えている。また、言語使用となると、見解を婉曲に述べたり、言葉を柔らかく口に出したり、相談の余地を残したりすると主張している。

「人並み」「世間並み」「横並び」のように、日本語にも一極に偏らずに、日常生活を営む道理を教える言葉が多くある。その価値観について、井上(2007:51)は「この『世間なみ』にいきようとがんばるエネルギーが、我が国の近代化のひとつの精神的な原動力となってきたといっても、けっして過言ではあるまい。その反面、異端のもつ大胆なエネルギーが発揮されることは、きわめてまれであった。ことの善悪をとわず、自分だけがとびぬけて目立つということは、『世間』の手前、すぐれて気はずかしいことでなければならなかったからである」と指摘している。このように考えると、「過不足のない適度」の本質は言語、文化に関わらず普遍的なものであるが、具体的になると、文化ごとに日中独特の評価語も見られる。

おわりに

以上の考察を通じて次の諸点が判明した。まず、第16項目「特別にきれい好きな人」はプラス評価の意味項目でありながら、「過剰価値」が機能するため、当該の日中両言語に少なからぬマイナス評価語がある。「中庸」「世間並み」といった理念は依然として両国の文化に根付いて、人間関係や集団の団結ないし社会の安寧を維持すると考えられよう。

マイナス評価視点は、両国人ともに「清潔に気を付けすぎる」と「見せかけの清潔が好きである」の2点に重きを置いている。「特別にきれい好きな人」及び行為を精神病などの病気や実生活に存在しない「鬼、精霊、悪魔」などと連結させる点において、両国人は一致している。しかし、衣装、化粧に対する観察によるマイナス評価語は、中国語に大量に存在しているが、日本語は皆無で、両国は好対照を成している。一方、プラス評価視点は日中両国でよく似ているが、いずれも「清潔」と「身ざれい」に集中している。しかし、日本人は「きれいな容貌」についてのプラス評価視点を持っておらず、中国人と相違している。

両国人はともに女性に関する比喻表現を「特別にきれい好きな人」を評価するのに用いるものの、視点は次のように明らかにわかれている。つまり、中国語の“护士(看護婦)”の着眼点はその職業の備わる特徴に置かれるのに対し、日本語の「女性」は男女性別に基づいたものである。さらに、中国語には“骚货(淫らかな女)、小白脸(ジゴロ)”のような性別差の意味合いを内包する性向語彙があるが、日本語には見つからないことも注目を要する。

現在、オミクロンという変種株の拡大によって世界中に毎日感染者、死亡者の人数が増

える一途をたどっている厳しい情勢において、「特別にきれい好きな人」についてのプラス評価が高まっていくであろうと推察されるが、これは今後の研究課題としたい。

注

- 1) 第1項目「働き者」(施・欒 2015a)、第3項目「仕事の速い人・要領のよい人」(施・欒 2014a)、第7項目「人1倍仕事に熱中する人」、第16項目「特別にきれい好きな人」、第55項目「気前のよい人」(施・欒 2017a)、第67項目「口数の多い人・おしゃべり」(施・欒 2017c)、第69項目「口の達者な人・能弁家」(施・李 2021)、第99項目「人付き合いのよい人・親しみやすい人」(施・欒 2016b)、第109項目「面子を重んずる人」(施・欒 2019)、第110項目「個性の強い人」(施・欒 2014b)、第111項目「嫉妬心の強い人」(施・欒 2016a)
- 2) 本論で使用している「中国人」と「日本人」は両国の調査協力者、つまりアンケートに答えた日本人だけを指すが、論述に便宜上「日本人」を使用する。「中国人」の使用も同様である。

参考文献

- 青木保 (2001) 『異文化理解』 岩波書店。
- 井上忠司 (2007) 『「世間体」の構造』 講談社。
- 施暉・欒竹民 (2014a) 「中日両言語における『性向語彙』についての対照研究—『仕事の速い人・要領のよい人』を一段階に」『中国学研究論集』第33号、18-30頁。
- 施暉・欒竹民 (2015a) 「中日両言語における『性向語彙』についての対照研究—『働き者』を中心に」『広島国際研究』第21巻、103-116頁。
- 施暉・欒竹民 (2016a) 「中日両言語における『性向語彙』についての対照研究—『嫉妬心の強い人』を中心に」『中国学研究論集』第34号、20-31頁。
- 施暉・欒竹民 (2017a) 「中日両言語における『性向語彙』についての対照研究—『気前のよい人』を中心に」『国文学攷』第233号、15-29頁。
- 施暉・欒竹民 (2019) 「中日両言語における『性向語彙』についての対照研究—『面子を重んずる人』を一例として」『中国学研究論集』第37号、55-66頁。
- 施暉・李凌飛 (2021) 「異文化コミュニケーションから見た日中性向語彙の対照研究—『口の達者な人・能弁家』を中心に」『中国学研究論集』第39号、27-36頁。
- 室山敏昭 (1987) 『生活語彙の基礎的研究』 和泉書院。
- 室山敏昭 (2001) 『「ヨコ」社会の構造と意味—方言性向語彙に見る』 和泉書院。
- 室山敏昭 (2004) 『文化言語学序説—世界観と環境』 和泉書院。
- 室山敏昭 (2012) 『日本人の想像力』 和泉書院。
- 藤原与一 (1962) 『方言学』 三省堂。
- 林语堂 (1994) 『中国人』 学林出版社。

呂俊甫（2001）《華人性格研究》远流香港出版公司。

施暉・栞竹民（2014b）「性向词汇」の汉日対比研究—以“个性强的人”为中心—『东北亚外语研究』第3期、49-57页。

施暉・栞竹民（2015b）「论汉日性向词汇中的负性原理」『日语学习与研究』第1期、38-47页。

施暉・栞竹民（2016b）「性向词汇」の汉日対比研究—以“善于交际、好接触的人”为中心—『东北亚外语研究』第1期、35-41页。

施暉・栞竹民（2017b）『中日韩三国“性向词汇”及文化比较研究』外语教学及研究出版社。

施暉・栞竹民（2017c）「性向词汇」の汉日対比研究—以“话多的人”为例—『东北亚外语研究』第2期、50-56页。

施暉（2017d）「论中日韩三国“性向词汇”中的男女差异」『苏州科技大学学报（社会科学版）』第3期、42-47页。

施暉・栞竹民（2018）「中日韩三国“性向词汇”中的“比喻词汇”对比研究初探」『东北亚外语研究』第2期、16-24页。

田秀坤・贾丽雪（2020）「“新文科”背景下外语院校创新人才培养路径研究」『东北亚外语研究』第4期、79-84页。

王升远等（2021）「中国的日语语言学研究：困境、挑战与前景」『日语学习与研究』第5期、1-20页。

付録

表 性向語彙 111 意味項目

I、動作・行為の様態に関するもの		37	滑稽な事をする人	<心にもないことを言う人>	
I a、仕事に対する態度に関するもの		<好奇心の強い人>		75	お世辞言い
A、仕事に対する意欲・能力のある人		38	物見高い人	76	お追従言い
1	働き者	39	冒険好きな人	<性悪なことを言う人>	
2	仕事の上手な人	40	出歩くのが好きな人	77	悪意のあることを言う人・毒舌家
3	仕事の速い人・要領のよい人	<感情表出で偏向のある人>		78	口やかましい人
4	仕事を丁寧・丹念にする人	41	怒りっぽい人	79	他人のことに口出しする人
5	丁寧すぎる人	42	涙もろい人	80	不平を言う人
6	辛抱強い人	43	良く泣く人	81	理屈っぽく言う人
7	人1倍仕事に熱中する人	44	いつもにやにやしている人		
B、仕事に対して意欲・能力の欠ける人		<気温に対して偏向のある人>		II c、言語活動の在り方に関するもの	
8	怠け者・仕事をしない人	45	寒がりな人	82	評判言い
9	仕事の下手な人	46	暑がりな人	83	言葉使いが乱暴な人
10	仕事の遅い人・要領の悪い人	<飲食に偏向のある人>			
11	仕事を雑にする人	47	大食漢	III、精神の在り方に関するもの	

12	仕事を投げやりにする人	48	意地汚い人	Ⅲa、固定的な性向に関するもの	
13	仕事の役に立たない人	49	食べるのが特別早い人	84	堅物
14	放蕩者	50	大酒飲み	85	強情な人・頑固者
		51	酒を飲まない人	86	厳しい人
I b、具体的な動作・行為の様態を踏まえた恒常的な性向に関するもの		52	酔っ払ってからむ人	87	優しい人
A、対人関係を前提としないもの		<金品に執着する人>		88	不親切な人
<きれい好きな人>		53	欲の深い人	89	陽気な人
15	きれい好きな人	54	けちな人、しみったれ	90	陰気な人
16	特別にきれい好きな人	55	気前の良い人	91	勝気な人
<汚くしている人>		56	儉約家	92	すぐに泣き言を言う人
17	片付けの悪い人	57	浪費家		
18	不精者	58	道楽者	Ⅲb、知能・知識の程度に関するもの	
<ものごとに動じない人>		B、対人関係を前提とするもの		93	賢い人・思慮分別のある人
19	沈着冷静な人・落ち着いた人	59	世話好きな人	94	ずる賢い人
20	のんきな人	60	でしゃばり・お節介焼き	95	見識の広い人
21	大胆・豪胆な人	61	愛想の良い人	96	馬鹿者
22	図太い人	62	無愛想な人	97	世間知らず
23	横柄な人・生意気な人	63	見栄を張る人	98	人付き合いの悪い人
<ものごとに動じやすい人>		64	自慢する人	99	人付き合いの良い人、親しみやすい人
24	落ち着きない人	65	気がきく人		
25	じっとしてられないで	66	気がきかない人	Ⅲc、人柄の善悪に関するもの	
	あれこれする人			100	人格の優れた人
26	気分の変わりやすい人	Ⅱ、言語活動の様態に関するもの		101	あっさりした人
27	小心な人・臆病な人	Ⅱa、口数に関するもの		102	誠実な人・実直な人
28	内弁慶な人	67	口数の多い人・おしゃべり	103	穏和な人・いわゆる善人
29	外では陽気だが家では無口な人	68	無口な人	104	ひねくれ者
30	極端に遠慮する人	69	口の達者な人・能弁家	105	しつこい人
<乱暴な人>		70	口下手な人	106	厚かましい人・図図しい人
31	いたずら者			107	気難しい人
32	乱暴な人	Ⅱb、言語活動の内容に関するもの		108	情け知らずな人
33	腕白小僧・始末に負えない子	<真実でないことを言う人>		109	面子を重んずる人
34	お転婆	71	嘘つき	110	個性の強い人
35	わがままな人	72	口のうまい人・口から出任せを言う人	111	嫉妬心の強い人
<軽率な人>		73	誇大家		
36	調子乗り・おっちょこちょい	74	冗談言い		

付記

本論は施暉と欒竹民（2017）《中日韩三国“性向词汇”及文化比较研究》の一項目を取り上げて加筆、修正を加えたものである。本稿の作成にあたり、恩師である欒竹民教授が始終一貫して多大な時間、労力を費してご指導を下さったことに厚くお礼を申し上げる。また、杉村泰教授、彭広陸教授にも貴重なご教示を頂き、心より感謝を申し上げる。最後に、査読委員の皆様には的確なご意見を賜りました。ここに記してお礼申し上げる。しかし、頂いたご意見全てを反映できていない点は執筆者の力不足によるものである。

A Comparative Study of “Chinese-Japanese Gender-based Phrases”

about “Clean Feak”

: Focusing on “Surplus Value”

SHI, Hui LI, Lingfei

Abstract

Based on the survey and research of “Chinese-Japanese Gender-based Phrases” about “Clean Feak”, it is found that no matter whether repeated use of same phrases is counted or not, Chinese people are far better than their Japanese counterparts in terms of vocabulary size, productivity and variety. As a result of “Surplus Value”, both Chinese and Japanese reflect a evaluation’s change from positive to negative. When giving positive evaluation or negative evaluation, similarities can be found between Chinese and Japanese. However, the differences are also obvious.

Keywords : gender-based phrases, surplus value, natural metaphor, personification metaphor, physical metaphor

「～っぽい」の意味・用法と構造的特徴に関する記述的研究

楊 迪 (名古屋大学大学院生)

要旨

「～っぽい」に前接する要素の品詞と意味用法の対応関係を指摘する先行研究はあるが、「～っぽい」表現の構造的特徴は未だ明らかにされていない。また、「～っぽい」は話し言葉で多用されるが、先行研究は書き言葉を対象に調査したものが多い。本研究では話し言葉コーパスを使用して「～っぽい」の意味用法を考察した上で、各意味を支える構文パターンを抽出し試みた。その結果、「～っぽい」は形容詞性接尾語としての場合、その基本的な用法は「性質・属性」を表し、助動詞としての場合はモダリティを表すと考えられる。「性質・属性」の下位分類として、本研究では「含有」「傾向」「特性」「類似」「ふさわしさ」の5つに分けた。その中、「(色彩の) 類似」「ふさわしさ」は本研究で初めて提示する用法である。モダリティを表す際に、「推量」と「婉曲」の2つの用法があると考えられる。また、「含有」「傾向」「特性」の3つは「～っぽい」の原初的な意味用法であると思われる(岩崎2011)。特に「特性」用法の構文パターンがバリエーション豊富であることが本研究で分かった。そこから、形容詞性接尾語としての「類似」「ふさわしさ」用法と助動詞としての「推量」用法へ拡張したのではないかと考える。さらに、これらの用法から「～っぽい」のスキーマ的な意味「程度の高さ」を抽出でき、このスキーマ的な意味には「100%ではない」という含意があると言える。これは「婉曲」の意味が表現できる理由だと思われる。

キーワード： 「～っぽい」、形容詞性接尾語、助動詞、意味・用法、構文的特徴

はじめに

従来の用法では、「～っぽい」は、(1)のように、名詞、形容詞・形容動詞語幹または動詞連用形¹⁾に付いて形容詞をつくる接尾語であった。一方、近年、「～っぽい」は句や文に付くことができ、(3)のような助動詞としての用法が確立されつつある(尾谷 2000、小島 2003 など)。

(1) 「名詞+っぽい」：水っぽい、埃っぽい、粉っぽい、理屈っぽい、etc.

「形容詞・形容動詞語幹+っぽい」：荒っぽい、安っぽい、俗っぽい、etc.

「動詞連用形+っぽい」：怒りっぽい、惚れっぽい、忘れっぽい、etc.

(2) お年寄りのスポーツっぽい。 (小島 2003)

(3) (健康診断に遅刻してきて、遠くから様子を伺っている時)
もう終わってるっぽいですよ。 (尾谷 2000)

一方で先行研究では、調査の対象は新聞、小説、Web上のホームページ、または書き言葉コーパスであるため、実際の日常生活における使用実態はほとんど見られない。したがって、話し言葉で多用される「～っぽい」の使用実態を明らかにするためには、日常会話を考察対象にして分析する必要があると考えられる。

また、「～っぽい」の前接要素と意味用法の対応関係について考察したものは少ないが、前接要素の品詞の違いだけでは「～っぽい」がさまざまな意味を生み出す原因については解明できない。「～っぽい」の各用法には、何らかの構造的特徴があり、そうした構造的特徴が様々な意味を支えていると考えられる。したがって、本研究では、「～っぽい」の各意味用法がどのような構文パターンにおいて実現するのかについて明らかにすることを目指す。さらに、各意味用法の間における関連性を明らかにすることを試みたい。

1. 先行研究

先行研究では一般に「～っぽい」の前接する品詞によって意味が異なると考えられている。ここでは紙幅の関係で、尾谷（2000）とケキゼ（2003）のみを紹介する。

尾谷（2000）では「～っぽい」の意味に以下の5つがあると述べられている。

- ①物理的含有量：水っぽいジュース、埃っぽい部屋、粉っぽいカレー
- ②属性の含有量：子供っぽい太郎、安っぽい服、俗っぽい名前
- ③判断可能性の含有量：終わってるっぽい、これで最後っぽい、出来てるっぽい
- ④頻度の解釈：飽きっぽい、忘れっぽい、惚れっぽい、怒りっぽい
- ⑤傾向／属性の解釈：同上。

ここでは、「含有量」という概念で統一的に解釈しようとしているが、「含有量」とは本来物理的な概念であり、「判断の可能性」が「含有」されているというのは理解しにくい。また、①～③は「〇〇の含有量」という形式で名づけられているが、④と⑤はこのような形式の名付けをとっていない。②が「属性の含有量」と言えるのなら、⑤もそのように名付けられるのではないか。さらに、「～っぽい」の同じ形式に異なる解釈（意味④と⑤）を分ける必要があるか否かについては疑問に思う。

ケキゼ（2003）は「～っぽい」の用法を先行語が「YはXっぽい」形式の中で担う意味によって分類した。表1はケキゼ（2003）による分類をまとめたものである。

表1 ケキゼ (2003) による「YはXっぽい」の用法分類

用法				用例
安定用法	Xが属性	1	Yは、 <u>知覚的属性</u> [X] を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。ただし、その値は最大値には至らない。	黒っぽい 湿っぽい
		2	Yは、 <u>内的属性</u> [X] を感じさせるような知覚的属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。	安っぽい 色っぽい
	Xがモノ	3	Yは、[X] の典型例が持つ性質・属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。	大人っぽい 田舎っぽい
		4	Yは、好ましくないモノ [X] を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。	水っぽい(ミルク) 骨っぽい(魚)
	Xが行為	5	Yは、話者の暗黙の基準値よりも「[X] をすることが多い」という好ましくない性質を持つ。	怒りっぽい 飽きっぽい
新奇用法		6	Yのカテゴリー認定	(はっきり見えないものについて)それ、橋っぽくない？
		7	あいまい化	皮肉っぽい きざっぽい

ケキゼ (2003) における安定用法の X の分類はそれぞれ X が形容詞・形容動詞語幹 (属性)、名詞 (モノ)、動詞連用形 (行為) と理解してよいと思う。しかし、このように前接する品詞の違いだけでは「～っぽい」がさまざまな意味を生み出す要因については解釈できない。たとえば、「愚痴っぽい」「理屈っぽい」は「名詞+っぽい」であるが、「動詞連用形+っぽい」と同様に「傾向」の意を表すことができる。したがって、本研究ではコーパスから収集した用例を対象に、「～っぽい」の構造的特徴 (構造パターンおよび各要素の相互関係) を明らかにしたい。

2. 研究方法

本研究は話し言葉コーパスである『日本語日常会話コーパス モニター公開版』(以下「CEJC」)、『名大会話コーパス』(以下「NUCC」)、『日本語話し言葉コーパス』(以下「CSJ」) を使用して調査を行った。中納言を使用し、短単位検索で、検索条件「キー 語彙素=ばい、品詞の大分類=接尾辞」によって用例を得た。

以上のデータのうち、誤解析と聞き取り不能のしるしである「*」によって判断できない用例を除き、残りの合計 585 例を本研究の考察対象とする。また、本研究では必要に応じて『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下「BCCWJ」) や先行研究からの用例を挙げる。

3. 用法分類

先行研究でも見たように、一般に形容詞性接尾語としての「～ばい」には「含有」「傾向」「特性」という用法があり、助動詞化した「～ばい」には「推量」用法があるとされている。さらに、小出（2005）では「類似」の用法、梅津（2009）では「婉曲」の用法が指摘されている。しかし、各研究では各用法の名付けや定義が一致していない。本研究ではこれらの先行研究を参考にし、「～ばい」の意味を以下のように分類する。「ふさわしさ」は本研究で提示する新たな用法である。また、すべての先行研究では「属性」を「含有」や「傾向」などの用法と同じレベルのものとして扱っているが、本稿では「含有」が「Yにある内容物Xの含有量の多さ」という側面から、「傾向」が「YのXという行為をする頻度の高さ」という側面から、Yの「性質・属性」について語るものだと考える。したがって、「含有」や「傾向」なども広義的に「性質・属性」に属すると見なす。このように、形容詞性接尾語という構文的性質を持つ「～ばい」を統一的にまとめられると思われる。

記述の便宜上、「性質・属性」²⁾を表す（形容詞性接尾語としての用法）際に、主語と「～ばい」の関係を「(Yは) Xばい」と表記する。モダリティを表す（助動詞としての）用法では判断の根拠をPで、判断をQで示す。また、「性質・属性」用法では主語Yに波下線、「～ばい」の前接語に下線を施す。モダリティ用法の場合、判断を下す根拠Pに波下線、判断Qに下線を施す。

「性質・属性用法」：形容詞性接尾語としての「～ばい」（527例／90.1%）

含有：YにはXの含有量がある種の基準³⁾より多い（31例／5.3%）

「この部屋の空気は埃っばい。」

傾向：YはXしやすい／しがちだ／する傾向がある（18例／3.1%）

「母は忘れっばい。」

特性：YにはXという性質・属性が顕著に現れている（333例／56.9%）

「千秋は幼稚っばい。」

類似：Yの性質・属性（の一部）とXの性質・属性（の一部）が近い（115例／19.7%）

「ペプシの方が少し薬っばい味がします。」

ふさわしさ：Yの持つ性質・属性がXに似合う／ふさわしい（30例／5.1%）

「このコートは夏樹っばい。」

「モダリティ用法」：助動詞としての「～ばい」（58例／9.9%）

推量：Pという根拠からすればQと判断される可能性が高い（50例／8.5%）

①Pが話し手自身の体験・観察である場合：（36例／6.1%）

「バイトでもしてないっばいね。サークルばっかで。」（CEJC）

②Pが他人から得られた情報である場合：（14例／2.4%）

「2月っばかったね、今日の話の仕方では。」（NUCC）

婉曲：Q という判断は話者にとって確実であることを前提とするが、あえて不確実であるかのように表現する（8 例／1.4%）

「私は時間的に無理っぽい。」

3.1 性質・属性

「～っぽい」は形容詞性接尾語として使用される時、その基本的な用法は Y の「性質・属性」を表すと考えられる。「性質・属性」の下位分類として、本研究では、「含有」「傾向」「特性」「類似」「ふさわしさ」の 5 つに分けた。

3.1.1 含有（尾谷 2000 の「物理的含有量」）

「含有」の「～っぽい」は「Y には X の含有量がある種の基準より多い」という意を表す。これは尾谷（2000）の「物理的含有量」に相当するが、「含有」とは物理的な概念だと考えられるため、本稿では「モノ Y にある内容物 X の含有量」という側面から具体物 Y の「性質・属性」を語る場合にのみ「含有」という用語を使用する。これは尾谷（2000）で「属性」や「判断の可能性」にも使われている抽象的な「含有量」という概念とは区別される。

構文パターン：モノ Y ハ Y にある成分・内容物を表すモノ X ポイ

この場合、主語 Y と「～っぽい」の前接語 X はいずれもモノ名詞であり、Y と X は全体と部分の関係でなければならない。本稿の調査範囲では、「～っぽい」の前接語 X は「油、脂、水、筋、粉、埃、骨」などのような名詞に限られている。以下の例を「Y は X っぽい」の形式に整理すれば、「水菜の芽は筋っぽい」、「汁は水っぽい」、「中華料理は油っぽい」のようになる。いずれも「～っぽい」の前接名詞 X は主語 Y に含まれる成分・内容物であることがわかる。

(4) ごりっぱな水菜になっちゃう。あの、意外とほら、芽の方がねえ、筋っぽいじゃない。
(NUCC)

(5) そういった時は、えー、牛乳を入れて、あのスープをちょっと薄めるような感じで延ばしてってください。これを水を入れますと、あの一、ただの水っぽい汁になってしまいます。
(CSJ)

(6) 私はそれぞれの味がはっきりしていて、油っぽい、あまり胃もたれをしない中華料理が大好きです。
(CSJ)

3.1.2 傾向（ほとんどの先行研究での「傾向」）

「傾向」を表す「～っぽい」は「YはXしやすい／しがちだ／する傾向がある」または「YはすぐにXのようになってしまう」という意味で、あまり望ましくない人間の行為の傾向を表現する。「傾向」を表す「～っぽい」に前接するのは無意志的行為であり、その行為をする頻度の高さを表している。

構文パターン：ヒト Y ハ 人間の無意志的行為を表す動詞連用形・名詞 X ポイ

「傾向」を表す「～っぽい」は人間の性格を表すため、主語 Y は人を表す名詞でなければならない。また、本研究の調査範囲では、「～っぽい」に前接するのは動詞連用形「飽き、怒り、忘れ、僻み、惚れ」と名詞「理屈、愚痴」に限られており、かなり慣用的であると考えられる。

(7) 母は凄くあの B 型で忘れっぽいと言いますか。 (CSJ)

(8) 私は飽きっぽい性格なんで、毎日毎日これを何回とかやったら絶対飽きると思う
たんで。 (CSJ)

(9) 私の身近にいる者でですね、大変理屈っぽい人がいるんです。 (CSJ)

(10) こんなこと言ったら、お婆さんの人生ね、ぐちっぽく。 (NUCC)

「理屈／愚痴（っぽい）」は名詞であるが、「理屈を言いがち」「愚痴をこぼしがち」という意味を表す。これは「理屈を言う」「愚痴をこぼす」が慣用的な述べ方であるためだと思われる。一方、「理屈っぽい」「愚痴っぽい」は常に「傾向」の意味を表すわけではない。

例 (11) 「法学部法律学科（というところ）は理屈っぽい」、例 (12) 「言ったこと（言葉）は愚痴っぽい」の場合、主語は人間ではないため、「傾向」ではなく主語 Y の「特性」を表している。また、本調査では、例 (12) などのように「～っぽい」が「なんか」と共起しやすいことを観察した。

(11) で、大学もお法学部法律学科っていうこう理屈っぽいところで。んー、本、こう人と接するよりも、こういつもいつもこう本を読んでいるっていう時間が多くて、こう当時はあんまり法学部、今の法学部は分からないんですけど。 (CSJ)

(12) 一番本当に一番素の自分でいられるみたいな、本当に何かちょっと言っても何かちょっとち何か愚痴っぽいこと言ったら本当に十言って返してくれるっていう、本当にありがたい。 (CSJ)

3.1.3 特性

「特性」とは「Y には X という性質・属性（または X にある性質・属性）が顕著に現れ

ている」ことを表す。このような意味用法は先行研究では一致した定義がないが、本研究では「特性」と名づける。この用法の構文パターンは以下になると考えられる。さらに実例を詳しく分類すれば、以下の3つに分けられると思われる。

構文パターン： **ヒト・モノ・コト Y ハ 性質を表す語 X ポイ**

下位構文パターン①：

ヒト・モノ・コト Y ハ 性質を表す形容詞語幹・形容動詞語幹・状態副詞 X ポイ

「X という性質・属性が顕著に現れている」という特性の意味は、この構造が典型的に形容詞・形容動詞語幹及び状態または性質を表す語で構成されることに支えられている。

岩崎（2011: 84）は、「特性」を表す際には、「上接部は形容詞語幹「安」「荒」や形容動詞語幹「哀れ」「気障」など、名詞「愚痴」「理屈」などである」としている。だが、本研究では上で述べたように、「愚痴」「理屈」の場合は人の「傾向」と物事の「特性」の両方を表せると考える。さらに、これらの「名詞＋ぽい」は相当に慣用的であるため、「特性」の構造にとっては、形容詞・形容動詞語幹という特徴が本質的である（例（13）（14））と考えられる。また、例（15）のほか「～ぽい」に前接する副詞には「パラパラ」「バリバリ」「さらさら」「ガタガタ」「ツルツル」「たっぷり」「もったり」「わざと」などが見られる。これらの副詞のほとんどが状態副詞であり、意味的には形容詞・形容動詞に近いと考えられる。

（13）混声合唱男声合唱四十八、えー、まこれをおうー多少お、四十七都道府県に、えーんーまー、荒っぽい計算で参りますと、全国に五千グループま平均一団五十人とししますと。
(CSJ)

（14）F092：あの子はカジュアルぽくはないよね。

F073：うん、気合いの入ってないときはね。
(NUCC)

（15）F092：ねー。確かに。髪質が似てるんだよ。（中略）さらさらなんだって。

F073：えっ？ でらチリチリっぽいよ。
(NUCC)

下位構文パターン②：

ヒト・モノ・コト Y ハ 何らかの属性を持つヒト・モノ・コト・地域・言語名詞 X ポイ

「～ぽい」には、例（16）～（20）のように、ヒト名詞（「子供」）、Y に内在する成分ではないモノ名詞（「ジャージ」）、コト名詞（「直訳」）、地名（「沖縄」）、言語名詞（「韓国語」）のような名詞が前接する。基本的に何らかの属性を持つ名詞であると考えられる。

名詞は本来、モノ（実体）を表す品詞だが、「～ぽい」はその名詞を形容詞化し、その名

詞から社会一般的に共有されているイメージを引き出す役割を果たしている。

- (16) 次女は、えー、まだ四歳で年中で。で、本当に子供っぽい子供なんで。(CSJ)
- (17) なんかジャージっぽいのを着てたよ。責いやつ。(NUCC)
- (18) 結構チョ直訳っぽいのが多いよってゆうことだよ。味噌。そのままじゃんて英語って大体そのままじゃんてゆうのが多いから。(CEJC)
- (19) さんぴん茶。
はい。えい。沖縄っぽいですね。(CEJC)
- (20) で、後、韓国語もね、たくさん学びました。(中略) えーとー、チョヌンイルボ
サラムイムニダーチョンペキスムニダーって言うと、何か、何か韓国語っぽくていいなと思って、たくさん覚えてきました。(CSJ)

下位構文パターン③：天気・モノ・コト・イロ Y ハ 時間名詞 X ポイ

「～ばい」に前接する時間名詞には「昔、今、今年、現代」や「春、夏、秋、冬」などが最も多くみられる。そのほか、「お正月、新年、クリスマス、バレンタイン」などの年中行事もある。

天気・気温を描写する際には、「～ばい」の前接語は「春、夏、秋、冬」に限られる。例(21)の場合、「8月の旭川（の気温）には夏の特徴（暑さ）が顕著に現れている」という意味である。この用法は、「Y には X の持つ特徴が顕著である」という意味を表現している。

一方、最も多用される「モノ・コト・イロ Y ハ 時間名詞 X ポイ」形式では、構造パターン②や「天気 Y ハ 時間名詞 X ポイ」と異なり、「Y には X にある特徴が顕著である」と解釈しにくい場合が多い。特に前接語が「昔、今、今年」などの場合、その前接語自身の語彙的な意味に顕著な特徴があるとは言えない。しかし、「主語 Y ハ 時間名詞 X ポイ」という構造において、他の要素との関係性の中で「顕著な特徴」という意味が引き出されるのだと考えられる。

例(22)の場合、「ダボっとしすぎたズボン」のデザインと今年の流行っているファッションの要素とを照らし合わせて、ズボンには今年流行りの要素の特徴が顕著であるという意味で「今年っぽい」と表現するのである。この用法では主語 Y（の特徴）と時間名詞 X にあるべき／流行りの要素（の特徴）との照らし合わせという働きが重要であると考えられる。

例(23)では、カボチャは秋の旬の食べ物であるため、「カボチャのあん」を入れているお菓子には秋という季節の特徴が顕著であるとも解釈できるし、「カボチャのあん」が入っているお菓子は秋にふさわしいとも解釈できる（この場合、後述の「ふさわしさ」の用

法となる)。例 (24) (25) も同様に、中間的な用法だと考えられる。つまり、モノ・コトやイロを描写する際に、前接語が季節や年中行事である場合、「特性」と「ふさわしさ」の両方に解釈できる用例が多い。これは、季節と年中行事が本来「顕著な特徴を持っている」からであると考えられる。しかし、モノや色合いには季節や祝日の特徴があるとは言いにくく、「～っぽい」構造の中で主語 Y と前接語 X の照らし合わせをすることによって、こうした意味が現れるのだと考えられる。

(21) F112 : えーでも、札幌はわかんないけど、旭川は、8 月入ったらー、30 度、32 度ぐらいまで上がる。盆地だから。

F134 : 結構 30 度超えたら結構あったかく感じるよね。暑く感じるよね。(中略)
夏っぽいかなーみたいな。(NUCC)

(22) F092 : あっ、これもかつこ、こういうズボン、ほしい。

F073 : いいねー。(うん) はいてこよう。

F092 : でも、こうだぼっとしすぎなのは、今年っぽいやん。(NUCC)

(23) F114 : カボチャのあん、あんが入ってんの。

F137 : あー、秋みたい。(ねえ) 秋っぽい、すごい。(NUCC)

(24) ホント、お正月っぽい写真がなくて、面目ないです。(BCCWJ)

(25) 最近ランジェリーのような光沢のあるキャミが多く出てますから、明るいグリー
ンやピンクが春っぽくてオススメです。(BCCWJ)

3.1.4 類似 (小出 2005 の「類似」)

「～っぽい」の「類似」用法は「Y の持つ性質・属性 (の一部) と X の性質・属性 (の一部) が近い」と本研究は定義する。この用法の構文パターンは以下になると考えられる。さらに実例を詳しく分類すれば、以下の 2 つに分けられると思われる。

構文パターン : モノ・コト・イロ Y ハ Y と異なる名詞 X ポイ

下位構文パターン① : モノ・コト Y ハ Y と本来別物の名詞 X ポイ

この構文パターンにおける主語 Y は、名詞 X とは本来別物である。例 (26) ～ (28) の「犬」と「子供」、「高校」と「大学」、「フランス語における塩の発音」と「英語における塩の発音 (ソルト)」は、すべて本来は異なるもののペアである。この二者の間にある類似性を捉えて、「～っぽい」と述べる用法である (森山 1995、小出 2005)。

(26) 飼い主を親として捉えて子供っぽい従順さや服従を見せてくれます。ただ犬の姿も変化しています。(CSJ)

(27) ですから、先生というのは殆どうちの高校においては、えー、勉強を教える人という感じで。(中略) えー、生徒個人個人に関する管理は殆どしないという、まー、かなり自由な学校でした。まー、大学っぽいと言えば大学っぽいんですが。

(CSJ)

(28) F083 : 塩ってなんでしたっけ。***。

F129 : そ、ソルトっぽい？ (サーレ) サーレ？

F010 : フランス語はなんでした？

F129 : わからない、塩知らない。ノン・コノスコ。

(NUCC)

下位構文パターン② : 「色」・X と異なる色彩名詞 Y ハ 色彩名詞 X ポイ

「～っぽい」の前接語 X が色彩名詞の場合、主語 Y は (X と異なる) 色彩名詞、または「色」のいずれかである。例 (29) は「スーツ (の色) が グレーっぽい」のように言い換えられ、主語 Y がモノ名詞であり、「～っぽい」は主語 Y の色を描写する。色を形容する際に、例 (30) のような「グレーっぽい白」のほか、例 (31) の「オレンジっぽい色」のような連体修飾構造も多用される。

色はバリエーションが豊富で、近似色の間の境目が曖昧であるため、正確な表現で説明するのが難しい場合が多い。「色彩名詞 X + っぽい + 色」という形式は、正確に表現しにくい色を形容するために多用されていると考えられる。

(29) F107 : 普通の服だよ。普通のつてか、ちょっとおしゃれな。

F023 : シルクサテンみたいな光沢のあるスーツなの。(中略)

F023 : グレーっぽいようなスーツだった。

(NUCC)

(30) これ白だよ。

うん。そうデ。ちょっとグレーグレーっぽいよ。

(CEJC)

(31) F045 : あ、すごいきれいな色。

F160 : そう？ 私、似合わないのよね。それ、赤すぎるかなー。

F045 : 何かオレンジっぽい色がいいんじゃない。

(NUCC)

3.1.5 ふさわしさ

「ふさわしさ」とは「Y の持つ性質・属性が X に似合う／ふさわしい」ことを表すため、「～っぽい」に付く語 X は特定のヒトを指す名詞である場合が多い。

「特性」は社会一般的に共有されているイメージを引き出すことである一方、「ふさわしさ」とは話し手が聞き手に対し、特定の人や対象に対するイメージを引き出して共有する働きをする。したがって、「ふさわしさ」は「特性」から派生した意味だと考えられる。

一方、「特性」の場合は主語 Y には X ということやものの特徴が顕著にあることを表している。これに対し、「ふさわしさ」とは、主語 Y そのものにはもともと X という人の特徴がないが、X という人の特徴（X という人の外見や好みなど）と照らし合わせて主語 Y が X に似合うという意味になると考えられる。そのため、「特性」用法の構造パターン③で述べている中間的な用例の場合、前接語 X 「春夏秋冬／年中行事」には一定の社会一般的ステレオタイプが抽出できる点で「特性」の意味にもなるが、前接語 X との照らし合わせというプロセスによって主語 Y が X に似合うと読み取れる場合は「ふさわしさ」の意味となる。

構文パターン：モノ・コト Y ハ 特定のヒトを指す名詞 X ポイ

例（32）（33）のようにヒト名詞 X が特定の人を指す場合、典型的な「ふさわしさ」の用法となる。例（32）では、「夏樹」が受け取る側であれば「夏樹に似合う／夏樹らしいかわいさがある」というような意味で、贈る側であれば「夏樹が贈りそうな／贈り物として夏樹らしさが出ている」というような意味だと考えられる。例（33）は「綿パンも先生に似合う／綿パンには先生らしさが出ている」という意味である。

一方、例（34）のような特定の人でない場合、「ふさわしさ」（女の子に似合う／ふさわしい色合い）とも解釈できるし、「特性」（色合いには女の子の特徴が顕著に現れている）という解釈も可能である。これは「特性」用法の構造パターン③の例（23）～（25）と同じく中間的な例だと考えられる。

（32）（友人 4 人と誕生日会でプレゼントを披露する場面）

これのえっと。びり。（中略）

かわいい。

これのね、ちっちゃい子を持ってるんですよ。

カワイ。夏樹っばい。

（CEJC）

（33）ジーパンじゃなくて、綿パンも先生っぽくて素敵だった～ピンク？ 赤系の V ネットも似合ってた～

（BCCWJ）

（34）ちょっと色合いは女の子っぽいですもんね。

（CEJC）

以上、「～ばい」の「性質・属性」を表す際の、5 つの意味用法の構文パターンについて分析した。その中で、最もバラエティに富むのは「特性」であることがわかった。また、「（色彩の）類似」「ふさわしさ」は本研究で初めて提示する用法である。

3.2 モダリティ

「～ばい」が助動詞として使用される時、その基本的な用法はモダリティを表すと考えられる。その下位分類として、本研究では、「推量」「婉曲」の2つに分けた。

3.2.1 推量

「P という根拠からすれば Q と判断される可能性が高い」という「推量」を表す場合、「～ばい」の構文的特徴は以下のようなと考えられる。

構文パターン：名詞述語・形容動詞述語・形容詞述語・動詞述語-文ポイ

「推量」を表す際に、Q と判断する根拠 P は、①話し手自身の体験または自分の観察を根拠に判断された状況である場合（例（35））、および②他人から得られた情報である場合（例（37））の2つに分けられる。判断の根拠 P を話す際に明示する場合もあるが、例（36）のように示されていないものもある。前後文脈からわかるように、例（36）における判断の根拠 P は話し手が地図を見て得た情報である。また、例（37）は「H 先生の授業のレポート締め切りは2月っぽかった」という名詞文の省略形だと考えられる。

（35）この人ずっと一緒にいてくれていい人だなとか思ってた。で何か別に恋心とかじゃなかったんですけど。あ一緒にいてみたいなって思って、友達が何かそれを察知したっぽくて、何かじゃさ電話番号あげなよとか言ってなっちゃって。で私も結構その気だったんで電話番号を渡したんですよ。 (CSJ)

（36）（友人と旅行の相談）

やっぱソコスヘルシンキに数多く展開するのがソコスホテルってこれだよね。

（中略）さらに中央駅に近いっぽい。 (CEJC)

（37）F067：それはいつ出すの？ 全部今月中じゃないでしょう。（中略）

F037：H 先生 2 月なのかなあ。2 月だよね。

F067：2 月っぽかったね、今日の話の仕方では。 (NUCC)

名詞・形容動詞述語文は「だ」を含むが、「～ばい」が後接する場合は（37）のように「だ」は削除される。名詞・形容動詞語幹であるか名詞・形容動詞述語文かを区別する基準として、連体修飾ができるか否かということがある。これを基準にするのは、「～ばい」が形容詞性接尾語として名詞・形容動詞語幹につく場合は形容詞を作り、形容詞の基本的な機能は体言を修飾することであるからである。これに対し、助動詞は通常、連体修飾に用いにくい。また、「～ばい」のスコープ（作用範囲）も異なると考えられる。形容詞性接尾語の「～ばい」は前接語 X に後接しているのに対し、助動詞の「～ばい」は文全体に付いていると考えられる。

- (6') 油っぽい中華料理 (6'') 中華料理は [油] っぽい。
 (37') * 2月っぽかったレポートの提出 (37'') [レポートの提出は2月(だ)] っぽい。

3.2.2 婉曲

本研究では「婉曲」を「Q という判断は話者にとって確実であることを前提とするが、断りなどの場面で和らげるためにあえて不確実であるかのように表現する」と定義する(柏岡 1980 : 170 の「婉曲」の定義を参考にした)。

構文パターン : 名詞述語・形容動詞述語・形容詞述語・動詞述語-文ポイ

例 (38) ~ (40) は「自分のことに対してはっきりと断定するのを避ける」というような「婉曲」の意味を表している。例 (38) は話し手が自分の予定・都合について話す例で、例 (39) (40) は話し手が自分の能力に関することを「婉曲」的に話す例である。話者自身の都合や能力を述べる際に多用されるため、評価性を持つ名詞・形容動詞・形容詞述語文が前接するのが典型である。

堀田・堀江 (2012 : 16) では日本語のヘッジには「発話内容緩和」の機能があると指摘されている。「発話内容緩和」機能は「否定的な事情を説明する場合だけではなく、真情を吐露する場合や、主観的な判断や主張をやわらげる場合に多く見られた」と述べられている。本研究における「~っぽい」の「婉曲」用法もこのような場合に使われる。

(38) F114 : 29、何もないっぽい。

F137 : あ、ほんと？ (うん) じゃあ 29 に、夜とかがいい？ (NUCC)

(39) ちょっと、疲れてしまいました。今まで、結構ハードな生活を送っていたのですが、ちょっと限界っぽいです。 (梅津 2009 : 例 (y))

(40) 道も何もわかりません。しかも一人の観光ほど悲しいものはありません (一人旅
って俺は苦手っぽいです) (BCCWJ)

以上、「~っぽい」のモダリティ用法の構文パターンについて考察を行った。次節では、形容詞性接尾語「~っぽい」がどのように助動詞へと拡張したのかについて、簡単に考察する。

4. 各用法の相互関係

「~っぽい」の「含有」「傾向」「特性」という 3 つの意味は近世から存在すると岩崎 (2011) が指摘している。この 3 つの用法は「~っぽい」の原初的な意味用法であるといえよう。

さらに、「特性」用法には、X と Y の関係に以下 (41) ~ (43) のような形式があると

考えられる。「特性」という意味用法からほかの意味用法へ展開してきたと思われる。図 1 で示しているように、(41) のような例から「類似」の意味（例（44））へ、(42) のような例から「ふさわしさ」（例（45））の意味へ、(43) のような例から「推量」（例（46））の意味へ拡張したのではないかと考える。

「含有」 この汁是水っぽい

「傾向」 母は忘れっぽい

「特性」

(41) 子供っぽい大人 ($Z \subseteq X, Y; X \neq Y$) \Rightarrow (44) 子供っぽい犬 「類似」

(42) 子供っぽい子供 ($X=Y$) \Rightarrow (45) 夏樹っぽいプレゼント 「ふさわしさ」

(43) ヤクザっぽい男 (Y は正体不明) \Rightarrow (46) (大勢の人が集まっているのを見て)
飲み会の待ち合わせっぽい 「推量」

含有量の多さ、頻度の高さ（傾向）、特性の顕著さ、類似性の高さ、蓋然性の高さ（推量）



「～っぽい」のスキーマ的な意味：ある事物が持つ程度の高さ（100%ではない）



一人旅は俺が苦手っぽい「婉曲」

図 1 「～っぽい」の意味拡張

「子供っぽい人」（「特性」）を「子供っぽい大人」と表現するとき、 X と Y は同じ「人」というカテゴリー Z にある 2 つの下位概念である。この場合、例（41）はある大人には子供のような特徴が顕著に現れているという意であるが、子供に類似する特性を持っている大人とも言える。一方、例（44）のような X 子供（人間）と Y 犬が本来別物である際に、 X と Y にはある種の「類似」性があるという意味になる。つまり、 $X \neq Y$ の場合、 X と Y のカテゴリーが離れれば離れるほど、より典型的な「類似」用法に近づくと考えられる。

例（42）「子供っぽい子供」では $X=Y$ であり、ある子供は子供の典型と照らし合わせて子供にふさわしい特性が顕著であるという意味である。例（45）のような「ふさわしさ」の用例は同様に、プレゼント Y は夏樹 X という人と照らし合わせて夏樹にふさわしい（似合う）という意になる。この用法は「特性」用法と異なり、 Y の特徴は社会通念的に共有されているようなものではなく、 X という特定の人と照らせ合わせなければ「 X っぽい」と述べることはできない。

また、例（43）は Y である男の属性は不明であるが、外見や行為などからすれば $X=Y$ ヤクザにあるような特徴が目立つという意味であるが、連体修飾構造のため、実際に $Y=男$

が X=ヤクザかどうかという「判断」とはあまり関係ない。こうした用法が、例 (46) のような文末位置に用いられることで、判断の根拠 P と判断 Q の間に「不明関係」が成立する助動詞としての用法へ拡張し、推量的な意味になるのだと考えられる (森山 1995 の「不明関係」)。

以上のように、「性質・属性」を表す「～っぽい」は含有量の多さ、頻度の高さ (傾向)、特性の顕著さ、類似性の高さを表し、「推量」を表す「～っぽい」は蓋然性の高さを表す。このように「ある事物が持つ程度の高さ」を表すのが「～っぽい」のスキーマ的な意味だと思われる。したがって、「～っぽい」には含有量や蓋然性などの程度は高いが、100%ではないという含意があると言える。これは「～っぽい」が「婉曲」を表現できる理由だと考えられる。

おわりに

本研究では話し言葉コーパスを使用し、「～っぽい」の意味分類および各意味を支える構文パターンについて考察した。「～っぽい」は形容詞性接尾語として「性質・属性」を表し、助動詞としてモダリティを表すと考えられる。各意味用法を支える構文パターンは表 2 のとおりである。

表 2 「～っぽい」の意味用法と構文的特徴

意味用法		構文的特徴
性質・属性	含有	モノ Y ハ Y の成分・内容物を表すモノ X ポイ「 <u>この汁は水っぽい</u> 」
	傾向	ヒト Y ハ 人間の行為を表す動詞連用形・名詞 X ポイ「 <u>母は忘れっぽい</u> 」
	特性	ヒト・モノ・コト Y ハ 性質を表す語 X ポイ
		①ヒト・モノ・コト Y ハ 性質を表す形容詞性の語 X ポイ 「 <u>髪質はチリチリっぽい</u> 」
		②ヒト・モノ・コト Y ハ 何らかの属性を持つヒト・モノ・コト・地域・言語名詞 X ポイ 「 <u>次女は子供っぽい</u> 」
		③天気・モノ・コト・イロ Y ハ 時間名詞 X ポイ 「 <u>こういうズボン</u> は今年っぽい」
	類似	モノ・コト・イロ Y ハ Y と異なる名詞 X ポイ
		①モノ・コト Y ハ Y と本来別物の名詞 X ポイ「 <u>この犬は子供っぽい</u> 」
		②「色」・X と異なる色彩名詞 Y ハ 色彩名詞 X ポイ 「 <u>この服の色</u> はグレーっぽい」
	ふさわしさ	モノ・コト Y ハ 特定のヒトを指す名詞 X ポイ 「 <u>このプレゼント</u> は夏樹っぽい」
モダリティ	推量	[主語-述語]-ポイ 「 <u>バイトでもしてない</u> っぽいね。サークルばっかで。」
	婉曲	[主語-述語]-ポイ「 <u>一人旅って俺</u> は苦手っぽい。」

注

- 1) 形式面ではほとんどの先行研究が松井（1983）および森田（1989）で述べている「～っぽい」に前接する名詞・形容詞・形容動詞語幹、動詞連用形の4つの形式を従来の用法とみなす。
- 2) 本調査では、「～っぽい」の前接要素には「指示詞」と「Φ」（前接語がない用法）という新しい形式があることがわかった。いずれも具体的な意味を表現していない。前後文脈によって「コソアド+っぽい」および「Φ+っぽい」の用例は、「名詞+っぽい」または「文+っぽい」などの形に言い換えられるため、ここではこの2形式の意味用法を取り上げて分析することはない。ただ、「Φ+っぽい」の場合、相づち的な機能を持っていることがわかった。このような用例は会話コーパスにしか見られない。これは相づちという表現効果が対話形式の会話でしか実現できないからだと考えられる。

例：かわいいクマちゃん。

うん。あ、っぽい。（CEJC）

- 3) 先行研究ではある種の基準を規定しており、「必要以上」、「期待値」、「話者の暗黙の基準値」、「通常値」など、定義は一致していない。本研究はコーパス調査を行なった結果、その「基準」は1つだけではないと考えられる。紙幅のため、ここでは省略する。

参考文献

- 岩崎真梨子（2011）「「～っぽい」の意味用法と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』（31）、83-96 頁。
- 梅津聖子（2009）「現代日本語にみる接尾辞「っぽい」の広がり」『拓殖大学日本語紀要』（19）、55-64 頁。
- 尾谷昌則（2000）「接尾辞「っぽい」に潜むカテゴリー化のメカニズム——「女っぽい人」は女ですか？」『日本言語学会第120回大会予稿集』、168-173 頁。
- 柏岡珠子（1980）「ヨウダとラシイに関する一考察」『日本語教育』（41）、169-178 頁。
- ケキゼ・タチアナ（2003）「「っぽい」の意味分析」『日本語教育』（118）、27-36 頁。
- 小出慶一（2005）「接辞「～っぽい」の用法の広がり——「雪が降るっぽい」という表現はどのように成立したか」『群馬県立女子大学紀要』（26）、1-13 頁。
- 小島聡子（2003）「接尾語「っぽい」の変化」『明海日本語』（8）、31-38 頁。
- 堀田智子・堀江薫（2012）「日本語学習者の「断り」行動におけるヘッジの考察——中間言語語用論分析を通じて」『語用論研究』（14）、1-19 頁。
- 松井栄一（1983）『国語辞典にない言葉』南雲堂。
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店。
- 森山卓郎（1995）「推量・比喻比況・例示——「ようだ/みたい」の多義性をめぐって」『日本語の研究 宮地裕・敦子先生古稀記念論集』、493-526 頁。

用例出典

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』(中納言 2. 4. 5)

『日本語日常会話コーパス モニター公開版 (CEJC)』(中納言 2. 4. 5)

『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』(中納言 2. 4. 2)

『名大会話コーパス (NUCC)』(中納言 2. 4. 2)

Descriptive study of the meaning, usage and structural features of “~*poi*”

YANG, Di

Abstract

Although some previous studies have highlighted the correspondence between the part of speech of the elements prefixed to “~*poi*” and its semantic usage, the structural features of “~*poi*” expressions have not yet been clarified. In addition, “~*poi*” is often used in spoken language, but most previous studies focus on written language. This study examines the semantic usage of “~*poi*” and organizes it using a spoken corpus with the aim of extracting the syntactic patterns that support each meaning. As a result, the basic usage of “~*poi*” as an adjectival suffix indicates “property/attribute,” while as an auxiliary verb it indicates modality. The five subcategories of “property/attribute” are “containing,” “tendency,” “characteristic,” “similarity” and “appropriateness.” Of these, “similarity (of color)” and “appropriateness” are used for the first time in this study. When describing modality, two uses of “inference” and “euphemism” are considered. In addition, “containing,” “tendency” and “characteristic” are thought to be the first three semantic uses of “~*poi*” (Iwasaki 2011). In particular, the syntactic pattern of the “characteristic” usage is found to be rich in variation. From there, these may have been extended to “similarity” and “appropriateness” when used as an adjectival suffix and “inference” when used as an auxiliary verb. Furthermore, from these usages, the schematic meaning of “~*poi*” - “high degree” - can be extracted, and this schematic meaning has the implication of “not 100%.” This is probably the reason the meaning of “euphemism” can be expressed.

Keywords : “~*poi*”, adjectival suffix, auxiliary verb, meaning and usage, structural features

中国の大学における日本語作文授業の実態と対策研究

徐 義紅（大連交通大学）

要旨

中国の大学における日本語作文授業は従来から内容と形式が単調なため、学習者が授業に興味を持てない、書く意欲が低い、思考力が足りないなどの問題が存在している。一方で、指導教師にとって添削量が多く、負担が大きいなどの問題も深刻である。これらの状況を改善するために、筆者は今までの作文授業の様子を振り返り、作文教育の目的と指導教師の役割を考慮した上で、一連の改善策を実践した。本稿ではその実践の結果と問題点を纏めた。まずは、作文授業の実態について、授業時間の不足、教材の難易度と作文授業の現状の不適合、内容より正確さを重視、指導教師の添削負担の大きさという四つの方面から述べた。次に、現状改善のための具体策として、読書活動の推進、作文発表、協働学習などを提案した。その結果、作文授業に活気が付き、学習者の書く意欲も高まった。また、教師の添削量も減り、負担がある程度小さくなった。しかし、グループ発表の時間管理、教師添削への過度の依存及び評価方法などの問題について、さらに改善する必要があることが分かった。今後の課題として、以上の問題を解決するほかに、学習者が書いた作文の内容の深まりを目指す指導法を研究したいと思っている。

キーワード： 作文授業、作文指導、協働学習、思考力、推敲

はじめに

日本語作文は大学の日本語学科の必修科目として、重要な地位を占めており、外国語学習者に求められる「聞く・話す・読む・書く・訳す」といういわゆる五技能をバランスよく高めるための一環として欠かせない。作文力は後の卒業論文の作成、就職や留学の筆記試験、大学院の面接などにも繋がっている。

各大学の教学計画によって多少違いがあるが、普通は二年生後期あるいは三年生前期から作文の授業が始まる。学習者の平均的な日本語能力は日本語能力試験2級レベル前後に相当する。しかし、作文授業は多くの学習者にとって苦手意識の強い科目の一つと言っても過言ではない。「自分の考えや思いをうまく纏められない」「書くことが嫌い」などが学習者の実態である。たとえ日本語能力試験1級に合格しても作文が満足に書けないようなケースもよく見られる。そのため、日本語能力と「知的レベルに近い作文を書く」能力の間にギャップが目立つ。そのギャップをどのように縮めるかが作文の指導教師が考えずに

はいられない難問の一つになる。

一方で、中国の大学では一つのクラスの平均人数が 30 人もいるため、週に一回作文を提出する頻度で計算すると、作文の添削量の多さは想像に難くない。その上に、コメントも加えると、さらに時間が掛かる。これは指導教師の精力と体力にも大きな影響を及ぼす。

より効果的に学習者の書く意欲を高め、纏まりのある作文を書けるようになると同時に、指導教師の負担を少しでも減らすために、作文授業の進め方について、筆者はいくつかの試みをした。本稿では、その実践を紹介し、結果と課題を考えてみたい。

1. 日本語作文教育の目的

文章を書く目的について、藤田（2007：180）は「一つは伝えたいことを表現するためであり、もう一つは何かを順序だてて深く考えるためである」と述べている。従って、作文の指導をする際には伝えたいことが伝わるように読み手に配慮することを日本語学習者に心掛けさせる必要がある。また、考えたことを書き出すことで、自分が考えたことを改めて振り返ることもできる。書いていくうちに、矛盾や曖昧なところに気付き、また書こうとして書けないことに気付くこともある。つまり、書くことは考えを整理したり、深めたりする上で大事な機能を果たしている。

では、作文教育は日本語教育の中でどのように位置付けられるのか。池田・舘岡（2014：72）は第二言語としての日本語で書く能力は、誰かに何かを日本語で伝えなければならぬ時に必要となる能力と述べ、日本語教育の目的はコミュニケーションの道具、手段としての日本語表現力の育成、さらに、書き手の思考力育成の学習として位置付けられると述べている。

2018 年、大学の「外国語文学類教育の国家標準」（以下、「国家標準」と略す）が中国の教育部によって公表された。その中で、啓発的、討論型、参加型の教育方法を重視する内容が目立つ（楊、2019）。「国家標準」を基に、2020 年、「日本語専攻教学指南」（以下、「指南」と略す）を正式に公布した。「指南」の中で、「日本語作文」は専門コアコースとして、思考力の育成が教学目标の一つとして強調されている。

2. 大学日本語作文授業の実態

本学の「基礎日本語作文」という授業は三年生前期に開講されている。授業は 9 月から 12 月まで行われている。合計 16 回（週 1 回 90 分）となっている。日本語学科の三年生は全部で四つのクラスがある。筆者はその中の一つを担当している。学生数は 30 人である。学習者は基本的には真面目に授業に取り組み、宿題なども確実に提出することができる。

本学の教学シラバスでは、授業の達成目標は以下の通りである。

- (1) 日本語作文の中で文字、語彙、文型、表現を正しく使うこと。
- (2) 系統的に日本語作文の基礎知識と基本表現技術を身につけること。

- (3) ビジネスメールや公式文書の書き方を理解すること。
- (4) 日本語での思考力と表現力を高め、纏まった文章を書けるようになること。
- (5) 日本語の総合運用能力を高め、実際のコミュニケーションニーズを満たすこと。

以上の授業目標から見ると、作文授業では文字、語彙からコミュニケーション能力まで全面的な能力の向上が期待されている。しかし、教育現場では作文指導の担当教師はたくさんさんの困難に直面している。

2.1 授業時間の不足

本学を例として、以前は作文の授業は三年生で通年の授業が設定されていた。しかし、2018 年以降新しい教育要領の実施により、通年ではなく一学期のみ実施されるようになった。たった 16 回 32 コマの授業で基礎知識から表現力まで習得させるのは多少無理がある。さらに効率よく授業時間を利用するために、作文を書くのは原則的に宿題とする。しかし、そうすると、学習者の負担にもなる。今の中国の大学生は、ダブルメジャー、ダブルディグリーの導入により受講する科目が非常に多いため、日本語だけに専念するわけにはいかないのが現状である。一方で、作文は時間の掛かる作業なので、日本語作文だけに時間を費やしたくないという声も時々耳にする。そのため、指導教師にとっては、短期間で効果ある作文指導が要求されている。

2.2 作文教材の問題点

中国で実施されている大学日本語専攻生四級と八級能力試験には作文がある。参加者は 60 分以内に 400 字程度の作文を書き終わらなければならない。この試験の普及とともに、学習者も教師も作文を重要視するようになった。近年、中国で出版されている作文関係の本はだんだん多くなってきた。オンライン書籍販売で有名な「当当」のホームページでキーワード「日語」「写作」「作文」を入力し、検索すると、30 種類以上も出てくる。その中に筆者は十種類ぐらいの教科書として採用できそうな本を調査した結果、以下の問題点を発見した。

(1) 難易度が高すぎる。書名が「基礎日語写作」でも、その内容はビジネス文書などの専門書類の書き方まで含まれている。また、知識の羅列だけで、文章を書く技法ではなく、文法書に類するものになり、学習者は読む意欲が湧かないであろう。

(2) 作文模範文例は単調で面白味がなく、また、大学生の実際の知的レベルに近い話題も少ない。日本語を運用することへの欲求を満足させる知的な話題及び内容を重視する教材が少ない。

(3) 作文の技法に重点を置いているのみで、良い文章とは何かについて、言及していない。もちろん文法の正確さや、表現力というのは大事であるが、文法が正確であればよい文章であるとは限らない。よい文章とは書いた人の見たもの、考えたことが読者に伝わり、

読者を納得させたり、感動させたり、新たな観点をもたらすものではないであろうか。筆者は何十冊もの作文教材を調査したところ、明言していたのはただ一冊しかなかった。江（2015：109）は『日語写作』の「よい文章の必須条件」という節に「理解しやすい」「内容に価値がある」「主題が鮮明」「説得力がある」「独創性がある」など十の条件を挙げている。また耿・平川（2011：99）は『日語写作教程』の中で作文コンクール参加作品の書き方について、「大きなテーマから身近な話題に焦点を当てて書くこと」「読み手に親近感を与えること」「感動を書くこと」などを挙げている。

（4）教材の中に中国人日本語学習者にとって、誤りやすい表現などの誤用例の解説といった内容が少ない。吉田（2010）は中国人日本語学習者の誤りやすい表現の語彙編で「漢語語彙と品詞」「中国語と同形異義の語」「～的と～化」「類義語」「中国語訳と対応しない語」を纏めている。典型的な誤用例の一部を挙げているに過ぎないが、それでも学習者にヒントを与え、自習においても利便さをもたらし、さらには指導教師の授業時間も省くことができる。

2.3 内容より正確さを重視

日本語の作文指導は従来から正確さを追及する傾向を示している。指導教師は添削指導の場合に、原稿用紙の書き方、表記、文字語彙、文型などの正確さを第一義にし、ミスが少なければ少ないほど、評価が高く、点数も高い。学習者も正確な日本語を目標として、形式を大事にし、内容を疎かにしている。その結果、卒業論文を書く段階になると、内容が古く、理論性の欠如や批判的思考力の不足などの問題が浮き彫りになる。

2.4 指導教師の添削負担の大きさ

日本語学科の教師にとって一番担当したくない科目は恐らく日本語作文という科目であろう。その理由でもっとも多いのは「添削量が多すぎる」「体力と精力が消耗する」「学生が授業に興味がない」などである。筆者は二年連続で作文の授業を担当しているので、この点について身に染みるほど分かる。以前の授業は教師主導で展開していた。一週間に30人分ぐらいの作文を添削するなら、毎日少なくとも2、3時間が必要である。それにも関わらず、学習者は授業に興味がない。その理由としては「書きたくない」「書く自信がない」「授業が面白くない」「総合日本語の授業と同じ」「翻訳の授業みたい」などが挙げられる。

3. 作文授業における教師の役割再考

作文授業の教師の役割はよく原稿の校正者と言われている。教師は学習者が書いた作文に丁寧に修正を入れ、できるだけ多くの指摘をし、多くのコメントを書き込もうとした。しかしながら、教師がたくさんの時間と精力を掛けた作文を学習者の手元に返却すると、

学習者は点数をちらっと見て、教師の添削が適切かどうか、どうしてそのように添削を行ったのか考えもせず、作文を片付ける状況が良く見られる。その原因は二つ考えられる：(1) 学習者は先生の添削が権威で、そのまま受け取ってしまった。(2) 学習者は点数だけに關心を持ち、もし点数が自分の期待より低いなら失望を示し、どこが間違っているのか、誤った理解をしていないかを振り返りもしない。

この現状を改善するために、作文授業の中で学習者の主体性を強化し、教師中心の授業を学習者中心の授業に変えなければならない(徐、2010)。池田・館岡(2014: 47)は学習者が「自律的かつ創造的に学ぶことができるように、教師は引き出しサポートする」ことが重要だと言及している。要するに、作文授業では日本語教師は「支援者」の役割を担うということである。一つは作文内容についての支援であり、辞書的な知識ではなく、教師は自分の経験や知識を生かし、学習者自身にアクセスできない情報やリソースを提供することである。もう一つは協働学習を促進させる支援である。学習者の協働学習がうまくできなかつたり、どのように進めるか戸惑ったり、活動中プレッシャーを感じる場合に、教師の支援が必要になる。

4. 現状改善のための具体策

作文授業の現状——指導教師の負担が大きいことと学習者の書く意欲が少ないことを改善するために、対策を考えてみた。

本学では、教材について一定の要求があるので、簡単には変えられない。そこで、講義の内容と授業の進め方について工夫をした。

4.1 読書活動の推進

読書活動は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである(文部科学省、「子どもの読書活動の推進に関する法律」)。それゆえに、読書習慣を身に付けることが大切である。国語力は外国語学習においても相互関係があると言われている。従って、第二言語学習者にとって、読書は特に重要なことになる。そのほかに、中国語と日本語の両方の言語での読書を奨励すべきである。また、文学作品だけに限らず、自然科学・社会科学関係の本や新聞など、いろいろなジャンルのものを読むことで、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」などを向上させることができる。

府川(2018: 9)は文章を書く学習には、それに先立って必ず「文章を読む」学習が存在すると述べている。つまり、まず本を読み、その内容を理解した後、それを読書ノートや読書感想文に書くことで、書く力も向上していくのではないかと考える。しかし、読書感想文などの課題を過度に与えることにより、学習者にはかなりの負担になるので、その際は注意が必要である。まずは、学習者に読書の楽しさを感じてもらうことが一番大切である。

4.2 作文発表の授業実践

作文の授業に作文発表の機会を設けた。コースの間に、学習者が最低1回ずつ発表した。発表後、質疑応答の時間も設けた。書いた作文の口頭発表は日本語学習の「聞く・話す・読む・書く」能力の全面的向上のために欠くことができない（五十嵐、1999：39）。さらに、読み手意識、問題意識の育成にも役立つと考えられる。

4.3 協働学習に基づく実践

4.3.1 協働学習とは

福嶋(2018)の研究によると、協働学習とは学習者の協働を生かした授業づくりの方法・理念であり、特に中等教育～高等教育の段階に相応しい。課題に対し、「正解」を絶対視せず、むしろ課題に疑問点はないか、反対意見を口にしたり、さまざまな観点を出示したりする。学習の目的としては、基礎的ではない知識、批判精神、推論、集団的発見などが挙げられ、知識を構成する力を学習者に与える。また、坂本（2008：55）によれば、協働学習の特徴として、「学習者の高い自律性と対等なパートナーシップ、相互の信頼関係の構築」「学習目標や課題、価値観および成果の共有」などが挙げられる。

4.3.2 協働学習に基づく教授内容などの変化

作文授業の協働は少なくとも学習者同士の協働及び学習者と教師の協働を含むと考えられている。それに基づき、授業の内容、流れ及び評価方法を調整した。

本学で使っている教材は『日語写作』（胡、2011）で、基礎編、表現編と実践編の三つで構成されている。基礎編には原稿用紙の使い方、句読点のつけ方、「だ・である体」と「です・ます体」および文章の構成が含まれている。そして、表現編では、物事の前後関係・仕組み・因果関係・共通点・類似点・相違点・行為の理由目的・伝聞引用・賛成意見・反対意見などの表現方法及び常用文型を15節に分けて解説している。実践編では指定題名作文（44編）と応用文（7編）がある。編ごとに関連語彙、文型、質問、作文例と宿題が含まれている。16回の授業で以上の内容を全部完成させるのは不可能なので、筆者は実践編の内容を難易度と話題性によって「自己紹介」「日本語の授業」「私の夢」など8編を抽出した。

一回目の授業でまず作文授業の目標、内容、授業の流れと目的を学習者に説明した。

流れ	内容
① 授業内容の紹介	作文授業の目標、内容、協働学習導入の目的
② 発表のグループ分けと順序決定	原則として3人あるいは4人グループ、4人以上は禁止。発表順序は自由決定。
③ 基礎編の解説	原稿用紙の使い方、句読点のつけ方、「だ・である体」と「です・ます体」
④ 課題の説明	「自己紹介」を使う場面を想定、関連語彙の説明、良い自己紹介の特徴とは何か考えさせる。

表1 一回目の授業の流れと内容

その際、添削の方法について工夫を試みた。それ以前の授業では、指導教師が毎回30人全員の作文を全て添削していた。しかし、変更後は30人分の作文を三つに分け、10枚は学習者同士の発表用にし、そして、10枚は本人に返却し再推敲し、残りの10枚は指導教師が添削することにした。

このような添削方法を採用したのは3点を考慮したからである。

一つ目は、初めて協働学習を導入するため、学習者に抵抗感がある可能性を考慮し、全てを協働で添削させないことにした。二つ目は、学習者が従来の教師評価を期待することもあるので、担当教師は三分の一を添削することにした。直接添削することで、全面的に的確に学生の作文を把握できるので、フィードバックのとき、さらに説得力がある。そして、一部は本人に返し再度推敲させる。推敲が「書く」ことの中での重要性を意識させたいからである。

発表はグループで進めた。グループ内の発表内容の分担は自身で決定する。ただし、必ず作文の形式、内容、表現を含まなければならない（李、2011：37）。添削する場合、間違っている所あるいは不適切な所を指摘し、添削アドバイスを必ず提出すること、添削は原稿の上に赤ペンですることなどを指示した。

作文は原則として宿題とした。前もって授業中に課題の説明を詳細に行うことにした。例えば、「自己紹介」を書く場合に、まず使う場面を想定させる。中日大学生の交流活動に参加する時の自己紹介、大学院入学面接の自己紹介と就職面接の自己紹介は一緒にすればよいかどうか学習者に考えさせる。そして、良い自己紹介の特徴とは何か議論させる。後は、関連語彙の説明などをする。つまり、どのように書くか、どのような内容を書けるか学習者に理解させる。

流れ		内容
①	グループで発表	作文の形式、内容、表現
②	教師のフィードバックと纏め	発表の内容に対してフィードバック、良い所と不足点、全体に対して纏める。
③	基礎編の解説	文章の構成と展開
④	課題の説明	1)「自己紹介」の再度提出。2) 作文「日本語の授業」の留意点、関連語彙、何を表現したいかを考えさせる。

表2 二回目の授業の流れと内容

基本として、グループ発表は二回の授業に一度の頻度で行った。作文のチェックポイントは表3の通りである。

	作文のチェックポイント
形式	原稿用紙の書き方が正しいか。
	誤字脱字はないか。
	読点は適切に打たれているか。
	同じ言葉が、漢字とひらがなになっていないか。
	「丁寧体」と「普通体」が混ざっていないか。
表現	「話し言葉」と「書き言葉」を適切に使ったか。
	文型を適切に使ったか。
	格助詞や接続助詞を適切に使ったか。
	敬語表現や授受表現を適切に使ったか。
	同じ語尾が続いていないか。
	冗長表現はないか。
内容	タイトルと内容が違ってしまっていないか。
	ねじれ文は書いていないか。
	伝えたいことが文章にできたか。
	読み手をひきつけるような構成で書いたか。
	焦点を絞って、必要な情報を詳しく書いたか。

表3 グループ推敲と自己推敲のチェックポイント

グループ毎に作文を添削し、その結果をグループの代表者1名がクラス全体に対して発表する。発表では、まず添削前の作文を読み上げ、その後添削結果を示し、さらにその作文の良い点や改善点などのコメントも発表するようにした。

発表のない時は、表現編の講義に集中する。筆者の授業は金曜日なので、授業の後に教師と発表グループの添削コメントによって、もう一度自分の作文を推敲し、次の月曜日に再度提出することを要求した。最終の評価は再度提出の作文によって決めた。

4.4 推敲の重要性を強調

筆者は作文授業を担当している際、学習者が指導教師の「添削」に頼りすぎ、「教師が添削したから絶対正しい」と思い込み、自分の作文を頭で考えて見直す行為が欠けていると気付いた。そのため、今回の実践の中で、推敲に力を入れた。『国語教育指導用語辞典 第四版』（田近・井上、2009）の「II 作文指導」という章では「推敲」を明確に位置付けている。

「推敲」は「自分の書いた文章を客観的に見直し、伝えようとする事実や用件・意見等が十分に書き表されているかどうかを検討する」「文章表現の完成を目指して行う行為である」とされている。

その意義は「書き表された文章を客観的に見直すことで、書き手の思考を一層緻密にしてゆくこと」とされている。また、「読み手を意識し目的が自覚できる作文を書かせる」ことが推奨されている。つまり、推敲は作文の全過程において行われるべきだと言える。推敲を通して物事の見方や考え方を鍛え、思考や認識を深めることが期待されている。

4.5 実践の結果と問題点

最初はこのような授業の進め方を行えるかどうか心配であった。「発表はどのような形式で行うべきか」「指摘された本人は抵抗感を感じないか」「名前を隠す必要はないか」などたくさんの心配点があった。しかし、実践してみたら、意外と良い結果があった。

まずは、発表する学習者が配付された作文に丁寧に添削とコメントを行った。もちろん、適切ではないところもあるが、きちんと自分なりの意見を書いていた。それに、良いと思った表現を褒め称えていた。さらに、例文も補充し、「みなさん、この表現を覚えてください」と勧めていた。次に、発表する時にあえて作者の名前を隠すことはなかった。不明な所があれば、直接本人に説明してもらい、間違った場合、直接本人に謝ったり、たまにジョークを話したりし、大笑いになった。その結果、授業の雰囲気も一気に活気に溢れた。そして、書き上げた作文をとりあえず自分で推敲した学習者も再度自分の作品を読み、考えることで、二回目に提出した作文は初稿に比べると、言葉も表現も明らかに良くなった。

4.5.1 学習者側の評価

学期末に、全履修学生 30 人全員にアンケート調査を行った。総計 30 件の調査表を回収した。そのうち有効調査表は 30 件であった。

内容は「協働学習は作文の修正に役立つか」「ピア評価に納得できるか」「自己推敲は作文の修正に役立つか」「口頭発表は作文の修正に役立つか」「先生の評価が欲しいか」という五つの質問である。各質問に対して、五つのレベルが設定してある。また、回答は一つのみとし、その際選択の理由も一緒に記入することとした。

「協働学習は作文の修正に役立つか」という問いには、「大変役に立つ」「役に立つ」「やや役に立つ」「あまり役に立たない」「全然役に立たない」という五つのレベルを設定した。

「大変役に立つ」と答えた人は12人、「役に立つ」と答えた人は18人で、全員協働学習の導入は作文の修正に役立つと思われる。「自分の誤りは自分で容易に発見できないから、クラスメートに見てもらおうと、見付け出すことができる」「クラスメートが出した様々な意見を通して、自分の考えも整理され、論理的な文章が書けるようになった」などが代表的な理由である。

「ピア評価に納得できるか」という問いには、「非常に納得できる」「納得できる」「やや納得できる」「あまり納得できない」「全然納得できない」という五つのレベルを設定した。

「非常に納得できる」と答えた人は5人、「納得できる」と答えた人は14人、「やや納得できる」と答えた人は10人で、96%を占めた。1人は「あまり納得できない」と回答した。あまり納得できない理由として、「自分の考えとは違うが、自分にも役立つ」と述べている。

「自己推敲は作文の修正に役立つか」という問いには、30人全員が「大変役に立つ」と答えた。その理由としては、「どのように推敲するかある程度理解できた」などであった。

「口頭発表は作文の修正に役立つか」という問いには、「大変役に立つ」と答えた人は21人、「役に立つ」と答えた人は6人、「やや役に立つ」と答えた人は3人で、全員プラス評価を示している。また、「声に出して読むことで今まで気付かなかった間違いに気付いた」といったコメントもあった。

「先生の評価が欲しいか」という問いには、「非常に欲しい」「欲しい」「どちらでもよい」「あまり欲しくない」「全然欲しくない」という五つのレベルを設定した。「非常に欲しい」と答えた人は20人、「欲しい」と答えた人は7人で、90%を占めた。後の3人は「どちらでもよい」と回答した。多くの学習者が教師の評価を期待していることが分かった。

また、本学の教務システムには学期末に学習者の「評教」活動がある。これは、学習者の視点から教学活動の効果を評価するものである。本評価項目は三つの総合評価と10個の小項目から成り立つ。今回は履修した学生全員が回答を寄せた。三つの総合評価はそれぞれ「授業全体への満足度」「担当教師の講義への満足度」「学習の獲得感」で、10個の小項目は「科目の位置づけの適切性」「授業の価値観」「担当教師の指導力」などが含まれている。本科目の「評教」の平均点数は100点となり、優秀と評価された。

4.5.2 実践の問題点

問題点として、以下のことが挙げられる。

(1) 協働学習を通して、確かに学習者の書く意欲が高まった。しかし、幸田(2017)が述べているように、話し合いをどの程度行うか、時間なども含めて授業デザインを工夫しなければならない。一つのグループの発表は15分以内と要求したが、ポイントを把握できず、時間をオーバーすることがしばしば発生した。

(2) 学習者は教師の添削に対して、ほとんど考え直すことがなく、そのまま清書してしまった。清書する前に「どうして先生はこのように添削してくれたか」「自分の書き方はどこが悪いのか」などを考え直すほうが作文力の向上に有益であろう。教師による添削を過度に頼らないようにどのようにしたらいいかを今後の課題として続けて研究したい。

(3) 評価について、現段階では、再度提出の作文によって採点を行った。最初に書き上がった原稿用紙の上に違う色のペンで直接添削するように要求した。どこでどの程度自分の作文を書き直したか一目瞭然にさせたかったからである。しかし、よい作文には繰り返し推敲することが必要である。この推敲の過程は今回の採点の範囲内に置いていなかった。この部分はどのように評価すべきかを改めて考えなければならない。

おわりに

日本語学科の作文授業では長年学習者の学習意欲が低く、担当教師の負担が大きいという問題が存在している。協働学習を取り入れることで、ある程度このような状況が改善された。従来の単調な作文授業に活気が付き、学習者が意欲的に活動し始めた。

わずか16回の授業で、作文能力を飛躍的に向上させることは無理ではあるが、この授業を契機として、作文の基礎を身に付けさせ、書く意欲を向上させられるのではないかと考えている。野口(2005:182-183)は「とにかく文章をいっぱい書くことが大切。文章を書く力は、要するにいっぱい書かせることによって伸びるのである」と述べている。作文授業が終わっても、書くことは継続的に行われることが望ましい。

そして、協働学習活動の中で、推敲の重要性を理解させなければならない。推敲は作文を書き上げるまでの全過程にある。自ら推敲するだけでなく、相互推敲、教師による推敲も取り入れるべきだと考えている。

最後に、作文授業では日本人教師と中国人教師の連携、作文授業の担当教師と他の科目の担当教師との連携が不可欠である。特に、「基礎日本語作文」の授業では、一部の学習者のレベルはあまり高いとは言えず、よく中国語をそのまま日本語にしたような語彙や文章が産出される。このような場合、日本人教師にはその作者が何を表現したいのか理解できない場合がある。こうした際に、中国人教師との連携があれば、日本人教師の誤文修正の優位性と中国人教師の内容理解の優位性がうまく発揮され、作文指導はさらに効率的になる。また、学習者の日本語能力を全面的に把握するために、常に他の科目の教師との交流も欠かせないと思う。

今後の課題として、内容の深まりを目指す作文指導法の研究をしたいと考えている。さ

らに授業デザインの改善に取り組み、学習者の満足度が高い作文授業を行っていききたい。

参考文献

- 池田玲子・舘岡洋子（2014）、『日语协作学习理论与教学实践』北京：高等教育出版社。
- 五十嵐昌行（1999）、「“日语写作”教授法：山东大学东方 语言文学系日语专业实例」『日语学习与研究』2：3-5 頁。
- 幸田佳子（2017）、「日本語の中上級クラスにおける論文作成指導とその問題点」『語学教育研究論叢』34、大東文化大学語学教育研究所、83-98 頁。
- 坂本旬（2008）、「『協働学習』とは何か」『法政大学キャリアデザイン学会紀要』5、49-57 頁。
- 田近洵一・井上尚美（2009）、『国語教育指導用語辞典第四版』東京：教育出版。
- 野口芳宏（2005）、『児童は授業で鍛える』東京：明治図書。
- 府川源一郎（2018）、『国語科教育特論：作文指導における「自己表現」の展開』『日本体育大学大学院教育学研究科紀要』2(1)、7-21 頁。
- 福嶋祐貴（2018）、「協働的学習に関する類型論の到達点と課題：協同学習・協働学習に基づく実践の焦点化と評価のために」『京都大学大学院教育学研究科紀要』64、387-399 頁。
- 藤田哲也（2007）、『絶対役立つ教育心理学』京都：ミネルヴァ書房。
- 富士原紀絵（2015）、『国語教育の作文指導過程における「文を見直す」行為に関する一考察』『人文教育研究』11、99-111 頁。
- 文部科学省（2001）、「子どもの読書活動の推進に関する法律」、
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm。2022-5-29 閲覧。
- 楊秀娥（2019）、「中国における大学日本語専攻課程教育の政策的動向」『日本学刊』22、香港日本語教育研究会、16-31 頁。
- 吉田妙子（2010）、『楽しい日本語作文教室Ⅰ』台北：大新書局。
- 耿铁珍・平川美穂（2011）、『日语写作教程』北京：外语教学与研究出版社。
- 胡传乃（2011）、『日语写作』北京：北京大学出版社。
- 江新兴・岳珊（2015）、『日语写作』北京：旅游教育出版社
- 教育部高等学校教学指导委员会（2018）、『普通高等学校本科专业类教学质量国家标准』北京：高教育出版社。
- 教育部高等学校外国语言文学类专业教学指导委员会（2020）、『普通高等学校本科外国语言文学类专业教学指南（下）』上海：上海外语教育出版社。
- 李运博（2011）、『基础日语写作教程』北京：高等教育出版社。
- 徐秋平（2010）、「日语写作任务教学发法的基本构思」『西南民族大学学报』10、81-83 頁。

Countermeasure Research and Actual Situation of Japanese Writing Class in Chinese Universities

XU, Yihong

Abstract

Japanese writing classes in Chinese universities have been boring in content and form, leading to problems such as a lack of interest in the class, low motivation to write, and lack of critical thinking skills. On the other hand, there are also serious problems for teachers, such as too many corrections and a large workload. To improve these situations, the author reviewed the situation of writing classes, considering the purpose of writing education and the role of teachers, and then implemented a series of improvements. This paper summarizes the results and problems of these improvements. First, the actual situation of the writing class was described in 4 aspects: lack of class time, teaching materials were not suitable for the current writing class, emphasis on accuracy rather than content, and too much workload for correction by teachers. Next, as a practical solution to improve the situation, we proposed promoting reading activities, composition presentations and peer learning. As a result, writing classes became livelier, and the learners' motivation to write also increased. Furthermore, the implements significantly reduced teacher correction work and other workloads. However, there were also several problems with these implements, such as time management for group presentations, over-reliance on teacher correction, and evaluation methods that needed to be further improved. How to solve these problems and research teaching methods aimed at deepening the content of learners' written compositions are future tasks.

Keywords: writing class, guidance, peer learning, critical thinking skills, weighing

日本語の心理動詞の使役構文について

王 雲姣 (名古屋大学大学院生)

要旨

本稿では日本語の心理動詞の使役構文について考察し、次の5つがあることを指摘した。

タイプⅠ：命令的増加型使役にも誘導的増加型使役にもなるが、交替型使役にはならない。
(対象にヲ格をとる思考動詞やヲ格寄りの感情動詞が多い)

タイプⅡ：誘導的増加型使役にしかない。(対象にヲ格をとる思考動詞やヲ格寄りの感情動詞もあれば、対象にヲ格をとる感覚動詞や二格またはガ格をとる思考動詞もある)

タイプⅢ：命令的増加型にならないのに対し、誘導的増加型になり、交替型にもなる。(思考動詞に比べ感情動詞をとりやすく、ヲ格をとるものもあれば、二格やガ格をとるものもある)

タイプⅣ：増加型にならないのに対し、交替型にはなる。(二格および二格寄りの感情動詞が来る)

タイプⅤ：使役構文を作ることができない。(対象に二格をとる感情動詞や対象にガ格をとる感覚動詞、知覚動詞が多い)

キーワード： 心理動詞、交替型使役構文、増加型使役構文、命令、誘導

はじめに

本稿は日本語の心理動詞の使役構文における格関係について考察するものである。工藤(1995)は日本語の動詞を外的運動動詞、内的情態動詞(本稿の「心理動詞」に相当する)、静態動詞の3つに分類している。このうち、外的運動動詞は「ものの動態的な運動をとらえている動詞らしい動詞」であり、スルーシテイルのアスペクト対立があるものであるのに対し、静態動詞は「時間のなかへの現象を問題にしえない」「スタティックなもの」であり、スルーシテイルのアスペクト対立がないものであると述べている。例えば、外的運動動詞の「書く」は(1a)ではル形で完成性未来を表すのに対し、(1b)ではテイル形で継続性現在を表すというスルーシテイルのアスペクト対立がある。これに対し、静態動詞の「似合う」は(2)ではル形ででもテイル形ででも静的状態を表し、スルーシテイルのアスペクト対立がないとしている。

- (1) a. 花子は今から手紙を書く。
 b. 花子は今手紙を書いている。
 (2) a. その髪型は花子に似合う。
 b. その髪型は花子に似合っている。

一方、心理動詞は「〈思考・感情・感覚・知覚〉という人の内的事象をとらえている」ものであり、スルーシテイルのアスペクト対立があるが、外的運動動詞のように純粋に時間的な対立ではなく、人称性とも絡み合っていると指摘している。例えば、「思う」は(3a)ではル形で一人称「わたし」の心理活動を表すのに対し、(3b)ではテイル形で三人称「父」の心理活動を表すとしている。

- (3) a. わたし、父は死ぬと思うわ。 (工藤 1995 : 70)
 b. 父は、死ぬと思っているわ。 (工藤 1995 : 70)

このようにこの外的運動動詞と心理動詞の違いは使役構文においても現れている。外的運動動詞の場合、例えば、(4a)の能動文「書く」が使役構文の「書かせる」になると、(4b)の「太郎」のように使役主を表す項が1つ増える。一方、受動構文とは違い、(4c)のように「花子」と「手紙」の格関係を交替させると非文になる。すなわち、外的運動動詞の場合、使役構文は増加型となり、交替型にはならない。

- (4) a. 花子は手紙を書いた。¹⁾
 b. 太郎は花子に手紙を書かせた。(増加型○)
 c. *手紙は花子を(に) 書かせた。(交替型×)

これに対し、心理動詞の場合は、例(5)の「憎む」のように増加型になるものもあれば、例(6)の「困る」のように交替型になるものもあれば、例(7)の「悲しむ」のように増加型にも交替型にもなるものもある。

- (5) a. 花子は社会の不公平を憎んだ。
 b. 貧富の格差は花子に社会の不公平を憎ませた。(増加型○)
 c. *社会の不公平は花子を(に) 憎ませた。(交替型×)
 (6) a. 花子は太郎のいたずらに困った。
 b. *毎日の電話は花子を太郎のいたずらに困らせた。(増加型×)
 c. 太郎のいたずらは花子を困らせた。(交替型○)

- (7) a. 花子は太郎の死を／に悲しんだ。
 b. 二人の友情は花子に太郎の死を悲しませた。(増加型○)
 c. 太郎の死は花子を悲しませた。(交替型○)

このように、一般に同じ心理動詞と呼ばれるものの中にも、外的運動動詞に似た使役構文をとるものもあれば、そうでないものもある。このことから、本稿では使役構文の違いによって心理動詞を分類し、5つのタイプがあることを指摘する。

1. 先行研究とその問題点

本節では心理動詞の使役構文における格関係に関する先行研究を紹介し、先行研究の問題点を述べたうえで、本稿の立場と目的を提起する。先行研究として、浅山（1999）、外崎（2013）が挙げられる。

浅山（1999：65 - 66）は感情動詞の使役構文には、交替型と増加型があるとして、表 1 のように分類している。その結果、ヲ格感情動詞はすべて増加型が可能であり、そのうちの半分以上の 18 語は増加型のみであるのに対し、ニ格感情動詞は交替型が中心で、そのうちの半分の 17 語は交替型のみであると指摘している。

表 1 浅山（1999）における感情動詞の使役構文と格との関係

	増加型だけ	増加・交替型両方	交替型だけ
ヲ格	あやぶむ、いたむ、いとう、いぶかる、いやしむ、うたがう、うとむ、うとんじる、うらやむ、おしむ、きらう、このむ、したう、たつとぶ、とうとぶ、なつかしむ、にくむ、ほこる (18 語)	あやしむ、あわれむ、いぶかしむ、うらむ、うれえる、おそれる、かなしむ、きづかう、くいる、くやむ、そねむ、たのしむ、ねたむ、はじる、よろこぶ (15 語)	(0 語)
ニ格	あこがれる、こだわる、したしむ、なじむ、なずむ (5 語)	あきれる、あせる、おののく、うぬぼれる、おごる、おじける、ぎょつとする、こがれる、しんみりする、びくつく、ほれる、むくれる (12 語)	いかる、いきとおる、いじける、うろたえる、おこる、おどろく、おびえる、こまる、こりる、しょげる、たまげる、てれる、なつく、なやむ、はつとする、まごつく、めんくらう (17 語)

（表 1 は浅山（1999：65 - 66）の表 B、表 C を加筆修正したものである）

例えば、(8) のヲ格感情動詞「懐かしむ」は (8b) のような増加型になり、(8c) のような交替型にはならない。これに対し、(9) のニ格感情動詞「困る」は (9b) のような増加型にはならず、(9c) のような交替型になるとしている。

- (8) a. 彼は故郷を懐かしんだ。(浅山 1999：66)
 b. 友人のお国訛りが彼に故郷を懐かしませた。(増加型○) (浅山 1999：66)

- c. *故郷が彼を(に)懐かしました。(交替型×)(浅山 1999 : 66)
- (9) a. 彼女がいたずら電話に困った。(浅山 1999 : 67)
- b. *誰かが彼女を(に) いたずら電話に困らせた。(増加型×)(浅山 1999 : 67)
- c. いたずら電話が彼女を困らせた。(交替型○)(浅山 1999 : 67)

このように、浅山(1999)は感情動詞をヲ格をとるものとニ格をとるものの2つに分けている。しかし、実際には「彼の死 {を／に} 悲しむ」のようにヲ格とニ格の両方をとるものもある。そこで本稿では、心理動詞のとり格についても詳細に見たうえで、使役構文が増加型になるか交替型になるかを考察する。

次に、外崎(2013 : 18)は日本語の典型的な感情動詞の特徴として、使役主が非情物の場合は(10b)のように増加型使役を作ることができるのに対し、使役主が有情物の場合は(10c)のように増加型使役を作ることができないと指摘している。

- (10) a. 太郎がおばけを怖がった。(外崎 2013 : 18)
- b. その話が太郎におばけを怖がらせた。(増加型、非情物○)(外崎 2013 : 18)
- c. *花子が太郎におばけを怖がらせた。(増加型、有情物×)(外崎 2013 : 18)

ただし、外崎(2013)は(8)の「反省する」や(9)の「後悔する」のように、使役主が有情物の増加型使役を作るものもあることを指摘し、このような感情動詞は「怖がる」のような典型的な感情動詞とは異なり、外的運動動詞に近いものであると論じている。

- (11) a. 太郎がその失敗を反省した。(外崎 2013 : 19)
- b. 花子が太郎にその失敗を反省させた。(増加型、有情物○)(外崎 2013 : 19)
- (12) a. 太郎が軽率な行動を後悔した。(外崎 2013 : 19)
- b. 花子が太郎に軽率な行動を後悔させた。(増加型、有情物○)(外崎 2013 : 19)

このように外崎(2013)は「後悔する」「反省する」などは使役主が有情物の増加型使役を作ることができると述べているが、(13a)の「反省させた」は(13b)のように「花子」が「太郎」に反省するように直接命令したという場合もあれば、(13c)のように「花子が太郎の失敗で病気になった」ということによって間接的に「太郎」を反省するように誘導したという場合もある。これに対し、(13a)の「後悔させた」は(13b)のように「花子」が「太郎」に後悔するように直接命令したという場合が考えられず、(13c)のように「花子が太郎の軽率な行動で病気になった」ということによって間接的に「太郎」を後悔するように誘導したという可能性のみがある。また、誘導の場合、実際の使役主は有情物の「花子」か非情物の「花子が病気になったこと」か、判断しにくいところがあると思われる。

- (13) a. 花子が太郎にその失敗を反省させた。(増加型、有情物○)
 b. 花子が太郎に反省しなさいと言って、太郎はその失敗を反省した。(命令○)
 c. 花子が太郎の失敗で病気になり、太郎はその失敗を反省した。(誘導○)
- (14) a. 花子が太郎に軽率な行動を後悔させた。(増加型、有情物○)
 b. 花子が太郎に後悔しなさいと言って、太郎は軽率な行動を後悔した。
 (命令×)
 c. 花子が太郎の軽率な行動で病気になり、太郎が軽率な行動を後悔した。
 (誘導○)

このように、増加型使役構文の場合、一見使役主の有情と非情の区別のように見えるが、実際には命令的使役か誘導的使役かという区別であると考えられる。

以上、心理動詞の使役構文に関する先行研究を見た。このように、先行研究では心理動詞の使役構文について、主に感情動詞に焦点を当てて考察しているが、本稿は感情動詞だけでなく、思考動詞（「考える」など）、感覚動詞（「疲れる」など）、知覚動詞（「感じる」など）についても論じる。

2. 研究対象

本稿では工藤（1995）、山岡（2000）と吉永（2008）を参考にして、心理動詞を次の①～④の四種類に分類する。

①思考動詞—思う、考える、推測する、判断する など

〈思考〉…知的な精神活動。目的を伴うことが多く、能動的、意志的。

②感情動詞—悩む、困る、あきれ、あせる など

〈感情〉…色々な精神状態、心理的作用。（喜怒哀楽、好き嫌い、高揚・落胆など）

③感覚動詞—痛む、痺れる、震える など

〈感覚〉…感覚器官からの刺激により感知される神経作用。また、程度副詞「たいへん、かなり、非常に」などによって修飾可能なものである。

④知覚動詞—音がする、味がする、感じる など

〈知覚〉…感覚器官からの刺激により感知される神経作用。また、程度副詞「たいへん、かなり、非常に」などで修飾不可能なものである。

本稿では心理動詞を以上の四種類に分類したうえで、思考動詞 20 語、感情動詞 83 語、感覚動詞 32 語、知覚動詞 25 語の合計 160 語を対象に考察する。まず、この 160 語を①使役構文になるものとならないものに分類し、使役構文になるものについて、②能動文でど

のような格をとるか、③使役構文で増加型になるか交替型になるか、④増加型の場合、命令的增加型か誘導的增加型かという観点から分類し、心理動詞には5つのタイプがあることを指摘する。心理動詞がとる格については「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を用いて用例数を調べた。

3. 心理動詞の使役構文の成否

まず、本節では心理動詞の160語を使役構文になるものとならないものについて見る。160語のうち、使役構文になるものは76語(47.5%)であった。これを上の心理動詞の四分類の別に見ると、思考動詞は使役になるものが17語(「考える」など)、ならないものが3語(「想像がつく」など)、感情動詞は使役になるものが58語(「悲しむ」など)、ならないものが25語(「腹が立つ」など)、感覚動詞は使役になるものが0語、ならないものが32語(「疲れる」など)、知覚動詞は使役になるものが1語(「感じる」)、ならないものが24語(「ツルツルする」など)であった。このことから、使役構文になるものはほぼ思考動詞と感情動詞であることが分かる。

4. 心理動詞の対象がとる格

次に、本節では使役構文になる心理動詞76語の対象がとる格について見る。本稿では「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を用いて、心理動詞76語のとる格の用例数を調べた。その結果、対象にヲ格のみとるものは18語(「恨む」など)、ニ格のみとるものは31語(「困る」など)、ヲ／ニ格両用のうち、ヲ格寄りのものは14語(「悲しむ」など)、ニ格寄りのものは11語(「悩む」など)、ガ格のものは2語(「分かる」など)であった²⁾。これを表2に示す。

表2 使役構文になる心理動詞の対象がとる格

格	語彙リスト
ヲ格	推測する、推察する、察する、判断する、祈る、思う、思いつく、考える、願う、望む、反省する、感じる、疑う、確信する、信じる、憎む、恨む、惜しむ(18語)
ニ格	気がつく、飽き飽きする、飽きる、ウンザリする、懲りる、呆れる、安心する、怒りを覚える、イライラする、ウキウキする、ガッカリする、カリカリする、緊張する、困る、白ける、じれる、ゾクゾクする、ゾットする、退屈する、照れる、ハラハラする、ビクビクする、ホットする、まいる、むかつく、ムシャクシャする、滅入る、めげる、妬ける、弱る、ワクワクする(31語)
ヲ格寄り	諦める、感謝する、尊敬する、軽蔑する、期待する、恥じる、焦る、恐れる、悲しむ、心配する、悔やむ、後悔する、楽しむ、喜ぶ(14語)
ニ格寄り	懂れる、同意する、迷う、驚く、感心する、感動する、苦しむ、敬服する、嫉妬する、同情する、悩む(11語)
ガ格	ひらめく、分かる(2語)

5. 心理動詞の使役構文の型と使役主

次に、本節では、心理動詞の使役構文の型と使役主について見る。1節で述べたように、

(16) の「憎む」のような心理動詞は増加型にはなるが、交替型にはならず、(15) の「書く」のような運動動詞と同様である。これに対し、(17) の「困る」のようなものは交替型にはなるが、増加型にはならない。また、(18) の「悲しむ」のようなものは増加型にも交替型にもなる。

- (15) a. 花子は手紙を書いた。
 b. 太郎は花子に手紙を書かせた。(増加型○)
 c. *手紙は花子を(に)書かせた。(交替型×)
- (16) a. 花子は社会の不公平を憎んだ。
 b. 貧富の格差は花子に社会の不公平を憎ませた。(増加型○)
 c. *社会の不公平は花子を(に)憎ませた。(交替型×)
- (17) a. 花子は太郎のいたずらに困った。
 b. *毎日の電話は花子を太郎のいたずらに困らせた。(増加型×)
 c. 太郎のいたずらは花子を困らせた。(交替型○)
- (18) a. 花子は太郎の死を／に悲しんだ。
 b. 二人の友情は花子に太郎の死を悲しませた。(増加型○)
 c. 太郎の死は花子を悲しませた。(交替型○)

(= (4) ~ (7))

また、心理動詞の増加型使役構文は命令的使役か誘導的使役かにも関わっている。外的運動動詞が使役構文を作る場合、先述の (15b) の「太郎は花子に手紙を書かせた」のように、命令的増加型使役となる。一方、心理動詞の場合は、(19a) の「反省させた」は (19b) のように「花子」が「太郎」に反省するように直接命令したという場合もあれば、(19c) のように「花子が太郎の失敗で病気になった」ということによって間接的に「太郎」を反省するように誘導したという場合もある。これに対し、(20a) の「後悔させた」は (20b) のように「花子」が「太郎」に後悔するように直接命令したという場合が考えられず、(20c) のように「花子が太郎の軽率な行動で病気になった」ということによって間接的に「太郎」を後悔するように誘導したという可能性のみがある。

- (19) a. 花子が太郎にその失敗を反省させた。(増加型、有情物○)
 b. 花子が太郎に反省しなさいと言って、太郎はその失敗を反省した。(命令○)
 c. 花子が太郎の失敗で病気になって、太郎はその失敗を反省した。(誘導○)
- (20) a. 花子が太郎に軽率な行動を後悔させた。(増加型、有情物○)
 b. 花子が太郎に後悔しなさいと言って、太郎は軽率な行動を後悔した。

(命令×)

- c. 花子が太郎の軽率な行動で病気になって、太郎は軽率な行動を後悔した。
 （誘導○）
 （＝（13）（14））

そこで、本稿では心理動詞の使役構文を増加型と交替型に分け、増加型をさらに「命令±，誘導±」の可否によって分類し、タイプⅠ～Ⅴの5通りがあることを指摘する。さらに、それぞれの対象のとり格や「思考」、「感情」、「感覚」、「知覚」の違いについても見る。その結果を表3にまとめる。表3の灰色の部分に使役構文になる動詞がないことを示す。次節からタイプⅠ～Ⅴについて詳しく見る。

表3 心理動詞の使役構文による分類

		増 加 型			
		命令＋，誘導－	命令＋，誘導＋	命令－，誘導＋	命令－，誘導－
交 替 型	交替型－		タイプⅠ フ格 思考:推測する(6語) フ格 感情:反省する(1語) フ格 寄り 感情:諦める(2語)	タイプⅡ フ格 思考:思う(4語) 知覚:感じる(1語) フ格 寄り 感情:尊敬する(2語) ニ格 思考:気がつく(1語) ガ格 思考:ひらめく(1語)	タイプⅤ ニ格 感情:腹が立つ(17語) ガ格 思考:想像がつく(3語) 感情:助かる(8語) 感覚:痛む(32語) 知覚:見える(24語)
	交替型＋			タイプⅢ フ格 思考:信じる(3語) 感情:憎む(3語) フ格 寄り 思考:期待する(1語) フ格 寄り 感情:悲しむ(9語) ニ格 寄り 感情:憧れる(3語) ニ格 感情:飽きる(4語) ガ格 思考:分かる(1語)	タイプⅥ ニ格 寄り 感情:驚く(8語) ニ格 感情:困る(26語)

5.1 タイプⅠ

まず、タイプⅠについて見る。タイプⅠは増加型で命令も誘導も表すものである。これに属する心理動詞は表4の「推測する」「判断する」「諦める」のように、対象にヲ格をとる思考動詞やヲ格寄りの感情動詞である。

表4 タイプⅠの心理動詞

使役の型	使役の意味		心理動詞の格と種類	
増加型	命令	○	ヲ格	思考動詞:推測する、推察する、察する、判断する、考える、祈る(6語)
	誘導	○	ヲ格	感情動詞:反省する(1語)
交替型	×		ヲ格 寄り	感情動詞: 諦める、感謝する(2語)

例えば、「推測する」は(21b)のように増加型で、命令も誘導も表し得る使役構文になるのに対し、(21c)のように交替型の場合は非文になる。(22)の「感謝する」も同様である。

- (21) a. 刑事は犯人を推測した。
 b. 上司は刑事に犯人を推測させた。(増加型○)
 ≡ 上司が刑事に犯人を推測しなさいと言って、刑事は犯人を推測した。(命令○)
 ≡ 上司の何気ない一言がヒントになって、刑事は犯人を推測した。(誘導○)
 c. *犯人は刑事に推測させた。(交替型×)
- (22) a. 花子は医者に感謝した。
 b. 母は花子を医者に感謝させた。(増加型)
 ≡ 母が花子に医者に感謝しなさいと言って、花子は医者に感謝した。(命令○)
 ≡ 母が医者に助けられて、花子は医者に感謝した。(誘導○)
 c. *医者は花子に感謝させた。(交替型×)

このタイプは、「推測する」「推察する」などのように内面的思考を表す動詞、または「諦める」「反省する」などのように内面的感情を表す動詞であるが、主体が意図的に脳による対象への働きかけを行うことを表し、対象にヲ格をとる、またはヲ格寄りという点で、外的運動動詞の他動詞と似ている。そのため、命令を表し得る増加型の使役構文を作ることができると考えられる。

5.2 タイプⅡ

次に、タイプⅡについて見る。タイプⅡは命令を表す増加型にならず、誘導を表す増加型のみになり、また、交替型にもならないものである。これに属する心理動詞は表5のように、対象にヲ格をとる思考動詞やヲ格寄りの感情動詞もあれば、対象にヲ格をとる感覚動詞やニ格またはガ格をとる思考動詞もある。

表5 タイプⅡの心理動詞

使役の型	使役の意味		心理動詞の格と種類	
増加型	命令	×	ヲ格 ヲ格	思考動詞: 思う、思いつく、願う、望む(4語) 感覚動詞: 感じる(1語)
	誘導	○	ヲ格寄り	感情動詞: 尊敬する、軽蔑する(2語)
交替型		×	ニ格	思考動詞: 気がつく(1語)
			ガ格	思考動詞: ひらめく(1語)

例えば、「軽蔑する」は (23b) のように増加型にはなるが、(23c) のように交替型にはならない。増加型の場合、命令の意味を表さず、誘導のみを表すという点でタイプ I とは異なる。(24) の「ひらめく」も同様である。

- (23) a. 花子は太郎を軽蔑した。
 b. 次郎は花子に太郎を軽蔑させた。(増加型○)
 ≠ 次郎が花子に太郎を軽蔑しなさいと言って、花子は太郎を軽蔑した。(命令×)
 ≡ 次郎が花子に太郎の悪口を言って、花子は太郎を軽蔑した。(誘導○)
 c. *太郎は花子に軽蔑させた。(交替型×)
- (24) a. 花子にいいアイディアがひらめいた。
 b. 太郎は花子にいいアイディアをひらめかせた。(増加型)
 ≠ 太郎が花子にいいアイディアがひらめきなさいと言って、花子にいいアイディアがひらめいた。(命令×)
 ≡ 太郎が花子に色々アドバイスしたので、花子にいいアイディアがひらめいた。(誘導○)
 c. *花子にいいアイディアをひらめかせた。(交替型×)

タイプⅡのうち、タイプⅠと似ているように内面的思考や感情を表す動詞が多いが、主体が脳によって対象への働きかけを表す点で外的運動動詞の他動詞に近い性質を持つと考えられる。そのため、増加型の使役構文を作ることができる。しかし、タイプⅠは (25) のように命令形になり、意志性が相対的に強いのに対し、タイプⅡは (26) のように命令形になるものもあれば、(27) のようにならないものもあり、また、命令形になるものもその心理活動をコントロールすることが難しく、意志性が相対的に弱い。そのため、タイプⅠは増加型使役で使役主の命令を表すのに対し、タイプⅡは使役主の命令を表さず、その意図的または非意図的な誘導のみを表すと思われる。

(25) 判断しろ／考えろ／諦めろ (タイプⅠ)

(26) 尊敬しろ／[?]軽蔑しろ (タイプⅡ)

(27) *ひらめけ／*思いつけ (タイプⅡ)

5.3 タイプⅢ

次に、タイプⅢについて見る。タイプⅢは増加型にも交替型にもなるが、増加型で命令を表さず、誘導のみを表す。これに属する心理動詞は表6のように、思考動詞より感情動詞の方が多く、また、ヲ格をとるものもあれば、ニ格やガ格をとるものもある。

表 6 タイプⅢの心理動詞

使役の型	使役の意味		心理動詞の格と種類	
増加型	命令	×	ヲ格 ヲ格	思考動詞: 疑う、確信する、信じる(3 語) 感情動詞: 憎む、恨む、惜しむ(3 語)
	誘導	○	ヲ格寄り ヲ格寄り	思考動詞: 期待する(1 語) 感情動詞: 恥じる、悔やむ、後悔する、楽しむ、喜ぶ、 焦る、恐れる、悲しむ、心配する(9 語)
交替型	○		ニ格寄り	感情動詞: 憧れる、同意する、迷う(3 語)
			ニ格	感情動詞: 飽き飽きする、飽きる、ウンザリする、幻滅 する(4 語)
			ガ格	思考動詞: 分かる(1 語)

例えば、「信じる」は (28b) や (28c) のように増加型にも交替型にもなるが、増加型で命令を表さず、誘導のみを表す。交替型にもなる点でタイプⅡとは異なる。(29) の「悲しむ」も同様である。

- (28) a. 花子は太郎を信じた。
 b. 次郎は花子に太郎を信じさせた。(増加型○)
 ≠ 次郎が花子に太郎を信じなさいと言って、花子は太郎を信じた。(命令×)
 ≡ 次郎が花子に証拠を見せたので、花子は太郎を信じた。(誘導○)
 c. 太郎は花子に (太郎のことを) 信じさせた。(交替型○)
- (29) a. 花子は太郎の死を悲しんだ。
 b. 幼い太郎の子供は花子に太郎の死を悲しませた。(増加型)
 ≠ 幼い太郎の子供が花子に悲しみなさいと言って、花子は太郎の死を悲しんだ。
 (命令×)
 ≡ 幼い太郎の子供を見て、花子は太郎の死を悲しんだ。(誘導○)
 c. 太郎の死は花子を悲しませた。(交替型○)

タイプⅢも主体が対象への働きかけを表す点で外的運動動詞に近い性質を持つと考えられる。そのため、増加型の使役構文を作ることができる。ただし、タイプⅡと同様に、(30) のように命令形になるものもあれば、(31) (32) のように命令形にならないものもある。また、命令形になるものであってもその心理活動をコントロールすることが難しく、「考える」「判断する」などのタイプⅠに比べると意志性が相対的に低い。そのため、増加型の使役構文を作ることができるが、意味的には命令を表さず、誘導のみを表す。さらに、(28c) (29c) のように交替型の使役構文を作ることにもできる。この点でタイプⅡとは異なる。

- (30) 信じろ／惜しめ／喜べ
 (31) [?]疑え／[?]恨め／[?]憎め
 (32) ^{*}悲しめ／^{*}心配しろ／^{*}幻滅しろ

5.4 タイプⅣ

次に、タイプⅣについて見る。タイプⅣは増加型にならず、交替型のみになるものである。これに属する心理動詞は表7のように二格や二格寄りの感情動詞である。

表7 タイプⅣの心理動詞

使役の型	使役の意味		心理動詞の格と種類
増加型	命令	×	二格寄り 感情動詞： 驚く、感心する、感動する、苦しむ、敬服する、嫉妬する、同情する、悩む (8 語) 二格 感情動詞： 呆れる、安心する、怒りを覚える、イライラする、ウキウキする、ガッカリする、カリカリする、緊張する、困る、白ける、じれる、ゾクゾクする、ゾッとする、退屈する、照れる、ハラハラする、ビクビクする、ホッとする、まいる、むかつく、ムシャクシャする、滅入る、めげる、妬ける、弱る、ワクワクする (26 語)
	誘導	×	
交替型		○	

例えば、「むかつく」は (33b) のように増加型にならないのに対し、(33c) のように交替型にはなる。増加型にはならない点でタイプⅢとは異なる。(34) の「苦しむ」も同様である。

- (33) a. 花子は夫にむかついた。
 b. ^{*}義母は花子を夫にむかつかせた。(増加型×)
 c. 夫は花子をむかつかせた。(交替型○)
 (34) a. 花子は虐待に苦しんだ。
 b. ^{*}継父は花子を虐待に苦しませた。(増加型×)
 c. 虐待は花子を苦しませた。(交替型○)

タイプⅣは (35) のようにほぼ命令形にならないことから、主体から対象への働きかけが弱く、主体の中にその感情がとどまっていることを表すことが分かる。この点ではタイプⅠ～Ⅲほど外的運動動詞に接近していない。そのため、タイプⅣは命令を表す増加型にも誘導を表す増加型にもならない。この点でタイプⅢとは異なる。

- (35) ^{*}驚け／^{*}苦しめ／^{*}むかつけ／^{*}嫉妬しろ／^{*}困れ

5.5 タイプV

最後に、タイプVについて見る。タイプVは増加型にも交替型にもならず、使役構文を作ることができないものである。これに属する心理動詞は表8のように対象に二格をとる感情動詞や対象にガ格をとる感覚動詞、知覚動詞が多い。

表8 タイプVの心理動詞

使役の型	使役主		心理動詞の格と種類
増加型	命令	×	二格 感情動詞: 腹が立つ、頭にくる、関心(興味)がある、気が急ぐ、気が立つ、気が咎める、気が晴れる、心が痛む、心が和む、鳥肌が立つ、はらわたが煮えくり返る、身の毛がよだつ、虫酸が走る、胸踊る、胸が高鳴る、良心が痛む、腹が決まる(17語) ガ格 思考動詞: 見当がつく、察しがつく、想像がつく(3語) ガ格 感情動詞: 気になる、癪に障る、いやになる、たすかる、サッパリする、スッキリする、スツとする、せいせいする(8語) ガ格 感覚動詞: 痛む、うずく、(顎/膝が)ガクガクする、(肌が)カサカサする、(頭が)ガンガンする、(胃が)キリキリする、(鼻が)グズグズする、(目が)クラクラする、(目が)くらむ、(腹が)ゴロゴロする、頭痛がする、(目が)ショボショボする、(頭が)ズキズキする、(背筋が)ゾクゾクする、(目が)チカチカする、(体が)チクチクする、(胸が)ドキドキする、(顔が)ヒリヒリする、震える、(頬が)ほてる、(胃が)ムカムカする、(足が)ムズムズする、(のどが)渇く、くたびれる、(肩が)凝る、痺れる、(お腹が)空く、疲れる、(足が)つる、(頭が)のぼせる、(腹が)減る、(胃が)もたれる(32語) ガ格 知覚動詞: 感じがする、聞こえる、気配がする、見える、音がする、声がする、鼻をつく、味がする、香りがする、手触りがする、匂う、匂いがする、プンプンする、ムンムンする、ジメジメする、ゴワゴワする、ザラザラする、スベスベする、ツルツルする、ヌルヌルする、ネトネトする、ネバネバする、ベタベタする、ベトベトする(24語)
	誘導		
交替型		×	

例えば、「腹が立つ」は(36b)(36c)のように増加型も交替型も作ることができない。(37)の「味がする」も同様である。ただし、「腹が立つ」の場合、使役構文を作る際に「腹が立たせる」ではなく「腹を立たせる」に変えると容認される。

- (36) a. 花子は太郎に腹が立った。
 b. 次郎は花子を太郎に腹 {*が/を} 立たせた。(増加型×)
 c. 太郎は花子に (太郎のことで) 腹 {*が/を} 立たせた。(交替型×)
- (37) a. この料理はいい味がした。
 b. *花子はこの料理をいい味がさせた。(増加型×)

また、タイプVの感覚動詞の場合、(38)のようにBCCWJには使役構文に使われる用例も

あるが、ほぼ外国文学作品の訳文であり、翻訳調を帯びていると思われる。

- (38) 「やあ、レディたち」ケリーがうれしそうにギルを迎えた。リンゼイは彼に向かって気難しい顔を向けた。ギルはリンゼイにキスをした。彼女の胸をときどきさせる短い挨拶だった。

(『キスは厳禁! : 夢見る三姉妹』ジュディ・クリسنベリ(著)/本多しおり(訳))

さらに、(39) の「顔がほてる→顔をほてらせる」や (40) の「膝がガクガクする→膝をガクガクさせる」のような使役構文になるものもあるが、これらは再帰構文として使われており、増加型でも交替型でもない。このような使役に関しても別稿で論じることにする。

- (39) 「こうちょう先生、あの、あの…あそびばのかぎをあけてください。」こうすけは、かおをほてらせた。(『どくしょのじかんによむ本: 2 小学2年生』宮川ひろ)

- (40) 柳田と金沢は膝をガクガクさせながら、倒れている敵に近づいた。

(『暴力租界: 長篇ハード・ロマン』大藪春彦)

おわりに

本稿は日本語の心理動詞の使役構文について考察し、先の表3のように、タイプⅠ～Ⅴの5通りがあることを指摘した。その上で、次の特徴があることを明らかにした。

タイプⅠは増加型で命令も誘導も表すものであり、対象にヲ格をとる思考動詞やヲ格寄りの感情動詞である。

タイプⅡは命令を表す増加型にならず、誘導を表す増加型のみになるものであり、対象にヲ格をとる思考動詞やヲ格寄りの感情動詞もあれば、対象にヲ格をとる感覚動詞やニ格またはガ格をとる思考動詞もある。

タイプⅢは増加型にも交替型にもなるが、増加型で命令を表さず、誘導のみを表すものであり、ヲ格をとるものもあれば、ニ格やガ格をとるものもある。

タイプⅣは増加型にならず、交替型のみになるものであり、ニ格やニ格寄りの感情動詞である。

タイプⅤは増加型にも交替型にもならず、使役構文を作ることができないものであり、対象にニ格をとる感情動詞や対象にガ格をとる感覚動詞、知覚動詞が多い。

本稿は上のように増加型使役か交替型使役か、使役主が有情物か非情物かという観点から日本語の心理動詞を分類した。しかし、心理動詞によってなぜそのような違いが生じる

かについては明らかになっていない。これについては今後の課題とする。

注

- 1) 例文で下線をつけたものは能動文における動作主または感情主を表し、波線をつけたものは対象を表し、四角で囲んだものは増加型の使役主を表す。また、前に*をつけた用例は非文であることを示す。
- 2) ヲ格のみとるもの、ヲ格寄りのもの、ニ格寄りのもの、ニ格のみとるものの判断基準は次の通りである。

「ヲ格」の割合	心理動詞のとり格
100%	ヲ格
70～100%未満	ヲ格寄り
30～70%未満	ヲ／ニ両用
0～30%未満	ニ格寄り
0%	ニ格

参考文献

- 浅山佳郎（1999）「感情動詞の補足語の格と感情形容詞」『神奈川大学言語研究』22、57-72 頁。
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキストー現代日本語の時間の表現』ひつじ書房。
- 外崎淑子（2013）「日本語心理動詞の性質についてー受身・使役の考察から」『東海大学紀要 国際教育センター』3、15-27 頁。
- 山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』くろしお出版。
- 吉永尚（2008）『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院。

用例出典・資料

国立国語研究所 現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2125 の財政支援を受けたものです。この場を借りて「東海国立大学機構融合フロンティア次世代研究事業」に御礼申し上げます。

The Causative Sentences of Japanese Psychological Verbs

WANG, Yunjiao

Abstract

In this paper, we proposed that there are five types of causative sentences of Japanese psychological verbs as follow:

Type I: Can create the imperative increasing causative syntax or the inductive increasing causative syntax, but not the alternating causative one. (There are many Thinking verbs that take the “*Wo*” case and Emotional verbs that take more “*Wo*” case than the “*Ni*” case in this type.)

Type II: Can only create the inductive increasing causative syntax. (There are Thinking verbs that take the “*Wo*” case and Emotional verbs that take more “*Wo*” case than the “*Ni*” case, and there are Sensation verbs that take the “*Wo*” case and Thinking verbs that take the “*Ni*” case or the “*Ga*” case in this type.)

Type III: Cannot create the imperative increasing causative syntax, but can create the inductive increasing causative syntax and the alternating one. (It is easier to take Emotional verbs than Thinking verbs, and some verbs take the “*Wo*” case, while others take the “*Ni*” case or the “*Ga*” case in this type.)

Type IV: Cannot create the increasing causative syntax, but can create the alternating one. (There are Emotional verbs that take more “*Ni*” case than the “*Wo*” case or take only the “*Ni*” case in this type.)

Type V: Cannot create the Causative syntax. (There are many Emotional verbs that take the “*Ni*” case, and Sensation verbs that take the “*Ga*” case in this type.)

Keywords : Psychological verbs, alternating causative syntax, increasing causative syntax, commands, induction

「思う」と“想”の本動詞用法の対照 —多義語における構文というアプローチの試み—

王 会欣（名古屋大学大学院生）

要旨

日本語の「思う」と中国語の“想”は意味・用法が重なる点もあれば、重ならない部分も見られる。本研究は日本語の「思う」と中国語の“想”を対照し、それぞれの意味・用法の共通点と相違点を明らかにした。単語の意味を立てる上では、構造的な条件を明示しなければならないという基準に従い、両形式の構文タイプを取り出し、考察する方法を用いた。なお、「思う」と“想”が組み立てる構文タイプは本動詞の用法とモダリティ用法があるが、本研究は本動詞の用法のみ研究の対象とした。考察の結果、「思う」と“想”は認識主体が認識の領域に対象を捉えて認識するという点で共通することが明らかになった。また、分類した構文タイプのうち、「感情評価型」は「思う」のみに用いられていた。「名詞＋形容詞＋思う」は感情動詞に相当する表現であり、日本語では感情動詞よりも多用されるのに対し、中国語では“想”ではなく直接感情動詞もしくは対応する感情形容詞が用いられていることがわかった。一方、「知的生産型」「回想型」「銘記型」は“想”のみに用いられており、これは“想”が意志性のある認識を含意しているためだと考えられる。

キーワード： 思う、想、多義語、構文タイプ、対照

はじめに

日本語の「思う」と中国語の“想”は同じ認識動詞として、いずれも本動詞の用法とモダリティ用法を持つ。例えば、以下のような例（1）と（2）は両形式の本動詞の用法であり、例（3）と（4）はモダリティ用法である。

- （1）彼はそのことを思い¹⁾ながら、富士山を眺めていた。

他一边想着那件事，一边眺望着富士山。

- （2）彼は亡くなったお母さんのことを思っていた。

他想逝去的妈妈了。

- （3）たぶん彼は来ないと思います。

我想他应该不来了。

(4) 帰国したいと思います。

我想回国。

「思う」と“想”は、従来の研究ではモダリティ用法についての議論が多く、モダリティとしての用法が重要であることがうかがわれるが、モダリティ用法の違いを理解するためには、まずは、本動詞を詳しく対照する必要がある。本稿では、両形式の例(1)と(2)のような本動詞としての用法を考察の対象とする。「思う」と“想”は上記のように対応している場合があるが、対応しない場合もある。次の例(5)は“想”のみが用いられるのに対して、例(6)は「思う」のみが使える。

(5) 他被警察抓了，你想想办法。

彼は警察に逮捕されました。君はなんとかしなさい。「方法を考え(*思い)なさい」

(6) 子供のことをとても可愛く思っている。

我觉得(*想)孩子非常可爱。

つまり、日本語の「思う」と中国語の“想”は意味・用法が重なる点もあれば、重ならない部分も見られる。そこで、本研究は日本語の「思う」と中国語の“想”を対照し、それぞれの意味・用法の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。また、本研究は単語の意味を立てる上では、構造的な条件を明示しなければならないと考え、両形式の構文タイプを取り出した上で、対照を行っていく。

1. 先行研究と両形式の構文分類

本節では、まず、構文というアプローチが多義語の分析においても有効であることを説明する。次は、「思う」と“想”を比較対照するにあたり、まずは両形式の本動詞の意味・用法を下位分類する。

1.1 多義語における構文の有効性

よく知られているように、本研究の対象となる「思う」と“想”はいくつかの意味を持つ多義語である。奥田(1967)と志波(2019)などは、構文というアプローチが多義語の分析においても有効性を発揮することを示している。

奥田(1967)は、単語の意味を立てる上では、その意味が存在する条件を明確にしなければならないと記述している。そして、多義語の「見る」を例に説明している。「流行歌にみる世相史」の例について、『岩波』はこのみるを「判断する」という意味に解釈している。しかし、現代語では通常「で格」(先入見で判断する)で心理活動の材料をしめし、「に格」には用いられない。したがって、『岩波』の解釈は不適切であると指摘している。例文「流

行歌にみる世相史」における「みる」の「発見する」という意味は「…に(ありかのに格)…をみる」の構造の中に存在する。動詞の語彙的な意味を実現する条件は、多義語においては、いくつかの意味の間に境界線を与えてくれると奥田(1985:13)は述べている。

志波(2019)は、多義語の「見える」を考察対象とし、多義語の分析に構文という観点と方法が有効であることを主張している。例えば、視覚認識の意味は、「見える」が具体名詞と現象名詞と組み合わせるときに現れる意味である(例:夏男が海を見る)。また、「見える」が「有情 N-ガ 抽象 N-ヲ見える」という構造の中では、「知的認識」という意味になる(例:物事の本質が見える)。さらに、存在確認構文「N-ニ 情報 N-ガ/節-ト 見える」の中で「見える」が「存在する」という意味解釈になる(例:新聞に彼の名が見える)。このように、各構文タイプはどのような構造的条件が支えているかを明らかにしている。

本研究は、このような、単語の意味を構文的条件が支えているという観点から、「思う」と“想”が構成する構文の要素の特徴を考察し、それによって細かく分類する。

1.2 「思う」の構文分類

「思う」がヲ格の目的語を取る場合、これは本動詞である。「思う」を考察対象とする研究は非常に多く、その中でも文末の「と思う」を扱っている先行研究が特に多い(森山 1992、宮崎 1999 など)。これに対し、「を思う」の意味・用法に関する研究は多くないが、高橋(2007)がある。

高橋(2007:46)は、ヲ格名詞句を伴う「思う」には、別義 1 と別義 2 があると述べている。

別義 1: (〈外部からの刺激により〉) 〈ある対象 (の属性や対象に関する事柄) を〉 〈意識する〉

(7) ²⁾あのラッシュアワーの人ごみを思うと、奇跡的といってもよかった。(高橋 2007:46)

別義 2: 〈ある対象(人・組織)を〉 〈大切な存在として〉 〈意識する〉

(8) 心から選手を思っているマネージャーなら、むしろ礼を言うかもしれない。(高橋 2007:46)

高橋(2007)はヲ格を取る「思う」の意味を分析しているが、意味を支える構造的条件を指定していない。また、以上のような名詞句のみを伴う「思う」のほか、「彼の振る舞いを羨ましく思う」のような、形容詞連用形と共に起る構造形式もある。本研究はこのような構造的な条件を重視しながら、「思う」が本動詞として用いられる際の意味・用法进行分类する。「～を思う」には大きくヲ格の名詞を目的語にとるタイプ 1 と、形容詞と組み合わせるタイプ 2 という 2 つのタイプがある。これらは全て「思う」の本動詞の用法と考える。

以上述べた本動詞「思う」の 2 つの分類は王(2021)の分類を修正したものである。各分類の典型的な構造形式と例文を示すと、表 1 のようになる。

表 1: 「思う」の構文分類

分類		典型的な形式と例文
本動詞	タイプ 1	【名詞句を思う】彼の苦勞を思うと、涙が出た
	タイプ 2	【名詞句を感情評価の形容詞-く思う】彼のことを羨ましく思う

「思う」が構成する構文には「～を思う」のほか、「ように思う」と「と思う」がある。この中で、「を思う」のみを本動詞の用法と認めるのは、「思う」が動詞の語彙的な意味を持ち、文の述語になるためである。「と思う」については、仁田(1991)では「非過去、非否定、1 人称主体の省略」といった条件の元で、モダリティ形式として捉えている。典型的なモダリティは発話時の話し手の態度であり、「過去、否定、話し手以外」に関する態度の場合は「疑似モダリティ」(仁田 1991:54)と呼ばれている。例(9)は複文になっており、従属節を命題内容とし、その命題に対する話し手の「不確かな判断」を表している。本研究では、命題内容に関する話し手の心的な態度を表すものを広く「モダリティ」³⁾と捉え、「と思う」を「思う」のモダリティ用法と扱う。「ように思う」は通常以下の例文のように、「と思う」と言い換えられる。

(9) 体調が良くなっているように思う。

(10) 体調が良くなっていると思う。

国立国語研究所(1951:277)では、認識内容を表す「～ように」の節は、「～と」節に比べると、より不確かな、または婉曲的な判断の意味を表すと記述されている。つまり、「ように思う」と「と思う」は認識内容に対する認識主体の確信度が異なる。しかし、命題内容に対する話し手の判断を表す点で共通している。よって、本研究は「と思う」と共に、「ように思う」もモダリティ用法として捉える。

さらに、「思う」には、「しようと思う」「したいと思う」のようなひとまとまりの表現として使われている表現もある。これらの表現は認識主体の意志・願望という心的な態度を聞き手に向けて婉曲的に述べるという機能を持つため、モダリティ用法と捉え、「と思う」「ように思う」と共に、本稿の対象外とする。

1.2 “想”の構文分類

中国語の“想”については多くの研究の蓄積があるが、先行研究のほとんどはモダリティ用法に関する考察である。その中で、“想”の用法全体を扱い、各意味を支える構造的條件を体系的に記述した研究に、Xu 他(2013)がある。Xu 他(2013)は、“想”に、①想像(想像する)②关注(関心を持つ、心配する)③想念(会いたいと願う)④回想(回想する)⑤思考(思考する、考える)⑥认为(推量する、判断する)⑦打算(するつもりだ)⑧希望(希望する)

という8つの意味を認めている。Xu 他(2013)では、各意味を支える統語的性質（本稿の構造形式）にも言及している。本研究は、Xu 他(2013)を参考にし、構造的条件が“想”の意味用法を決定するという基準に従い、“想”の構文タイプを取り出した。

まず、“想”が本動詞として構成する文には、名詞句を目的語にとるタイプ1、非過去の疑問要素を含む形式を目的語にとるタイプ2、過去の疑問を含む形式を目的語にとるタイプ3の3つがある。さらに、アスペクトマーカの“着”を伴った“想着”組み合わせで「忘れないように覚えている、心がける」という意味を表すタイプ4を取り出した。

以下の“想”の分類は、Xu 他(2013)の分類を修正したものである。各分類の典型的な構造形式と例文を示すと、表2のようになる。

表2：“想”の構文分類

分類		典型的な形式と例文
本動詞	タイプ1	【想 名詞句】 一想到他说的话，就会难过。（彼の言葉を思うと、悲しくなる）
	タイプ2	【想（非過去かつ疑問要素を含む形式）名詞句・節】 我想一下未来怎么办。（将来どうするかを考えてみます）
	タイプ3	【想（過去かつ疑問要素を含む形式）名詞句・節】 你想一下他来过没有。（彼が来たかどうか考えてください）
	タイプ4	【想着 名詞句・意志動詞句】 你想着这件事。（君はこのことを忘れないように）

上記の1～4の構文タイプを“想”の本動詞として認めるのは、“想”が語彙的な意味を持ち、文の述語になるためである。“想”が組み立てる構文には、次のようなものもある。

(11) 我想回国。「私は帰国したいです／帰国したいと思います」

*我想(了 / 着 / 过)回国。

例(11)の“想”は動詞の直前に現れ、さらにアスペクトマーカ“了”（完了），“着”（進行、持続），“过”（経験）が後続することができないため、「意志・願望」を表すモダリティ用法となっていると考えられる（中国語学では、「助動詞」という呼び方が主流である）。

(12) 我想着带纸去。「紙を持っていくのを心がけている→紙を持っていこうと思います」

例(12)は“想”に持続を表すアスペクトマーカ“着”が後続し、さらに(11)のように、

動詞の直前に現れ、「～するつもりだ」という意味を表している。“想着”という組み合わせで「意志」を表す疑似モダリティ(典型的なモダリティは通常アスペクトマーカが後続しない)となっている。なお、タイプ5の“想着”は名詞句と動詞句を目的語にとることができ、助動詞ではないと考えられる。

(13) 我想他可能不来了。「彼は来ないかもしれないと思います」

*我真想他可能不来了。「彼は来ないかもしれないと私は本当に思います」

*我想(了/着/过)他可能不来了。

他可能不来了, 我想。

(14) 她想他可能不来了。「彼女は彼が来ないかもしれないと思っています」

他可能不来了, 她想。

例(13)の場合は、主に1人称主語で用いられる。例(14)のような3人称主語は、小説の地の文ジャンルに限られる。“我想”の間には、他の表現を挿入することができず、かつアスペクトマーカが後続できないため、話し手の心的な態度(推測・判断)を表すモダリティになっている。さらに、文中での位置が相対的に自由である挿入句として用いられることがある点でも、本動詞の用法とは異なると考えられる。

以上の理由から、「想+動詞句」(意志・希望)、「我想+節」(推測・判断)、「想着+動詞句」(意志)という3つの構文タイプは本稿の研究対象とせず、こうしたモダリティ用法としての「思う」と“想”についての対照は、別稿に譲ることとする。

なお、本稿は、北京語言大学中国語言語コーパス(BCC)、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ データバージョン 2021.03)」の実例を用い、適宜作例も使いながら分析を行う。

2. 「思う」と“想”の対照

まずは、「思う」と“想”に共通する構文タイプであるタイプ1(名詞句を目的語にとる)から考察を行う。

2.1 タイプ1

構造形式: 【(人名詞-ハ) 名詞句ヲ 思ウ／(人名詞) 想 名詞句】

名詞を目的語にとるタイプ1は、名詞の分類によって、さらに2つの下位分類に分けられる。抽象名詞をとるタイプはタイプ1-A、人・組織名詞をとるタイプはタイプ1-Bと仮称する。

2.1.1 タイプ1-A (知的認識型)

構造形式: 【(人名詞-ハ) 抽象名詞句ヲ 思ウ／(人名詞) 想 抽象名詞句】

タイプ 1-A は、認識主体が認識の領域に対象を捉えて認識するという意味を表す構文である。奥田(1968-72 [1983:97])は、ヲ格の抽象名詞と思考動詞との組み合わせは「知的なむすびつき」と呼んでいる。志波(2019)はこのような構文は「知的認識型」と呼んでいる。本研究は、志波(2019)に倣って、タイプ 1 を「知的認識型」と名づける。「知的認識型」は目的語が抽象名詞であることが構造の重要な特徴であり(奥田 1968-73 [1983:97]、志波 2019)、「思う」と“想”のいずれもこの構文を構成する。このタイプの「思う」は文末よりも従属節に現れやすい。これは、感情・感覚の現れは常に何らかの契機が必要となるのである。例(15)～(17)における従属節の認識は主節の感情・感覚のきっかけになると考えられる。このような特徴は通常文末に現れる「と思う」とは大きく異なるところである。

- (15) 私も、予想されるぶしつけな言葉を思うと、なかなか勇気が出ません。(ワット隆子 『私たちは生きる』)「我也是，我一想到会听到那些严厉的话，就怎么也鼓不起勇气来了」
- (16) そんなことを思うと、臉が熱くなってくる。(今東光 『太平記』)「每当我想到那件事时，我的眼皮就会发热」
- (17) 昔子供だったころ、この蟬が鳴きはじめると、残り少ない夏休みを思って胸が痛んだものだった。(佐藤さとる 『だれも知らない小さな話』)「以前还是个孩子的时候，每当这个夏蝉开始鸣叫的时候，想到所剩无几的暑假，就会很伤心。」

2.1.2 タイプ 1-B: (感情的態度型)

構造形式: 【(人名詞-ハ) 人・組織名詞句ヲ 思ウ／(人名詞) 想 人・組織名詞句】

タイプ 1-B は、認識主体が人・組織に対して、ある種の感情や態度を持つことを表す構文タイプである。奥田(1968-72 [1983:97])では、対象に対する感情、評価、判断、捉え方などを表すヲ格名詞と動詞の組み合わせは「態度の結びつき」と呼ばれている。特に「思う」が人を示す名詞と組み合わさる場合、感情的な態度のむすびつきを実現すると記述されている。本稿は奥田(1968-72 [1983:97])を参考にし、タイプ 1-B を「感情的態度型」と名付ける。「感情的態度型」は目的語が人・組織の名詞であることが構造の重要な特徴であり、「思う」と“想”のいずれもこの構文を構成する。

- (18) 私が母を思うように子ども達もまた私を思ってくれている。(Yahoo!ブログ)「孩子们也会像我想妈妈一样想我。」
- (19) ごく普通の華僑が祖国を愛し、祖国を思い、祖国の為に何かするということは極めて当然のことである。(恵京仔 『祖国之鐘』)「普通的华侨，爱祖国，想祖国，为祖国做些什么是理所当然的。」

以上は「思う」と“想”が対応する場合であるが、同じ構造を取っていても意味が対応しない場合がある。日本語の「思う」はいくつかの派生的な意味を帯びる。(20)は「恋慕う」、(21)は「心配する」の意味を実現している。さらに(22)、(23)は「人・組織のためを思う」の構造で、「～のために考える」という意味を表す。中国語の“想”は人・組織の名詞と組み合わせで、「懐かしむ、会いたいと願う」という意味のみを表す。例(24)と(25)の場合は、会いたいという願望の意味合いが強い。これに対し、日本語の「思う」は、「認識対象を重要な存在として、認識領域に捉える」という意味を表し、願望の意味が読み取れない。こうした違いから、“想”は例(26)のように、程度副詞の修飾を受けることができるが、「思う」は直接程度副詞の修飾を受けない。

(20) ずいぶん前からおじょうさんのことをおもっていたの。(作例)「从很早以前就开始想/爱慕(恋慕う)你了。」

(21) 「文哉、ありがとう。あんたがそこまで私を思ってくれてたなんて考えてもいなかったわ」「あんな別れ方したもんだから、ずっと気になっていたんです。…」(藤田宜永 『転々』)「“文哉，谢谢你。没想到你竟然这么想/担心(心配する)我。”“因为是以那种方式告别的，所以一直很担心。”

(22) 国のためを思う 「为国家利益想/着想」

(23) きみのためを思ってこう言うのだ。「为你想/(着想・好)才这么说的」

(24) “多年不见，还真有点想你。”(莫言 《四十一炮》)「何年間会っていないから、ちょっと会いたいなあ」

(25) (墓参りをするとき)“蒲老师，我们想你……”(人民日报 1986)「蒲先生、会いたい」

(26) 很想妈妈。(作例)

*お母さんのことをとても思う。

○お母さんにとても会いたい。

○お母さんのことをとても懐かしく思う。(「思う」のタイプ2)

2.2 「思う」のタイプ2:「感情評価型」

構造形式:【(人名詞-ハ) 名詞ヲ 形容詞-ク/ニ 思フ】

「思う」のタイプ2は、認識主体が対象にプラスやマイナスの評価を行いながら感情を向けることを表す構文である。この構文の形式上の特徴は、感情評価を表す形容詞・形容動詞と共起することである(奥田 1968-72 [1983:123])ため、本稿はタイプ2を「感情評価型」と名付ける。「名詞(目的語)＋形容詞・形容動詞＋思う」は「羨む、同情する、恨む、懐かしむ」などの感情動詞に相当する表現になる。この場合、中国語では対応する感情動詞(27、28)もしくは形容詞(29)を用いて表現する。

- (27) ときどき君の自由を羨ましく思う。(左能典代 『彼女たちのオフィスで』)「有时候会(*想)羡慕你的自由(君の自由を羨む)」
- (28) 毎日満員電車で揺られ通勤する男性たちを気の毒に思うことがよくあります。(読買新聞 2005)「经常会(*想)同情那些在每天被挤的满满的电车里摇晃着去上班的男性们。」
- (29) こんな家に生まれた母の血を引く自分を誇らしく思う。(加藤直 『雪原の夢』)「母亲出生在这样一个家庭，我为继承了母亲的血统而(*想)感到骄傲。」

日本語では、特に1人称に対し、こうした感情動詞は使われない。1人称の場合は形容詞もしくは「形容詞+思う」で述べるのが自然である。例(30)のような感情動詞の表現は、日常の通常の会話ではほぼ用いられない。日本語における感情動詞は、(31)のように、話し手や聞き手の感情ではなく、3人称者の感情を外側から描写するために存在していると考えられる。例(32)と(33)のような「形容詞+思う」や形容詞文は、話し手の気持ちを直接的に表現する表出文として用いられている。日本語の感情形容詞には人称制限(1人称)があるため、3人称の感情を叙述する際に感情動詞が用いられるのではないかと考えられる。

- (30) 私は君を羨む。(作例)
- (31) 子供に恵まれない大岩根さんが、お隣のおめでたをうらやむあまり、どこからか赤ちゃんをさらってきたんじゃないか。(青井夏海 『赤ちゃんをさがせ』)「没有孩子的大岩根先生一定是太羡慕怀孕的邻居了，所以从哪里抢来了一个孩子。」
- (32) 私は君を羨ましく思う。(作例)
- (33) 私は君が羨ましい。(作例)

次節からは、“想”のみが構成するタイプ2、タイプ3、タイプ4の順番で考察していく。

2.3 “想”のタイプ2：「知的生産型」

構造形式：【(人名詞) 想 (非過去かつ疑問要素を含む形式) 名詞句・節】

“想”のタイプ2はなんらかの問題を解決し、新しいアイデアを生み出そうという生産的認知活動を表す。本稿はタイプ2を「知的生産型」と名付ける。このタイプの“想”は「思う」と対応しない。これは、生産型の“想”の目的語に疑問を含む形式が現れるからだと考えられる。

- (34) 她在想给孩子带的玩具够不够(史铁生《第一人称》)「彼女は子供のために持っているおもちゃが足りるかどうかを(*思っている)考えている」

(35) 我一直在想为什么会这样。(人民日报 1986)「どうしてこんなことになったのかをずっと(*思っていた)考えていた。」

(36) 我现在在想去不去参加, 两个星期真的把我的积极性都磨没了。(微博)「今参加するかどうかを(*思っています)考えています。2週間で本当にモチベーションが下がります」

“想”の目的語に疑問を表す形式が現れるとき、この構文は思考主体が何らかの疑問を解決しようとしているという意味を表す。「疑問を解決する」という行為は思考主体の明確な目的性がうかがわれる。日本語の「思う」は目的性のある認識プロセスを表さず、すでに現存する事物を認識領域に捉えるということが本質で、新しい結論や答えを生み出す認識活動ではないため、使えないのでと考えられる。

よって、日本語の「思う」は(37)のような間接疑問節を直接に目的語にはできないが、(38)のように、引用節であれば自然に用いられる。(37)はヲ格の目的語が直接作用する対象を表し、疑問形式を用いて、目的性のあるプロセスを表しているため、「思う」が使えない。(38)は「と思う」を用いることにより、間接疑問節が引用節になる。「と思う」は聞き手のある対話文に使われ、話し手の認識内容を前面に出す機能を果たしていると考えられる。

(37) *おもちゃが足りるかどうか(目的性のある認識プロセス)を思う。

(38) ○行介はいったいなにを言い出すのか(認識内容)と思う。(平岩弓之 『白い序章』)

一方で、中国語の“想”は「办法(方法), 法子(方法)」などのような潜伏疑問名詞(その語彙的な意味に疑問の意味を含む名詞)を目的語にとることができるのに対し、日本語の「思う」こうした名詞を目的語にはできない。また、例(40)は典型的な潜伏疑問名詞ではないが、「留学のことを考える」ことは、「いつ留学に行くか、どこに留学するか」などの意味を表している(王 2022:337)。いずれの場合にも、「思う」は使えない。これは、これらの抽象名詞が疑問の意味合いを含み持つためである。

(39) 他在想办法救人。「彼は人を救う方法を(*思っている)考えている」

(40) 我想想留学的事。「私はちょっと留学のことを (*思う)考える」

2.4 “想”のタイプ3:「回想型」

構造形式: 【(人名詞) 想 (過去かつ疑問要素を含む形式)名詞句・節】

“想”のタイプ3は、自分の記憶にある不明瞭で曖昧な過去の体験や過去に覚えたことを思い出すことを表す(王 2021:65)。“想”は、過去を表す述語文でかつ疑問を含む形式と共

起する。本稿はタイプ3を「回想型」と名付ける。

- (41) 你想想是不是在哪见过他？（微博）「どこかで彼を見たことがあるかどうかを（*思っ
て）思い返してみてください」
- (42) 我在想我是不是看过这个电影。（作例）「この映画を見たかどうかを（*思っ
て）考えています」
- (43) 他在想当年去日本留学的事。「彼は当時日本に留学することを（*思っ
て）考えていました」
- (44) 我想了半天他的名字，但怎么也想不起来。「ずっと彼の名前を（*思っ
て）考えていたが、何も思い出せなかった」

上で述べた「生産型」と同じように、“想”の目的語には、(41)、(42)のような疑問詞を含む場合もあれば、(43)と(44)のような疑問の意味を含む潜伏疑問名詞の場合もある(43: 当時日本に留学する時、何があったか、44: 彼の名前は何か)。「生産型」はこれから何をするかという未来の疑問を表すのに対し、「回想型」は過去に何があったかという過去の疑問を表す。両形式は「疑問を含む要素」を目的語に取る点で共通している。日本語の「思う」は過去の疑問か未来の疑問かに関わらず、このような間接疑問節と潜伏疑問名詞を目的語にとることができない。

2.5 “想”のタイプ4:「銘記型」

構造形式: 【(人名詞) 想着 名詞句・意志動詞句】

“想”のタイプ4は、ある事態を重要なものとして、心に留めることを表す(王 2022: 336)。本稿はタイプ4を銘記型と名付ける。銘記型の特徴は、持続を表すアスペクトマーカ―“着”を常に伴い、通常命令文に用いられる(呂 1999: 577)ということである。“着”が「継続」というアスペクトを表すため、認識対象を認識領域に継続して留めるという意味になる。銘記型の“想”は命令文に用いられ、話し手が聞き手に念押しをして、聞き手にある事態を心に留めて、実行してほしいと願うという意味を表す(王 2022: 342)。

- (45) 你想着带纸去。（微博）「紙を持っていくのを（*思ってください）忘れないように/心がけてください」
- (46) 你想着锅里的饭，趁热吃。（微博）「鍋の中のご飯を（*思ってください）忘れないように、暖かいうちに、食べてね」
- (47) 你想着和他的约定，早点去，别迟到。（作例）「彼との約束を（*思ってください）忘れないで。遅刻しないように、早く行ってね」

また、例(48)のような、動詞句が後続する平叙文の場合、“想着”は「意志」を表すモダリティを表している。(49)と(50)のような、名詞句が後続する平叙文の場合は、タイプ2の「知的生産型」になる。これは、「鍋の中のご飯はいつできるか」「彼との約束は何時か」などの疑問の意味が読み取れるためであると考えられる。

(48) 我想着带纸去。「私は紙を持っていくのを心がけている→紙を持っていこうと思いま
す」

(49) 我想着锅里的饭，完全忘了去接孩子。「鍋の中のご飯（のこと）を考えていて、子供を迎えに行くことをすっかり忘れた」

(50) 我想着和他的约定，坐过了站。「彼との約束（のこと）を考えていて、乗り過ごしてしまった。」

「銘記型」には、中国語の“想”のみが用いられ、日本語の「思う」は用いられない。これは、「思う」が自分の意志で持続させる認識ではないためだと考えられる。このため、「思う」は通常命令文にはならない。仁田(1991:239)は命令文を成立させる条件として、「聞き手は、自分の意志でもって、その動きの実現化を計り、その動きを遂行・達成することができる」ことを挙げている。「思う」の意志性について、高橋(2007)は「二使役が可能かどうか」という基準を取り上げて、「考える」と比べながら考察を行っている。

(51) 太郎は難しいテストで満点を取り、みんなにすごい奴だと思わせた。(高橋 2007:41)

(52) 先生は、まず初めに、生徒に簡単な問題を考えさせた。(高橋 2007:41)

(51)の「思わせる」の場合は、「満点をとる」という行為を通して、「みんなに太郎がすごい奴だと思わせた」といった状況になる。(52)の「考えさせる」の場合は、先生が生徒に命じ、「生徒が問題を考える」といった状況になる。「思う」は、被使役者が動きをコントロールできないため、そのような行為を使役者が被使役者に対して直接要求することができないと高橋(2007:42)では記述されている。

「二使役文」において、「使役者が被使役者に対して直接要求することができない」ことから、「話し手が聞き手に対して直接命令することもできない」ことがわかるだろう。これは、行為を認識主体が自分の意志でコントロールできないということが、「思う」の本質的特徴であるためだと考えられる。このように、中国語の“想”は意志性のある認識であるのに対し、「思う」は意志性のあるプロセスを表さない。よって、「思う」は「銘記型」に用いられないのだと考えられる。

2.6 本動詞の用法とモダリティ用法の関連性

2 節では、主に両表現の本動詞の用法について考察を行った。1.1 と 1.2 で紹介したように、「思う」には、「と思う」(判断)、「ように思う」(判断)と「しようと思う」「したいと思う」(意志・願望)のモダリティ用法、“想”には、「我想+節」(判断)と「想+動詞句」「想着+動詞句」(意志・願望)のモダリティ用法がある。これらのモダリティ用法は本動詞の用法と連続するところがある。

例えば、中国語“想”の本動詞用法の「感情的態度型」と「意志・願望」を表すモダリティ用法は連続することが見られる。(53)の“想”は人名詞を目的語に取るのに対して、(54)は動詞句を目的語に取る点で2つの用例は異なっているが、どちらも程度副詞で修飾することができる。さらに、会いたいという願望の意味を表す点で(53)と(54)は似通っている。これは“想”が「～したい」というモダリティ的意味を拡張させていることと関係があると考えられる。このように、日本語の「思う」と中国語の“想”は本質的な中心義が異なるため、重なるところと重ならないところがあるのではないかと推測できる。

(53) 我很想妈妈。「とても母に会いたいです」

(54) 我很想见妈妈。「とても母に会いたいです」

おわりに

以上、日本語の「思う」と中国語の“想”が構成する構文タイプの対照を行った。以下、本稿での考察の結果をまとめる。

両形式が対応関係を見せるのは、「知的認識型」と「感情的態度型」(一部分)という構文タイプを構成するときである。

(55) そんなことを思うと、瞼が熱くなってくる。(例 16 の再掲)「每当我想到那件事时，我的眼皮就会发热」「知的認識型」

(56) 私が母を思うように子ども達もまた私を思てくれている。(例 18 の再掲)「孩子们也会像我想妈妈一样想我。」「感情的態度型」

(57) ずいぶん前からおじょうさんのことをおもっていたの。(例 20 の再掲)「从很早以前就开始想/爱慕(恋慕)你了。」「感情的態度型」

(58) 很想妈妈。「お母さんにとても会いたい」(例 26 の再掲)「感情的態度型」

2つの構文タイプは認識主体が認識の領域に対象を捉えて認識するという意味で共通している。ただし、「知的認識型」の対象は抽象名詞で、「感情的態度型」の対象は人・組織の名詞である。一方で、「感情的態度型」には対応しない部分も見られた。例(57)のように、「恋慕う」などの意味を実現する場合、「思う」のみ用いられる。例(58)のように、程度副詞の修飾を受け、願望の意味が読み取れる場合、“想”のみ用いられる。

また、形容詞句と組み合わさる「感情評価型」は「思う」のみが用いられる構文タイプである。

(59) ときどき君の自由を羨ましく思う。(例 27 の再掲)「有时候会(**★想**)羡慕你的自由(君の自由を羨む)」「感情評価型」

これは、「名詞＋形容詞＋思う」という組み合わせが日本語では特に 1 人称の感情を表出する際に多用されるのに対し、中国語では“想”ではなく感情動詞もしくは対応する感情形容詞を用いることによる。

さらに、“想”のみが用いられる構文タイプには、「知的生産型」「回想型」「銘記型」がある。

(60) 她在**想**给孩子带的玩具够不够。(例 34 再掲)「彼女は子供のために持っているおもちゃが足りるかどうかを考えている」「知的生産型」

(61) 我在**想**我是不是看过这个电影。(例 42 の再掲)「この映画を見たかどうかを考えています」「回想型」

(62) 你**想着**带纸去。(例 45 の再掲)「紙を持っていくのを忘れないように/心がけてください」「銘記型」

このように、“想”のみが用いられる構文タイプには、先の「感情的態度型」(程度副詞で修飾される場合)と、「知的生産型」と「回想型」、「銘記型」があることになる。これらの共通点を考えてみると、「感情的態度型」(程度副詞で修飾される場合)における“想”は、「会いたいと願う(会おうと思う)」という意味が読み取れる。つまり、「感情的態度型」の“想”は意志性を含む認識プロセスだと考えられる。「知的生産型」「回想型」は疑問を含む要素を目的語に取る点で共通している。「疑問を解決するために思考する」ということは、「疑問を解決しようとする」という意味を表す。つまり、この 2 つの構文タイプにおける“想”は意志性を含む認識プロセスである。さらに「銘記型」は話し手が聞き手に念押しをして、聞き手にある事態を心に留めて、忘れないようにすることを表す。「心に留めて忘れないようにする」ということが意志的な認識プロセスである。よって、「銘記型」の“想”も意志性を含む認識プロセスである。このように、“想”のみが用いられる構文タイプはすべて意志性のあるプロセスであるという特徴を持つとまとめることができる。“想”は意志性のある認識であるのに対し、「思う」は意志的な思考プロセスを表さないため、これらの構文タイプに用いられないのである。

以上をまとめると、「思う」と“想”の共通点と相違点は次の通りである。

表 3: 「思う」と“想”の共通点と相違点

共通点	認識主体が認識の領域に対象を捉えて認識する
相違点	「思う」は 1 人称の心理と感情に深く関わる表現である； （「名詞＋形容詞＋思う」は 1 人称の感情を表出する際に多用される） 中国語では“想”ではなく感情動詞もしくは対応する感情形容詞を用いる
	「思う」は意志性のある認識プロセスを表さない； “想”は 意志性のある認識プロセスを表す

最後に、今後の課題として、以下のことが取り上げられる。

今回の調査・考察では、「思う」と“想”の本動詞の用法のみを扱ったが、モダリティ用法においても、両形式が対応している場合(63)と対応しない場合(64)がある。

(63) 彼は犯人に違いないと思います。「我想他一定就是犯人」

(64) (テレビを見て)この女優さんは綺麗だと思う。「我（*想）觉得这个女演员很漂亮」

今後の課題として、両形式がどのように対応するのかを明らかにする必要がある。モダリティ用法を分析した上で、両形式の全体的な用法をまとめ、根本的な意味の相違を考察していきたい。

注

- 1) 対象となる動詞「思う」と“想”を太字かつ下線で表記する。注目すべき用例の特徴などを文字の網かけで表記する。
- 2) 例(7)、(8)、(37)、(38)は高橋(2007)の用例である。それぞれの出典は『女社長に乾杯!』、『一瞬の夏』、『日本語基本動詞用法辞典』である。(38)も高橋(2007)の用例であるが、出典が書かれていない。
- 3) 3人称が主語に立つ「思っている」「ように思っている」は本動詞の用法と考えるべきかもしれないが、本稿は人称を考えずに、認識主体の心的な態度をひとくくりに「モダリティ」として捉える。

参考文献

- 王 会欣(2021)「認識動詞『思う』の構文パターンと対応する中国語訳」『名古屋大学人文学フォーラム』(4)、61-76 頁。
- 王 会欣(2022)「中国語思考動詞“想”の多義構造—多義のあり方をめぐって—」『名古屋大学人文学フォーラム』(5)、331-346 頁。

奥田靖雄(1967)「語彙的な意味のあり方」『教育国語』8(再録:奥田靖雄(1985)『ことばの研究・序説』むぎ書房)

むぎ書房 本稿のページ数はこの1985による)

奥田靖雄(1968-72)「を格の名詞と動詞との組み合わせ」『教育国語』12, 13, 15, 20, 21, 23, 25, 26, 28号(再録:言語学研究会編1983『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房 本稿のページ数はこの1983による)

国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞—用法と実例』秀英出版。

志波彩子(2019)「知覚動詞『見える』の構文タイプとネットワーク—構文とネットワークによる言語記述の可能性—」2019年度名古屋大学大学院人文学研究科講義資料。

高橋圭介(2007)『現代日本語における思考動詞の意味分析』名古屋大学博士学位論文。

仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。

宮崎和人(2001)「動詞『思う』のモーダルな用法について」『現代日本語研究』(8)、111-136頁。

森山卓郎(1992)「文末思考動詞『思う』をめぐって—文の意味としての主観性・客観性—」『日本語学』11(09)、105-116頁。

林 佩怡(2007)「中国語母語話者による『と思う』の習得研究」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』(2)、97-111頁。

XuBangjun, YinJingXiang, QinYi, HuQiWang(2013) “Semantic-Syntactic Description of Chinese Psycho-verb” CLSW2013, LNAI8229, pp. 10-18.

用例出典

北京語言大学中国語言語コーパス(BCC)

現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ データバージョン 2021.03)

Comparison of Main Verb Usage for *omou* and *xiang*: An Attempt at a Syntactic Approach in Polysemous Words

WANG, Huixin

Abstract

Japanese *omou* and Chinese *xiang* have some overlap in meaning and usage, but some non-overlap as well. This study compared *omou* and *xiang* to clarify the commonalities and differences in their meanings and usages. In order to establish the meaning of a word, this study used a method of extracting and considering both forms of syntactic type according to the standard that structural conditions must be specified. The syntactic types of *omou* and *xiang* include a main verb usage and a modal usage, but this study investigated only the main verb usage. The results

show that the feature that *omou* and *xiang* have in common is that the cognizing subject recognizes the object in the domain of recognition. Among the syntactic types classified, the “Emotion evaluation type” is used only for *omou*: “Noun + Adjective + *omou*” is the equivalent of an emotional verb and is used more frequently in Japanese than emotional verbs, whereas in Chinese the corresponding construction is either a direct emotional verb or the corresponding emotional adjective is used instead of *xiang*. On the other hand, “Intellectual production type,” “Recollection type,” and “Memorization type” are used only for *omou*, which we argue is because *omou* implies volitional recognition.

Keywords : *omou*, *xiang*, polysemous words, syntactic type, comparison

『虞美人草』における漢詩とその役割について

崔 雪梅（江西農業大学）

要旨

夏目漱石の『虞美人草』といえば、勸善懲惡的内容と美文調で知られているが、その美文体に組み込まれた漢詩または漢文については、ほとんど見過ごされてきた。本論文は、「美文」を構成する重要な要素となる漢詩と漢語に焦点を当て、「詩入」小説という視点から『虞美人草』を分析した。そして、意味伝達及び筋の展開において漢詩と「日記」という記号が『虞美人草』にどのような役割をはたしたのかを検証した。さらに、『草枕』に関連して、漢詩と小説、漢詩とエッセイの構造の中で、作品に挿入された漢詩がどのような役割を働き、「詩入小説」が「俳句的小説」という創作方法にどのような形で関与しているかを明らかにした。

キーワード： 夏目漱石、詩入小説、虞美人草、漢詩、甲野の日記

はじめに

正宗白鳥は『夏目漱石論』において夏目漱石の『虞美人草』の前半は捉えどころがなく、美文で続くことでたまらないと貶めたことがある。しかし、この「美文」といったところこそ小説の創作の可能性を示したのではないかと筆者は考える¹⁾。本論文は、「美文」を構成する重要な要素となる漢詩と漢語に注目し、「詩入」小説という視点から『虞美人草』を分析し、意味伝達と筋の展開における役割を検証する。また、異曲同工のごとく創作された『草枕』に関連して、漢詩と小説、漢詩とエッセイの構造の中で、作品に挿入された漢詩がどのような役割を働き、それが「俳句的小説」という創作方法にどのような形で関与しているかを明らかにする。

1. 詩入小説と漱石の「詩入」作品

漢詩を挿入する小説のスタイル、いわゆる「詩入小説」という形式は、唐代に登場した伝奇小説においてはじめて普遍化されるようになった。そして、「詩入小説」という形式は日本の文学作品にも影響を及ぼし、古典文学から明治期の小説にも多く使用するようになっている。漱石の場合、『思ひ出す事など』のほか、『草枕』、『虞美人草』など多くの作品の中に漢詩を加えている。その中でも、古典的な創作方法を受け継ぎながら、異色な存在

となる作品がある。さて、漢詩を挿入・引用した漱石の「詩入」作品を以下に示す。

番号	作品	掲載紙〔誌〕	創作時期
1	『吾輩は猫である』	『ホトトギス』	1905 年（明 38）1 月～翌年 8 月
2	『一夜』	『中央公論』	1905 年（明 38）9 月
3	『坊っちゃん』	『ホトトギス』	1906 年（明 39）4 月
4	『草枕』	『新小説』	1906 年（明 39）9 月
5	『虞美人草』	『朝日新聞』	1907 年（明 40）6 月～10 月
6	『門』	『朝日新聞』	1910 年（明 43）3 月～6 月
7	『思ひ出す事など』	『朝日新聞』	1910 年（明 43）10 月～翌年 3 月
8	『行人』	『朝日新聞』	1912 年（明 45）12 月～翌年 11 月
9	『心』	『朝日新聞』	1913 年（明 47）4 月～8 月
10	『道草』	『朝日新聞』	1915 年（大正 4）6 月～9 月

表 1 夏目漱石の詩入作品

前掲した作品における漢詩の挿入・引用には、次のような特徴が見られる。

自分の漢詩の挿入	代表作
1) 丸ごと一首を挿入したもの。	『草枕』、『思ひ出す事など』
2) 一句、二句のみ挿入したもの。	『虞美人草』
3) 漢詩の内容やイメージを引用したもの。	『吾輩は猫である』
他人の漢詩の引用	代表作
1) 丸ごと一首を引用したもの。	『草枕』
2) 一句、二句のみ引用したもの。	『吾輩は猫である』
3) 崩した形で引用したもの。	『吾輩は猫である』

表 2 夏目漱石の詩入作品の特徴

前掲した詩入作品の中で、漢詩を最も多く取り入れたのは、『思ひ出す事など』である。漱石は十年間ほどの漢詩創作の空白期を経て、1910 年大患をわずらったのをきっかけに再び創作し始めたのである。その時、詠まれたのは、77（1910 年 7 月 31 日）～93 番（10 月 27 日）の 17 首の漢詩である。このうちの 77 番を除いて、すべて『思ひ出す事など』に加えられている。その次に漢詩を多く取り入れたのは、『草枕』『虞美人草』である。この二つの作品では、漱石自らの作品だけではなく、中国の詩人の漢詩も多く引用している。

北川扶生子は「〈文〉から〈小説〉へ——漱石作品における漢語・漢文脈と読者」という一文に、『虞美人草』をめぐって「美文は、小説の文体が言文一致体に統一されてゆく

明治四〇年前後に、漢文脈を含む古典的な修辞の型を保持する役割を果たした」と述べる。北川の言った通り、漢文の型に則った小説の文体はその言葉の秀麗さと風格の自由さとが「美文」の特徴を付けている²⁾。では、作品に挿入した漢詩や漢文のような修辞は、ただ「美文」といった一つのジャンルを構成するための道具にすぎなかったのか。その意味伝達において、どのような可能性を成し遂げたのだろうか。それを解明するために、『虞美人草』に散在する詩文について詳しく分析する。

2. 『虞美人草』と漢詩

『虞美人草』では、漱石が自作した漢詩と他人の漢詩とが加わっている。『思ひ出す事など』のように一首の漢詩をまるごと文中に加えるのとは異なり、『虞美人草』では、一句、または、二句、或いは、訓読の形を以て、文中に加えている。前述したように、『思ひ出す事など』で漢詩は、本文の内容を概括的に表現し、または、作品に表現しようとする思想・情緒を強制的に表現する働きをしている。では、『虞美人草』では、漢詩は、またどのような役割を果たしているのか。例えば、『虞美人草』の【一】回では、次のような詩句を以て宗近と甲野の二人の対照的な性格を表現したのである。（文中の傍線は筆者による。以下同じ。）

宗近君は脱いだ両袖をぐる／＼と腰へ巻き付けると共に、毛脛に纏はる堅縞の裾をぐいと端折つて、同じく白縮緬の周囲に畳み込む。最前袖畳にした羽織を桜の杖の先へ引き懸けるが早いか「一剣天下を行く」と遠慮のない声を出しながら、十歩に尽くる岨路を飄然として左へ折れたぎり見えなくなつた。

中略

考へるともなく考へた甲野君は漸くに身を起した。又歩行かねばならぬ。見たくもない叡山を見て、入らざる豆の数々に、役にも立たぬ登山の痕迹を、二三日が程は、苦しき記念と残さねばならぬ。苦しき記念が必要ならば数へて白頭に至つて尽きぬ程ある。裂いて髓に入つて消えぬ程ある。いたづらに足の底に膨れ上る豆の十や二十一と切り石の鋭どき上に半ば掛けたる編み上げの踵を見下ろす途端、石はきりゝと面を更へて、乗せかけた足をすはと云ふ間に二尺ほど滑べらした。甲野さんは

「万里の道を見ず」

と小声に吟じながら、傘を力に、岨路を登り詰めると、急に折れた胸突坂が、下から来る人を天に誘ふ風情で帽に逼つて立つて居る。甲野さんは真廂を煽つて坂の下から真一文字に坂の尽きる頂きを見上げた。坂の尽きた頂きから、淡きうちに限りなき春の色を漲ぎらしたる果もなき空を見上げた。甲野さんは此時

「只万里の天を見る」

と第二の句を、同じく小声に歌つた³⁾。

上に示したように、宗近と甲野のセリフとなる「一劍天下を行く」と「万里の道を見ず」「只万里の天を見る」という三句は、漢詩の詩句として表現されている。宗近のセリフとなる「一劍天下を行く」を漢文風に直すと、「一劍行天下」になる。この詩句は、南宋の詩人である陸游の「灌園」に見える⁴⁾。

少攜一劍行天下	わかし いて 一けん 携えて 天下を行き
晩落空村學灌園	晩に 空村に落ちて 灌園を学ぶ
交舊凋零身老病	交旧 凋零して 身は老病
輪困肝胆與誰論	輪困たる 肝胆 誰とにか論ぜん

陸游の「灌園」に見える「少携一劍行天下」という詩句は、若い頃の詩人が武を以て世の中を渉る生活を送ることを通して、意気軒昂の青年のイメージを描き出している。陸游の影響を受けたと考えられる「一劍行天下」という表現は、若い宗近の人物像の特徴をよりよく表現し得ている。それは、宗近が自身にとって許嫁のような存在である藤尾との関係、及び、藤尾と小野との恋愛関係、さらに、婚約を結んでいる小野と小夜子との関係を整理する時に、積極的な役割を果たしたところに表われている。宗近は、甲野と小野の友人として、財産を捨てて家から出ることを決心した甲野を自宅に迎え入れようとし、また、優柔不断の小野を説得し、小夜子を助けたのである。作品の最後に、宗近は、藤尾の心を象徴するガーネットの付いた金時計を大理石の角で砕いたのである。その時、宗近には、次のようなセリフがある。

藤尾さん、僕は時計が欲しい為に、こんな酔興な邪魔をしたんぢやない。小野さん、僕は人の思をかけた女が欲しいから、こんな悪戯をしたんぢやない。かう壊して仕舞へば僕の精神は君等に分るだらう。これも第一義の活動の一部分だ。なあ甲野さん。

藤尾の不徳に対して、宗近は毅然たる態度で二人の関係を断ち切る。そして、藤尾によってもたらされそうな悲劇をとどめたのである。その後、作品は、藤尾が憤死し、宗近がロンドンに渡ること幕が下りる。「一劍行天下」の「一劍」は、すなわち宗近の理非曲直を裁き、過去にとらわれない性格を表わしているのである。

このような宗近と対照的な性格を持つ人物は、甲野である。甲野のセリフの「万里の道を見ず」「只万里の天を見る」を漢文風に直すと、「不見万里道」「只見万里天」になる。岩波書店『漱石全集』第四巻の注解者の平岡敏夫が指摘しているように、漱石は1907年3月14日付小宮豊隆宛書簡に「不見万里道但見万里天」と墨書している。自然を愛し、財産に拘らない甲野は、『虞美人草』の中で詩人、思想家として設定されている。『虞美人草』

の第【一】回の文末に、

山を下りて近江の野に入れば宗近君の世界である。高い、暗い、日のあたらず所から、うらゝかな春の世を、寄り付けぬ遠くに眺めて居るのが甲野さんの世界である。

と書かれているように、異なる性格の持ち主の二人は、互いに融合できない二つの世界の代表者である。宗近は俗世間の色が付いた人間であり、甲野は無欲恬淡な人間である。このように、「一剣行天下」と「不見万里道」「只見万里天」という詩句は、二つの異なる人物像を対照的に表現したのである。そして、『虞美人草』の【三】【四】【一二】回には、漱石が自作した漢詩の76・74・70番がそれぞれと加えられている。留意すべきところは、この三首の漢詩に見える詩句のすべてが甲野欽吾の日記に記された内容として表現されていることである。

木村功は「『虞美人草』論：甲野・宗近の形象について」という一文で、「甲野は〈悲劇〉（一九）の『哲学』を示す〈哲学者〉であるが、それは甲野家の『家庭』崩壊から導かれ、孤立した〈書齋〉生活から醸成されたものであった」と述べ、甲野を『虞美人草』世界の主人公と位置づける読みは無理であることを主張する。それより「失恋という挫折を経て〈書齋〉で〈真面目〉なく道義を身に備え甲野・小野を導き、翻って藤尾とその母を懲戒した宗近こそ、『虞美人草』に主たる人物として見直されるべきである」という新たな視点を提示した⁵⁾。物語の筋をクライマックスへ導く意味で宗近の働きは看過できないのである。しかし、その以前甲野欽吾の「日記」は「預言」のような存在として、あらかじめ定められた展開が全体の文脈から読み取れる。「預言」を示す「日記」には、甲野によって詠まれた詩歌が記されている。「預言」となる「日記」に対して、甲野は「預言者」として機能していない。こういう意味で、木村の言う主たる人物とする宗近を中心とする読みがあるのではないだろうか。

3. 甲野欽吾の「日記」と漢詩

『虞美人草』に加わった漱石の詩句は、甲野をはじめとする登場人物の人物像の構成に重要な役割を果たしている。そして、作品の中で、それらの詩句は甲野の日記を介して、人物関係を築いている。さて、甲野欽吾の「日記」に記された漢詩について考察する。まずは、第【三】の文中に見える76番の詩句について分析する。

甲野さんは寐ながら日記を記けだした。横綴の茶の表布の少しは汗に汚れた角を、折る様にあけて、二三枚めくると、一頁の三が一ほど白い所が出て来た。甲野さんは此所から書き始める。鉛筆を執つて景気よく、

「一盃楼角雨、閑殺古今人」

と書いて暫らく考へている。転結を添へて絶句にする気と見える。

旅行案内を放り出して宗近君はずしんと畳を威嚇して椽側へ出る。椽側には御詠向に一脚の籐の椅子が、人待ち顔に、しめつぽく据ゑてある。連翹の疎なる花の間から隣家の座敷が見える。障子は立て切つてある。中では琴の音がする。

「忽^{たちま}聴^き弾^{だん}琴^{きん}響^{ひび}、垂^{すい}楊^{よう}惹^ひ恨^{あら}新

と甲野さんは別行に十字書いたが、気に入らぬと見えて、すぐ様棒を引いた。あとは普通の文章になる。

上に示した通り、甲野が日記を記す時に、最初に書き入れたのは、漢詩の詩句である。一首の五言絶句を得たが、なぜか気に入らなかったのも、甲野はその上に棒線を引いたのである。

76 無題

一^{いち}簷^{れん}樓^{ろう}角^{かく}雨^う 一^{いち}簷^{れん} 樓^{ろう}角^{かく}の雨^う
閑^{かん}殺^{さつ}古^こ今^{きん}人^{にん} 閑^{かん}殺^{さつ}す 古^こ今^{きん}の^の人^{にん}
忽^{たちま}聴^き弾^{だん}琴^{きん}響^{ひび} 忽^{たちま} 聴^き 弾^{だん}琴^{きん}の^の響^{ひび}き
垂^{すい}楊^{よう}惹^ひ恨^{あら}新^{あら} 垂^{すい}楊^{よう} 恨^ひ みを惹^ひいて新^{あら}たなり

最初に日記に書き入れた「一簷樓角雨、閑殺古今人」という二句は、漱石の 76 番の起句と承句である。この二句は、鏡に映る降り続く雨が別の閑静な世界を作り出しているようなことを表現している。それから甲野が書き入れたのは、76 番の転句と結句となる二句である。しかし、甲野は、後になぜかこの二句を消したのである。たちまち伝わる琴の音と、新たな恨みを引いているような柳枝は『虞美人草』の中で何を象徴し、また、「棒を引いた」という動作はどのような意味を表わしているだろうか。

『虞美人草』で、「琴」は小夜子の換喩表現として表現されていると考えられる。なぜなら、「唯小夜所持の琴一面は本人の希望により、東京迄持ち運び候事に相成候。故きを棄てがたき婦女」と書かれたように、作品の中では、小夜子は「琴」を愛し、また、「琴」を所有する彼女が「ふるき」を重んじる婦女として表現されたからである。それだけではなく、小野に関する叙述の中でも、「琴の音は自分（小野・筆者注）に取つて禁物である」という表現が見られる。「ふるき」を重んじる小夜子は、京都に移り住んでいた五年の間にもずっと小野を夫として思い込んでいる。しかし、藤尾との結婚を望んでいる小野にとっては、過ぎ去った「古き五年は夢」としか感じなかったのである。孤堂先生から受けた恩義に報いるためにも小夜子と結婚すべきと考えるが、内心から藤尾を嫁としてもらいたいと悩む小野は、「琴」の音を聞いても小夜子を連想してしまう。

甲野の日記に記された「忽^{たちま}聴^き弾^{だん}琴^{きん}響^{ひび}」という一句は、甲野が旅先で偶然と聞こえた小夜

子の引いた琴の音を表現することだけではなく、「垂楊惹恨新」とともに、小夜子の人物像と運命とを表現している。中国文学の中で、なよなよと揺れる柳の枝は、よく女性の優婉な姿を喩える言葉、また「離別」を歌う言葉として使用されている。ここで、「垂楊」は「琴」とともに小夜子を意味する言葉として読むことができるし、小野との過去を連想させる記号とも考えられる。そして、「垂楊惹恨新」の「恨」は、すなわち、小野の裏切り行為に対する小夜子の感情を意味していると考えられる。さらに、甲野が「一盞樓角雨、閑殺古今人」と「忽聴弹琴響、垂楊惹恨新」の四句のうち最後の二句だけ消した行為については、後に小夜子の恨みが過ちを悔い改めた小野によって晴らされた展開を、暗示する伏線として考えられるのである。

このように「日記」に記された詩句は、『虞美人草』に「預言」の役割を果たしている。それにひきかえ、甲野は「預言者」たる存在ではなく、物語の展開に連動する一人の登場人物に過ぎない。甲野という人物をめぐる、越智治雄は『漱石私論』に次のように述べる。

しかし、甲野さんの哲学に明らかなように、漱石は悲劇と対比された意味での喜劇を意識してもいたに違いない。(中略) したがって、『虞美人草』は一つのフィルターをかければたちまち喜劇に転ずる危険を秘めている。たとえば甲野さんは「あの女かの女か、是も喜劇である」とする。それでは、小野さんが藤尾、小夜子いずれを選んでも同じではないか。宗近君と話し合う前の小野さんが喜劇の人物だったのだとするなら、それでもよい。しかしながらさらに大きな矛盾もある。甲野さんは、車中で見かけた小夜子について、「あの娘もいつれ嫁に行く事だらうな」(七)と語ったことがあった。その脳裏にあったのが、「嫁に行くと変わります」(十三)という糸子への言葉に等しいことは、まず疑いあるまい。(中略)

漱石はすでに「草枕」において、現実世界を非人情の立場から統一的に把握しうること、つまりは現実に対する意識の勝利を示そうとしたのであったが、そこにも悲劇論の変奏とみるべきものが語られていた。「うつくしき趣味を貫かんが為に、不必要なる犠牲を敢てする」というのは、画工が例にとっている演劇からすれば、悲劇的行為にほかならぬし、「悲酸のうちに籠る快感」を与える芝居とは、悲劇以外のイメージではあるまい。(中略) そして『虞美人草』の甲野さんによれば、「自己の出立点」を意識することと、道義の観念とは密接な関係があるのだから、「草枕」にしても『文学論』にしても、悲劇のイメージは『虞美人草』のそれと基本的には変動がないと言っていだらう⁷⁾。

越智の指摘した通り『草枕』における「非人情」の表情に関連して、『虞美人草』における甲野の選択と世界観には「悲劇」の色彩が付与されていることが読み取れる。甲野の「嫁

に行くと変わります」という女性に対する認識、または家督相続と財産継承との放棄、および藤尾の死には「悲劇」という濃厚な色が帯びている。このような筋からみれば、甲野は作品上にきわめて普通の一分子として筋の展開とともに連動していることがわかる。つまり、「日記」に記された詩句は登場人物らの運命を「預言」するものの、その詩句を詠んだ張本人は「預言者」の役割を有していないことである。

『虞美人草』【四】回の冒頭の部分では、漱石の74番に見える詩句が加えられている。

甲野さんの日記の一筋に云ふ。

「色を見るものは形を見ず、形を見るものは質を見ず」

小野さんは色を見て世を暮らす男である。

甲野さんの日記の一筋に又云ふ。

「生死因縁無了期、色相世界現狂癡」

小野さんは色相世界に住する男である。

元となる74番の漢詩は、次のように詠われている。

74 無題 明治三三年⁸⁾

生死因縁無了期	しょうじいんねん	りょうき	な	く
色相世界現狂癡	しきそう	きょうち	げん	ず
迢遰屨校塵中滯	ちゅうてん	かせ	つ	じんちゅう とどま
迢遞正冠天外之	ちようてい	かんむり	を正して	てんがいに
得失忘懷當是佛	とくしつ	おも	を忘るるは	まさ
江山滿目悉吾師	江山の目に	み	満つる	ことごと
前程浩蕩八千里	ぜんてい	こうとう	八千里	わ
欲學葛藤文字技	学ばんと	欲す	葛藤文字の	わざ

甲野の日記に記された詩句の「生死因縁無了期、色相世界現狂癡」は、『虞美人草』の第【四】回で、語り手が引用する形で表現されている。そして、それを以て、「小野さんは色を見て世を暮らす男である」と小野という人物の特徴が紹介される。ここで、「色相世界現狂癡」と詠う「狂」と「痴」は、それぞれ藤尾と小野を指す言葉として読むことができる。それは、作品の中で藤尾も小野と同じく色相世界の人間として設定されているためである。

愛の対象は玩具である。神聖なる玩具である。普通の玩具は弄ばるゝだけが能である。愛の玩具は互に弄ぶを以て原則とする。藤尾は男を弄ぶ。一毫も男から弄ばるゝ事を許さぬ。藤尾は愛の女王である。

藤尾は、男たちを玩具のように翻弄したがる女性である。藤尾が母と共に家の財産を独占し、兄の甲野を家から追い出そうと企てたことや、小野と事実な関係を結ぶために大森へ行くことを約束したことや、小野の裏切りに憤死したことなどには、彼女の「狂」的な性質が表現されている。藤尾の「狂」に対して、小野の「痴」に関する叙述は、「生死因縁無了期、色相世界現狂癡」の詩句の後に、次のように展開されている。

小野さんは色相世界に住する男である。

小野さんは暗い所に生れた。ある人は私生児だとさへ云ふ。筒袖を着て学校へ通う時から友達に苛められて居た。行く所で犬に吠えられた。父は死んだ。外で辛い目に遇った小野さんは帰る家が無くなつた。已むなく人の世話になる。

水底の藻は、暗い所に漂ふて、白帆行く岸辺に日のあたる事を知らぬ。右に揺かうが、左りに靡かうが颯るは波である。唯其時々逆らはなければ済む。馴れては波も気にならぬ。波は何物ぞと考へる暇もない。何故波がつらく己れにあたるかは無論問題には上らぬ。上つた所で改良は出来ぬ。只運命が暗い所に生へて居ろと云ふ。そこで生えてゐる。只運命が朝な夕なに動けと云ふ。だから動いてゐる。——小野さんは水底の藻であつた。

小野が「色を見て世を暮らす男」になった経緯には、苛酷な過去があつたのである。小野は、自らの暗い所にいる「水底の藻」のような運命を変えようと思い、博士になって、知識と財産とをもつ藤尾との成婚を望んでいたのである。小野は自らの望みを遂げるために、友人の浅井に十円を貸す代価として、自分の代わりに孤堂先生に破談を申し入れたのである。それから、藤尾と事実の関係を結ぶために大森へ出発しようとした。ところが、小野は出発する直前に訪ねてきた宗近によって説得され、小夜子との婚約を守ることと決心した。しかし、これはまた藤尾にとっての裏切る行為になる。作品の最後は、藤尾が憤死することで終末を迎える。「生死因縁無了期、色相世界現狂癡」という詩句は、名誉や利益を渴望しながら、優柔不断な性格を持つ小野と、恋に狂う藤尾との人物の特徴を概括的に表現している。

『虞美人草』の【一二】回に加わった詩句は、漱石が1899年に作った五言古詩の70番に見える。ここでは、語り手が甲野の日記に記された詩句を以て春の光景を表現する形になっている。

甲野さんの日記には鳥入雲無迹、魚行水有紋と云ふ一聯が律にも絶句にもならず、其儘楷書でかいてある。春光は天地を蔽はず、任意に人の心を悦ばしむ。只謎の女（藤

尾の母・筆者注）には幸せぬ。

「何だつて、あんなに跳ねるんだらうね」と聞いた。謎の女が謎を考へる如く、緋鯉も無暗に跳ねるのであらう。酔狂と云へば双方とも酔狂である。藤尾は何とも答へなかった。

70 番の全文は、次の通りである。

70 無題 明治三二年⁹⁾

眼識東西字 眼に東西の字を識り
 心抱古今憂 心に古今の憂いを抱く
 廿年愧昏濁 廿年 昏濁を愧じ¹⁰⁾
 而立纔回頭 而立 纔かに頭を回らす
 靜坐觀復剝 靜坐して 復剝を觀
 虛懷役剛柔 虛懷 剛柔を役す
 鳥入雲無迹 鳥入りて 雲迹無く
 魚行水自流 魚行きて 水自ら流る
 人間固無事 人間 固より無事
 白雲自悠悠 白雲 自ら悠悠

前掲した 74・76 番の詩句のように、70 番に見える「鳥入雲無迹、魚行水有紋」という二句も、甲野が詠った詩句として表現されている。この二句は、「万里の道を見ず」「只万里の天を見る」と共に、甲野のものを見る視点を表わしている。「謎の女」は、池の中に泳ぐ緋鯉を見て「何だつて、あんなに跳ねるんだらうね」というセリフをする。藤尾の場合、風景を見ているようであるが、脳裏には「四五日無届欠席」した小野のことで充満している。藤尾は、男を玩具のように遊ぶのを好むが、弄ばれるのを許さない「愛の女王」である。彼女の恋に比して、池に泳ぐ魚にも、空に飛ぶ小鳥にも、さらに、声をかけてきた母親にも、彼女にとって注意を払う価値はなかったのである。同じ風景を見て、甲野が「鳥入雲無迹、魚行水有紋」と詩句を詠うことに対して、「謎の女」は、何の感銘も得ないばかりか、嘲のような口調でものを言う。甲野の親子の間には、趣味にとどまらず、ものの考え方においてもすれ違いが現れる。

欽吾の財産を欽吾の方から無理に藤尾に譲るのを、厭々ながら受取つた顔付きに、文明の手前を繕はねばならぬ。そこで謎が解ける。呉れると云ふのを、呉れたくない意味と解いて、貰ふ料簡で貰はないと主張するのが謎の女である。六畳敷の人生観は頗る複雑である。

「謎の女」は、甲野から財産を奪いたい、「厭々ながら受取った顔付きに、文明の手前を繕はねばならぬ」と思っている。そして、息子の甲野の心境を解しえないゆえ、「謎の女」は、甲野が財産をあきらめると言っても、本当にくれると思わないのである。

「鳥入雲無迹、魚行水有紋」という詩句は、親子三人が見た庭の風景を表現すると同時に、同じ風景を見るときでも、互いの思いが決して交わることがなく平行線のままになる親子関係を間接的に表現したのである。「六畳敷の人生観は頗る複雑である」と書かれたように、「鳥入雲無迹、魚行水有紋」という庭の風景も見人によって受け得る感受も異なっている。

4. 甲野飲吾の「日記」

『虞美人草』に登場する甲野の「日記」には、甲野の自らに関する叙述や、過去に対する追憶や、時間的推移に伴い生じた出来事などが記録されていない。それは、常に登場人物を紹介する時に、「甲野さんの日記の一筋に又云ふ」「甲野さんの日記には鳥入雲無迹、魚行水有紋と云ふ」という引用する形として表われる。甲野の「日記」から引用された詩句は、作品の中で宗近・「謎の女」・藤尾・小野などの人物像を表現しながら、彼らの運命を予知する意味を表わしている。そして、このような詩句が記載された「日記」は、登場人物らの運命の運びを左右する盛る器のように運んでいく。

作品が終わりに近づいていることを予示する意味を表わす詩句の「入道無言客、出家有髮僧」の二句は、『虞美人草』の【一八】回に見える。作品の中で、この二句は日記の「最後の頁」の「最後の句」として設定されている。

レオパルズの隣にあつた黄表紙の日記を持つて煖炉の前迄戻つて来た。親指を抑へにして小口を雨のように飛ばして見ると、黒い印気と鼠の鉛筆が、ちら、ちら、ちらと黄色い表紙迄来て留つた。何を書いたものやら一向要領を得ない。昨夕寐る前に書き込んだ、

入レ道無言客。出レ家有髮僧。

の一聯が、最後の頁の最後の句である事丈を記憶してゐる。甲野さんは思ひ切つて日記を散らばつた紙の上へ乗せた。屈んだ。煖炉敷の前でしゅつと云ふ音がする。乱れた紙は、静なるうちに、倦怠い伸をしながら、下から暖められて来る。きな臭い烟が、紙と紙の隙間を這ひ上つて出た。すると紙は下層の方から動き出した。

「うん、まだ書く事があつた」

と甲野さんは膝を立てながら、日記を烟のなかから救ひ出す。紙は茶に変わる。ぼうと音がすると煖炉のうちは一面の火になつた。

【一八】回では、甲野が財産を捨てて家出をするために、書斎を片付ける。その時、甲野は、書類や書簡などを暖炉の中に投げ込み、最後に「日記」まで暖炉の中に投げ込んだのである。暖炉の中に捨てられた「日記」の中には、甲野が前日の夜に詠った詩句が書き込まれている。「入道無言客、出家有髮僧」という詩句は、すなわち、甲野の俗世間との因縁を断絶しようとする決心を表わしたのである。「入道」を求める「無言客」と、剃髪しないまま修行する僧は、つまり、甲野が考えた家を出てからの生き方である。ここで、甲野の「日記」が暖炉の火に燃えつくされることは、すなわち、甲野が財産を捨てる、「謎の女」がその財産を得る、小野が婿入りをするなどの意味を象徴する。甲野は、その決断を示すために、色相世界のことを記した「日記」を暖炉の中に投げ込む。ところが、「謎の女」の思う通りに発展しようとする時に、急にブレーキをかける事態が生じたのである。それは、「日記」が火に燃えつくされる一髪千鈞を引く際に、甲野が「うん、まだ書く事があつた」と突然に独り言をして、煙から日記帳を拾い出したのである。それから、「ぼうと音がすると暖炉のうちは一面の火に」なったのである。燃え上がる直前の暖炉から救い出された「日記」のように、甲野たちの運命にも大きな変化が訪れる。甲野の家には、糸子が来る、宗近と小野が来る、小夜子が来る、最後に藤尾も待ち合わせ場所とした新橋停車場から戻って来る。小野は、藤尾の前で小夜子を自分の妻として紹介する。そして、藤尾、小夜子、宗近に向って懺悔する。ヒステリーになった藤尾は、自らの愛の誓いを象徴する時計を宗近に上げようとしたが、宗近は時計を受け取ってからすぐ大理石の角に向って投げて碎いたのである。藤尾は刺激に憤死する。彼女の死を予示するが如く、甲野が暖炉から「日記」を拾い出したら、「紫の舌の立ち騰る」ような火が真っ黒に変わったのである。

めら／＼と燃えた火は、揺ぐ紫の舌の立ち騰る後から、ぱつと一度に消えた。暖炉の中は真黒である。

「日記」を呑み込もうとする火のように、藤尾は甲野の財産のすべてを呑み込もうとする。紫色を帯びる焰が藤尾の死を暗示するように、ぼうぼうと燃えた後、ぱつと消えてしまったのである。かつて、兄の甲野に「火打石を金槌の先で敲いたような火花を射る」ような眼差しを向ける藤尾は、その命の燈火が真っ黒に変わる暖炉の中のようになう。

藤尾の葬式が済んだ夜、甲野は再び「日記」を開いたのである。書き込んだ最初の一行は、「悲劇は遂に来了。来るべき悲劇はとうから預想していた。預想した悲劇を、為すが儘の発展に任せて、隻手をだに下さぬは、業深き人の所為に対して、隻手の無能なるを知るが故である」という内容である。ここで、甲野の「日記」は、『虞美人草』の中で全知なる存在のように表現されていることが分かる。実に作品の前半で、「日記」はすでに全知なる存在として役割を働いている。それは、後に甲野が出家を選んだことを暗示する部分であ

る。

第【三】では、甲野が日記に書き込んだ「忽^ス琴響、垂楊惹恨新」の二句を消して、「一簷樓角雨、閑殺古今人」の続きに、「宇宙は謎である」という哲学めいた分析を展開したのである。甲野は、「疑へば親さへ謎である。兄弟さへ謎である。妻も子も、かく観ずる自分さへも謎である」と書く。このような謎を解く方法は、「親の謎を解く為めには、自分が親と団体にならねばならぬ。妻の謎を解く為めには妻と同心にならねばならぬ。宇宙の謎を解く為めには宇宙と同心団体にならねばならぬ」と分析し、「凡ての疑は身を捨てゝ始めて解決が出来る。只如何身を捨てるかゞ問題である」と記したのである。『虞美人草』の中では、藤尾の母親を「謎の女」と言い換えられている。甲野の言う「親の謎」は、いわば、片づけられない母親との関係を示している。そして、「凡ての疑は身を捨てゝ始めて解決が出来る」をめぐって、甲野は、「親の謎」を解くために、家を捨てて出家することを決めたのである。しかし、それは宗近によって阻止されてしまう。その代わりに、身を捨てたのは藤尾である。藤尾が死んでから、その親はようやく自分の罪に気づいたように、甲野に許しをこう。

同じく女の「謎」を描写した『三四郎』では、美禰子をめぐる謎を「^{ストレイシープ}迷羊」と表現している。これに対し、竹盛天雄は「二つの『遐なる』もの—『虞美人草』周辺」において次のように述べる。

（『三四郎』終わりの部分・筆者注）この結びのやりとりが、『虞美人草』の「此所では喜劇ばかり流行る」に照応するものであることは、見やすい。しかし「喜劇」と「迷羊」の語の間には、やはり認識上の距離があると言わざるをえない。『虞美人草』では、一通りの「謎」は解けた形になっているが、『三四郎』では、解けていない。むしろ「謎」としての不可解性が自他をつらぬくものとして自覚された点が問題なのである¹¹⁾。

『虞美人草』では謎が解けているが、『三四郎』では「三四郎は何とも答へなかつた。たゞ口の内では迷羊、迷羊と繰り返した」と謎が解けないまま幕が下りる。竹盛が「『謎』としての不可解性が自他をつらぬくもの」と読んでいるが、「預言」たる詩句は神の予告のごとく、謎でさえその神秘さを維持しかねる。そのため、『虞美人草』の謎は解かれる。言い換えれば、両方の「謎」とも不可解性を持っていない。ただ、「動線」のような機能が付与されているかいないかの問題にある。これについて、また別に機会で述べておきたい。

甲野のすべての「疑」が「身を捨てゝ始めて解決が出来る」という思索の源泉となるのは、『宋書・陶潜傳』に記された陶淵明に関する故事であると考えられる。李白の「戲贈鄭溧陽（戯れに鄭溧陽に贈る）」は、すなわち、淵明は韻律を解しないが、一張の素琴を蓄えて、飲酒するたびにそれを撫でたという故事を踏まえて詠われた作品である¹²⁾。そのうち

の一句は、「素琴本無弦（素琴本弦無し）」となっている¹³⁾。甲野は、その「日記」に李白の「素琴本無弦」という一句を引用することを通して、「疑」の解ける方法を説明する。

「眼に見るは形である」と甲野さんは又別行に書き出した。

「耳に聴くは声である。形と声は物の本体ではない。物の本体を証得しないものには形も声も無意義である。何物かを此奥に捕へたる時、形も声も悉く新らしき形と声になる。是が象徴である。象徴とは本来空の不可思議を眼に見、耳に聴く為の方便である。……」

琴の手は次第に繁くなる。雨滴の絶間を縫ふて、白い爪が幾度か駒の上を飛ぶと見えて、濃かなる調べは、太き糸の音と細き音を縋り合せて、代るくに乱れ打つ様に思はれる。甲野さんが「無絃の琴を聴いて始めて序破急の意義を悟る」と書き終った時、椅子に靠れて隣家許りを瞰下して居た宗近君は

「おい、甲野さん、理窟ばかり云はずと、ちとあの琴でも聴くがいゝ。中々旨いぜ」と椽側から部屋の中へ声を掛けた。

甲野は、形や音や、または、思索を戸惑わせる「身」が「物の本体を証得しない」ものであると考えている。それは、形と声とが本体ではないため、形と声とを認識しただけで、本体まで分かったとは言えないという理由による。そして、どんなことでも奥まで探究すると、「形も声も悉く新らしき形と声になる」ことであるように、「象徴」とは「本来空の不可思議を眼に見、耳に聴く為の方便である」と、甲野が分析している。このような分析が綴った後、最後に日記の中に書き込んだのは、「無絃の琴を聴いて始めて序破急の意義を悟る」という内容である¹⁴⁾。甲野の「日記」に綴られた最後の一文句は、淵明が目に入るものと耳に聞こえることに囚われてないゆえ、素琴を撫でながら悠々自適な感受を得たことを指すと同時に、「疑」を生む形と声とを捨てられることこそ、本当の真実を解き明かすことができることを伝えている。

甲野の「日記」をめぐって、照屋佳男は「自己肯定について」という一文で「この日記で『最後に一つの問題が残る。一生か死か。これが悲劇である』とも言っているが注意すべきは、「生」と「死」のどちらを根源すべきか、「死」をこそ根源とすべきではないか、と言っているというふ事で、どちらかを選んで他を排除せよと言っているのではない、というふ事である。」と指している¹⁵⁾。照屋は「死」を根源として肯定した上で、「死」と「生」との相補関係を考察し、その根源に通じるものは「自己肯定、価値肯定」だと考えている。一方、杉田智美は博士学位論文において、甲野の日記に見える「漢詩と漢文訓読体」に近い文体について「甲野の欧化した生活様式の変化は、小説の外にあり、読み解くことはできないのである。一方、甲野個人の変化とは対照的に、日本のなかで漢（文）学をとりまく状況は、「虞美人草」発表当時、甲野より一世代前の表現手段としての位置づけから、新

たな「価値」を付加されていた」と述べる。「日記」をめぐる叙述は、甲野のかかえている家督相続や家族不和を象徴化し、漢詩体と「普通の文」との文体の往還を通して、「その背後の教養を何重にも重ねて映し出すような語り方によって、その位相差からリアリティを表現する」と、杉田は指摘する¹⁶⁾。ところが、甲野「日記」に記された詩句を細かく分析すれば、『虞美人草』に登場する甲野の「日記」は全知なる存在、「預言」のような存在として、物語の展開を予示し、登場人物の性格と運命とを暗示する役割を果たしていることがわかる。

おわりに

拙稿「漱石の『俳句的小説』と漢文学」に述べたように、「俳句的小説」は詩的機能を生かした小説として、その模索のプロセスにおいていかに漢文や漢詩的構造を生かすかを問題視している。いわば美文といった文体は、漢文脈のなかで構造の構築の多様性を可能にし、それから引き起こされた様々な読み方こそ「俳句的小説」の読みの再生を裏付けたのではないだろうか。『虞美人草』や『草枕』に見られるように、一見して装飾のように綴られた漢詩の詩句は、詩入小説の中で多様な文体と並置し、詩学の伝統文化を引き継ぎながら独特な文化現象を構成しているのである。

【付記】本稿は、「江西省社会科学“十四五”(2021年)基金項目」の研究プロジェクト「夏目漱石漢詩における陶淵明詩歌の受容に関する研究」(研究代表者崔雪梅、基盤研究(A)21WX26)の成果の一部である。本稿の執筆にあたっては、研究プロジェクトのメンバーから精緻かつ建設的なコメントを多数頂いている。ここに記し感謝の意を表する。

注

- 1) 正宗白鳥「夏目漱石論」(『中央公論』、1928年6月)において、「『長編虞美人草』の前半は、かういふ捉へどころのない、美文で続くのだからたまらない。」と述べている。
- 2) 北川扶生子の「〈文〉から〈小説〉へ——漱石作品における漢語・漢文脈と読者」(『漢文脈の漱石』2018年3月)による。
- 3) 以下本稿における夏目漱石の作品の引用は、すべて岩波書店出版『漱石全集』1994年版による。
- 4) 訓みくだしは、一海知義注『中国詩人選集』2集8巻、岩波書店、1962年7月23日に従う。
- 5) 木村功の「『虞美人草』論：甲野・宗近の形象について」(『日本文学』42巻)による。
- 6) 奩は、鏡台を指す。
- 7) 越智治雄の『漱石私論』(角川書店、1974年6月)による。
- 8) 『虞美人草』【四】回に加えた詩句は、74番では、生死によって因縁は尽きる期が訪れず、現実の世界には常軌を逸する人や事があると詠う。詩人は、足枷がかけられたように俗世界

に滞っていると感じ、冠をかぶり直して、遙かの遠いところへ行こうとする。そして、得失を気にかけないことは仏の世界であると詠い、山河の至るところに、吾が師となるものがあると考え。最後に、前途は広々として遼遠であるが、煩わしい言語を学ぼうと進んでいくことを詠っている。

- 9) 【現代語訳】東西の文字を知り、深い愁いを抱えてしまう。二十年間、歩くべき道を分らないまま生きてきたことを恥ずかしく思い、三十歳になった今は、過去のことを振り返る。静坐して禍福の反復を觀じ、わだかまりのない心を以て固いものと柔らかいものを自在に操る。鳥は雲の中に入り、迹を残さず、魚は自在に泳いで、川の流れに変化を与えない。人の世はもともと何事もない。雲が空に悠々と漂っているように、静かで奥ゆかしいのである。
- 10) 昏濁とは、いろいろなものがまじってにごること。秩序なく乱れること。
- 11) 竹盛天雄「二つの『遐なる』もの—『虞美人草』周辺」(『國文學』1974年11月号)による。
- 12) 陶令日日醉、不知五柳春。素琴本無弦、漉酒用葛巾。清風北窓下、自謂羲皇人。何時到栗里、一見平生親。
- 13) 「素琴」とは、かざりのない琴を指している。
- 14) 「無絃の琴」をめぐる表現は、ほかに『吾輩は猫である』『草枕』にも見える。
- 15) 照屋佳男の「自己肯定について」(早稲田人文自然科学研究、1999年56号)による。
- 16) 杉田智美の博士学位論文「近代日本語文学における〈文学場〉の成立—言葉を分有する方法—」(名古屋大学、2013年12月)による。

参考文献

- 一海知義 (1962) 『中国詩人選集』岩波書店。
- 越智治雄 (1974) 『漱石私論』角川書店。
- 夏目漱石 (1994) 『漱石全集』岩波書店。
- 吉川幸次郎 (2008) 『漱石詩注』岩波書店。
- 竹盛天雄 (1974) 「二つの『遐なる』もの—『虞美人草』周辺」『國文學』19巻(13)、56頁。
- 木村功 (1993) 「『虞美人草』論：甲野・宗近の形象について」『日本文学』42巻(5)、74頁。
- 正宗白鳥 (1965) 「夏目漱石論」(伊藤整編『正宗白鳥全集 六巻』新潮社)、126頁。
- 北川扶生子 (2018) 「〈文〉から〈小説〉へ—漱石作品における漢語・漢文脈と読者」(山口直孝編『漢文脈の漱石』翰林書房)、36頁。
- 照屋佳男 (1999) 「自己肯定について」『早稲田人文自然科学研究』(56)、20頁。
- 杉田智美 (2013) 「近代日本語文学における〈文学場〉の成立—言葉を分有する方法—」名古屋大学博士学位論文、25-35頁。

Of Chinese Poetry in *Gubijinso* and its Functions

CUI, Xuemei

Abstract

Gubijinso, a novel written by Natsume Soseki, is well known by its contents describing poetic justice and “Beautiful Writing”. However, Chinese poetries and Chinese characters included hereinto are often ignored. This article highlights the analyses on a large number of Chinese poetries and poetic words in *Gubijinso*. Such poetic words compose of significant elements in such “Beautiful Writing”. This article observes at a viewpoint on “Poetry in Novel”, explaining how Chinese Poetry plays a role in novel *Gubijinso*. In addition, this article analyzes how the symbol “Diary” plays a role in its structure and story development. Furthermore, it explains the interconnectedness between “Poetry in Novel” and “Haiku-style Novels”, via writing method in contrast of novel *Kusamakura*(Grass Pillow).

Key Words: Natsume Soseki, Poetry in Novel, *Gubijinso*, Chinese Poetry, Kono's Diary

日・中・韓平和絵本シリーズにおける平和の表象分析 —絵本『へいわって どんなこと？』を中心に—

尹 恵貞（一橋大学博士研究員）

要旨

「日・中・韓平和絵本シリーズ」の中の、日本の作家である浜田桂子の『へいわって どんなこと？』に焦点を当てた。何故ならば、日本の作家のうち浜田のみが戦後生まれであること、及び作品のタイトルに「平和」という言葉が掲げられているからである。

当該絵本の言葉を全て引用し、絵については一部提示することで言葉と絵が相互に作用している様相を示すことができた。

また、先行研究で『へいわって どんなこと？』が「脱境界」のストーリーテリングな絵本であることの指摘があった。そこで、「ナラティブ」の研究の蓄積により構造面と機能面双方が揃ってはじめてストーリーテリングな絵本＝「物語絵本」となることを明確にしたうえで、当該絵本は一概にストーリーテリングな絵本と述べることはできず、项目的なストーリーテリングな絵本であると位置づけた。

さらに、「脱境界」については国境を越えるという意味で、メタ言語的な「子どもの権利条約」から当該絵本がどのように平和を表象しているかを明らかにした。

キーワード： 平和絵本、戦争絵本、物語絵本、ストーリーテリングな絵本、「子どもの権利条約」

はじめに

2004年日本では、103人の絵本作家が集まり『世界中のこどもたちが103』という絵本が講談社より出版された。平和に願いを込めて作られたものである。この翌年の2005年、この103人の作家のひとりである田島征三¹⁾が終戦60周年を迎え、アーティストとして東アジアに目を向け、絵本作家同士の芸術性は共通するものがあると信じ、同103人の作家の田畑精一²⁾、和歌山静子³⁾、浜田桂子⁴⁾ら4人で、中国と韓国の絵本作家に直接手紙を書き、平和絵本作りを提案したのが「日・中・韓平和絵本シリーズ」（以下「平和絵本」）である。各国4人の絵本作家で構成され、1作品ずつ絵本を創作し、各国の出版社（日本の童心社、中国の訳林（イーリン）出版社、韓国の四季節（サゲジョル）出版社）で12冊の絵本を出版することが計画された。しかし、最初に出版されるはずであった韓国の絵

本『꽃할머니（花ばあば）』⁵⁾が日本軍「慰安婦」を内容とすることから、童心社では出版されなかった。また中国の作家一人⁶⁾が途中で断念したこともあり、最初の計画とは異なる形でこのシリーズは幕を閉じることになる。

本稿では、日本の作家である浜田桂子の『へいわって どんなこと？』に焦点を当てる。理由は、他の日本の作家は幼少時代に戦争を経験しているが、浜田のみが戦後世代である。次に、『へいわって どんなこと？』とタイトルが端的に「平和」という言葉を掲げている。さらに、後述の先行研究でも言及するが、人権及び多様性や自由が作品に反映されていることが述べられていることを上げることができるからである。すなわち、「児童の権利に関する条約」（以下、「子どもの権利条約」）を絵本に表象したと考えられ、条約からの平和の表象分析を本稿の目的とする。以下が『へいわって どんなこと？』の表紙である。



図1：『へいわって どんなこと？』表紙

1. 先行研究

ムン・キョンヒ（문경희, 2017）は、「平和絵本」の日本作家が描いた作品のみに焦点を当てている。田畑精一、和歌山静子、田島征三の3人は、幼い時に直接的にもしくは間接的に戦争を経験した世代であるので、戦争に対する記憶と感情が作品に反映されていることを強調する。彼女／彼らはおもに戦争によって家族と国家共同体が破壊され、その苦痛と死を素材として扱っている。また作品に投影されている感情は、戦争によって死んでいく命に対する悲しみと憤り、虚無感などである。亡くなった軍人、または軍人になって戦争に行きそうになった自分の声を通して戦争の苦痛を描いた、としている。一方、この3人の作品に比べて戦後世代の浜田桂子の作品は、今の時代の子どもの声を通じて、過去のような戦争の苦痛を繰り返してはならない、というように希望的に語られている、と述べている。さらに、浜田の作品は抽象的な概念である平和を子どもの観点から考え、その価値を子どもたちと一緒に模索できるように作られており、鮮やかな色で彩られ、子どもたちが親しみやすい絵本ならではの工夫がされている、とも述べられている。ムンの示唆するところは全く正しい。その証拠に2011年初版1刷が発刊されてから9年後の2020年には、12万部⁷⁾が発行されているので、子どもにはもちろんであるが大人にも受け入れられていると言えるであろう。

カン・ミョンジュ（강명주, 2021）は、韓国で出版された「平和絵本」11冊をすべて分析した。イメージの視覚文法は直感的に伝えることができるので、子どものみならずトラ

ウマを持つすべての人のためにあるのでその意味は大きい、と述べる。三か国が立場を異にし、痛みを異にするがために見つめる方向性に差異があるとしつつ、しかし同じ趣旨のもと連帯のため「行動」を共にしたことは和解へと進んだ大きな一歩であったと指摘した。すなわち、これらの絵本は脱境界のストーリーテリングな絵本であることを強調したのである。カンが強調する「脱境界」は和解のために連帯し、国家という枠組みを越えるという意味で示唆に富んでおり反対の余地はない。ただ、11冊の作品を同じ種類のストーリーテリングな絵本と一括りにしてしまっているところに疑問が残るので、この点については検討する。

そこで、本稿で焦点を当てる『へいわって どんなこと?』がどのようなストーリーテリングな絵本であるかを考察するために、その内容を簡単に述べながら絵と言葉の相互作用を分析する。絵本の絵を全て提示はせず、言葉でできるかぎり忠実にイメージできるように語る。併せて「脱境界」を「子どもの権利条約」という視点から如何に絵本に表象したのかを分析したのち、考察したい。

2. 絵本『へいわって どんなこと?』

絵本『へいわって どんなこと?』の内容をまず紹介する。内容を紹介しながら、絵と言葉の相互作用についても触れる。

2.1 内容及び絵と言葉の相互作用

まず表紙(図1)をめくると、「へいわって どんなこと?」と語り手が問いを投げかける。それに対して、「きっとね、へいわって こんなこと」と前置きをしたうえで以下のように答えている。

せんそうを しない。
 ばくだんなんか おとさない。
 いえや まちを はかいしない。

というように、「…しない」ということを3回繰り返している。3という数字は整数⁸⁾と言われ、昔話や口承芸術によく現われる数字である。絵本は「本」という形態をとっているが、一般的な「本」の読み方である黙読とは異なり、音読⁹⁾する本として作られている。したがって、口頭で語られる昔話や口承芸術で使われる手法がよく登場するのである。それぞれの「…しない」には両面見開きの絵があり、まずは大きな飛行機を黒色で描いた場面が出現する。次に日常を生きる人々の上に大きな火の塊が落ちてくる場面が現われる。その結末なのか、自転車や帽子、靴や人形などが散乱している場面、日常が一変し悲惨な状況が描かれている。この「…しない」の段落はまだ終わっておらず、

だって、
だいすきな ひとに
いつも そばにいてほしいから。

という理由が述べられている。この言葉には保護すべき者が保護されるべき子どもを慈しんでいるように抱き、両者の周りには温もりが満ち溢れており、それを黄色¹⁰⁾で表現している絵が描かれている。

それから話は展開し、

おなかが すいたら だれでも ごはんが たべられる。
ともだちと いっしょに べんきょうだって できる。

というように「たべられる」と「できる」で可能性を述べている。上述の「たべられる」という言葉には大きなテーブルをたくさん子どもたちが囲み、大皿のパスタをみんなで食べている場面で表現している。次の「できる」には、風通しのよい教室に子どもたちが机を並べ、自習の時間なのか自由気ままに勉強している様子を優しく見守る先生が、それを読者は俯瞰する場面となっている。

「それから きっとね、へいわって こんなこと。」と初めの前置きをもう一度繰り返した後、それに対する答えとして6つの事柄を上げている。便宜上①から⑥と番号を付す。

- ①みんなのまえて だいすきな うたが うたえる。
- ②いやなことは いやだって、ひとりでも いけんが いえる。
- ③わるいことを してしまったときは ごめんなさいって あやまる。
- ④どんな かみさまを しんじても かみさまを しんじなくても だれかに
おこられたりしない。
- ⑤おもいっきり あそべる。
- ⑥あさまで ぐっすり ねむれる。

①については、スポットライトを浴びた4人の子どもが自分の好きな格好に身を包み、歌っている場面として表わしている。次の②については、ひとりの子どもの後ろ姿が大きく描かれ、足のみ描かれている複数の子どもたちに向かって仁王立ちしている場面が描かれ、その隣で白い犬が様子をうかがっている（図2参照）。③については、2人の男の子がチャンバラごっこでチューリップ畑を壊したのか、手入れをした2人の子どもに責められバツの悪そうな顔をしている。④については、信仰心を持つ・持たないは目に見えないもの

であり、またその対象は大きく深いものなので、両面見開きに青く高い空と広い大地が描かれ、そこに遠足に向かっている多くの子どもたちが描かれている場面にしたのだろうか。⑤については、大きな木と川がある。木にはブランコがあり、木登りする子どもたちがいる。また虫取りをし、木陰でおしゃべりをする子どもたちや、川では水遊びをする子どもたちの姿を見ることが出来る。野球をしたり、サッカーを楽しんだり、坂から段ボールで滑り下りてくる子どもたち、両面見開きに様々な遊びをしている子どもたちが描かれている（図3参照）。⑥については、大きな白いお月さまを真ん中に、子どもたちや動物たちがぐっすり眠る姿が描かれている場面で表現している。①から⑥と番号を付しているが、前述した3回繰り返しを2度用いたとみることができよう。なぜならば、①から③までの言葉に対応して描かれている子どもたちの大きさは、図2のような大きさであるが、④から⑥までの言葉に対応して描かれている子どもたちの大きさは、図3のように小さくなり多く描かれているからである。3という整数が2度使われたことが分かる。



図2：『へいわって どんなこと』 pp. 16-17

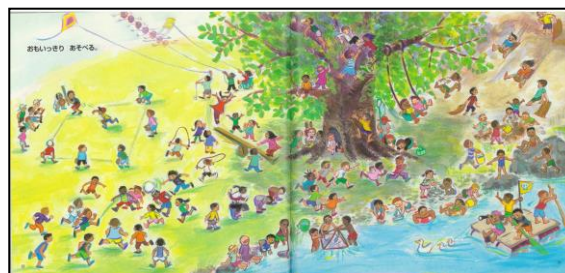


図3：『へいわって どんなこと』 pp. 22-23

それから場面が変わり、黒い背景に7人の老若男女が一行に並んでいるところが描かれており、

いのちは ひとりに ひとつ、たったひとつの おもたい いのち。

というように、大人でも子どもでも命の重さに違いのないことを表わしている。ここは次の接続詞「だから」から分かるように、話が続けている。

だから、ぜったいに、
ころしたら いけない。
ころされたら いけない。
ぶきなんか いらない。

というように書かれている。この言葉に対応する絵としては大きな黒い爆弾のようなものが両面見開きの中央に位置し、その周りにはコラージュ¹¹⁾という手法で破片のようなものが幾重にも散りばめられており、地面を破壊したのか、建造物を突き崩したのか断定することはできない。さらに話は進み、

さあ、みんなで おまつりの じゅんびだよ。
たのしみにしていた ひが やってきた。 パレードの しゅっぱーつ！

というように、子どもたちのこれからの未来に視線を向けているような文脈へと一変する。まずは、大きなキャンバスに黄色い恐竜のようなものをたくさんの子どもたちで描いている様子が出現する。それから次の両面見開きは、みんなで描いた恐竜を子どもたちが動かし、まるでハロウィンのパレードのように大行進をする絵が描かれている。

最後の2場面が残っており、言葉としては、

へいわって ぼくが うまれて よかったって いうこと。
きみが うまれて よかったっていうこと。
そしてね、きみと ぼくは ともだちに なれるって いうこと。

というように、「平和」がどういうものであるのか、ということが読者である子どもたちのみならず、混沌とした現代社会における大人にも向けられた具体的な言葉「うまれて よかった」で書かれている。これに対応する絵としては、男の子が描かれ加えズームイン¹²⁾しており、下方から読者を仰ぎ見る形となっている。最後のページは前の絵とは対照的にズームアウト¹³⁾し、読者と視線を同じくした女の子が描かれ読者を見つめている。話はここで終わっているが、裏表紙には「ぼく」（左）と「きみ」（右）が一緒かけっこしている姿が描かれている（図4）。

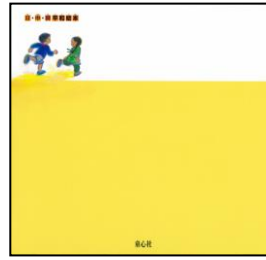


図4：『へいわって どんなこと?』裏表紙

以上が『へいわって どんなこと?』の内容と絵の言葉の相互作用である。

2.2 ストーリーテリングな絵本とは

絵本の種類は様々なものがあるが、筆者は今まで絵本を昔話絵本と創作絵本に分類し、いずれの絵本においても物語絵本について分析・考察してきた。ここでの「物語絵本」がストーリーテリングな絵本であると筆者は考えている。前述したカンの「先行研究」が述べるストーリーテリングな絵本とはそもそも異なるのである。筆者が考える「物語絵本」とは、絵本の表紙を開いてから閉じるまで、時間的経過のあるストーリー性を持つものをいう。しかし、これでは意味が曖昧なので、Narrative（ナラティブ）についての研究はどのようなものがあり、どのように定義されているのかを明らかにしたうえで、筆者が考えているストーリーテリングな絵本をより具体的に述べ、カンの「先行研究」とは一線を画することを明確にしたい。

Narrative（ナラティブ）とは、「物語」「語り」「話術」と訳される英語であり、このように意味に広がりが生じるので、佐藤（2008）はナラティブを語られたテキスト（物語、story）及び語る行為（語り、storytelling）のいずれか、または両方を指すとしている。しかし、このような意味に収斂するまでには、社会言語学的に様々な研究がされたからであろう。

Labov&Waletzky（1967）及びLabov（1972）は、ナラティブを実際に起きたまたはそのように思われる過去の出来事を経験を要約する一つの方法であると定義する。つまり、出来事の順番や構造自体をナラティブと定義する。

Marra&Holmes（2004）は、ナラティブの構造面のみならず、機能の面にも注目し、その物語が語られる背景、社会的状況、目的なども含めてナラティブを定義する。

絵本の性質、つまり絵と言葉がある本であるという特徴から見た場合、Labov らが言及する構造だけでは足りず、絵本の機能としてのナラティブ性が必要であると思われる。すなわち、時間的経過があるストーリー性が絵本という機能に寄せられたモノが「物語絵本」、いわゆるストーリーテリングな絵本であると考えられる。したがって、絵本『へいわって どんなこと?』は絵本という機能は存在する。つまり、物語が語られる日・中・韓三国の「平和絵本」作りへの背景や三国の和解への目的はあるが、構造的な時間経過が段階的であり

項目的ストーリー性があるのみである。よって、項目的ストーリーテリングな絵本とは言えるが、「物語絵本」とは言えないのではないだろうか。韓国で出版された 11 冊の「平和絵本」の中には、「物語絵本」¹⁴⁾ もあれば、カン自身が述べている項目的ストーリーテリングな絵本も含まれるので、全てをストーリーテリングな絵本と一括りにして分析したことに疑問があると述べたのである。

以上から、筆者が考えるストーリーテリングな絵本は「物語絵本」のみを指し、カンの「先行研究」が考えるストーリーテリングな絵本は「物語絵本」と「項目的ストーリー性」を含むものである。

次は「脱境界」について、「子どもの権利条約」からどのように絵本で表象されているかを分析・考察する。

3. 子どもの権利条約

まず「子どもの権利条約」の内容について簡潔に紹介する。

3.1 「子どもの権利条約」の概要

「子どもの権利条約」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約である。18 歳未満の子どもを、権利を持つ主体と位置づけ、大人と同様ひとりの人間としての人権を認め、成長過程では特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利を定める。全文と本文の 54 条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となるような具体的な事項を規定している。1989 年第 44 回国連総会において採択、1990 年に発効し、日本では 1994 年¹⁵⁾に批准している。

「子どもの権利条約」の権利は大きく分けて 4 つに分類することができる。上述したように、生存に関する権利、つまり衣食住や命が守られること。発達に関する権利、つまり勉強したり遊んだり、また持って生まれた能力を十分に伸ばして成長すること。保護する権利、つまり紛争に巻き込まれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働から守られること。参加する権利、つまり自由に意見を表わしたり、団体を作ったりすることである。条文すべてを挙げることはできないが、上記 4 つの分類で観察しつつ、該当条文については条文の「見出し」を掲げる。なお、重要な条文については全文を引用する。

3.2 「子どもの権利条約」からの分析

『へいわって どんなこと？』の内容を紹介した順序で、「子どもの権利条約」に当てはめて分析する。

「…しない」は、戦争をしない、破壊しない、爆弾を落とさないということであった。武力行使に関わるものであり、生存に直結する問題である。したがって、上記「生存に関する権利」に属する。より詳細に見ていくと、第 6 条の生命への権利及び第 38 条武力紛争

における子どもの保護が「…しない」に結びつくことになる。

つづく「だいすきな ひとに いつも そばにいてほしいから。」は、「生存」「発達」「保護」に重疊的に関わる。子どもたちにとっては大好きな人と共にいることで、保護され、発達していく。しかし、その大好きな人が子どもたちに危害を及ぼすことも考え得るので、条文はさらに多岐に及んでいる。すなわち、第9条の親からの分離禁止がある一方で、第18条の第一次養育責任、第19条の虐待・放任からの保護。また親であっても子どもを養育できない場合は、第20条のような代替的な養護、第21条の養子縁組、第22条の難民の子ども保護・援助などに結びつくと考えられる。

「たべること」は生存に関する権利であり、「勉強すること」は発達に関する権利である。第6条生命への権利については既に触れたので、ここでは第28条教育への権利及び第29条教育の目的が教育について述べており、発達に関する権利に関わって謳っていることを特に挙げる。

前述①から⑥と番号を付した言葉については、「子どもの権利条約」を「生存」「発達」「保護」「参加」の4つに分類した全てに網羅するように関わっている。詳細に見ていくが、①「みんなのまえて だいすきな うたが うたえる。」、②「いやなことは いやだって、ひとりでも いけんが いえる。」、③「わるいことを してしまったときは ごめんなさいって あやまる。」は、第12条意見表明権に該当すると考えられる。④「どんな かみさまを しんじても かみさまを しんじなくても だれかに おこられたりしない。」は、第14条思想、良心、宗教の自由に関係する。人権の根幹に関わる重要な条文なので全文引用する。

第14条

- 1 締約国は、思想、良心及び宗教の自由について児童の権利を尊重する。
- 2 締約国は、児童が1の権利を行使するに当たり、父母及び場合により法定保護者が児童にたいしてその発達しつつある能力に適合する方法で指示を与える権利及び義務を尊重する。
- 3 宗教又は信念を表明する自由については、法律で定める制限であって公共の安全、公の秩序、公衆の健康若しくは道徳又は他の者の基本的な権利及び自由を保護するために必要なもののみを課することができる。

ある宗教を信じる、信じないだけでなく、その宗教を信じたことを表明することも、信じないことを表明することも、公の秩序に反しない限り基本的には保障されることを述べているのである。

⑤「おもいっきり あそべる。」は、第31条休息、余暇、遊び、文化的・芸術的生活

への参加に関わる。⑥「あさまで ぐっすり ねむれる」は、「生存」「発達」「保護」に関わるものであると言えるので、今まで挙げた条文をほぼ当てはめることが可能であろう。

その後、絵本では誰の命であっても同じ重さでありかつ大切であることが語られているので、もう一度「生存に関する権利」に話が戻る。命あってこそ「発達」があり、その命も発達する機会も「保護」されるべきであり、保護されてこそ様々な活動へ「参加」する権利と繋がる。そのように絵本は作られており、楽しみにしていたパレードへと連続し、ぼくときみが生まれてきたことがもっとも祝福されるべき事柄であり、またぼくときみが友だちになれるという具体的かつ日常的な生活こそが、平和であることを述べているのである。

3.3 「子どもの権利条約」からの考察

絵本『へいわって どんなこと？』は、前述した通り日本の作家浜田桂子によって作られ、韓国と中国で翻訳¹⁶⁾されている。翻訳という行為は国を越えてなされるものであるもので、越境、すなわち「脱境界」とであると言える。また「絵本」という媒体は絵で表現されるツールであるがために、言語とは違ったコミュニケーション手段としても用いられ、元来境界線上にあるものである。よって、絵本作家田島征三は芸術性には共通するものがあると信じて、「平和絵本」作りを提案したのである。絵については境界線の「外」でもあり「内」でもあるので「脱」する必要性がなく、その意味でメタ的言語である「子どもの権利条約」により前述のように分析可能である。さらに附言するとすれば、この絵本が項目的ストーリーリングな絵本であるが故に、「子どもの権利条約」の各条項（筆者傍点）から分析できたのであろう。

おわりに

本稿は、「平和絵本」の中の日本作家の作品、それも戦後世代である浜田桂子の『へいわって どんなこと？』に焦点を当てた。絵本の内容は言葉を全て提示し、絵については重要なもの、特に絵本の読み方である音読と関連する整数3に関連して、提示した。

先行研究で当該絵本を「ストーリーリングな絵本」の一つとして分析・考察していたが、筆者が考えるストーリーリングな絵本とはその内容が異なるので、この点明らかにしたうえで、『へいわって どんなこと？』は「物語絵本」ではなく項目的ストーリーリングな絵本であることを明らかにした。

それから、「子どもの権利条約」を絵本に当てはめることで、『へいわって どんなこと？』が子どもの人権や自由を保護し、平和を希求する「脱境界」という視点に基づいた絵本に表象されていることを確認することができたと考える。

コロナ禍も3年目を迎え、各国によって取られる対策は異なり、ゼロコロナ・ウィズコロナなど、感染症に怯える一方で既にポストコロナを見据え思索している人々の中にはい

る。20 世紀の歴史は飢餓・戦争・病気など、人類は様々なことを経験し学んだはずである。過ちは二度と繰り返さないようにと心に誓いながら 21 世紀を迎えたのではないだろうか。現況を考えると、これを機に本稿で「脱境界」を再考する機会に恵まれたことに望みを置き、「平和」について熟慮することが今の課題であり、これからの課題でもある。

注

- 1) 田島征三（1940-）大阪生まれの絵本作家。『ふるやのもり』（福音館書店）、『ふきまんぶく（偕成社）など作品多数。「平和絵本」のタイトルは『ぼくのこえがきこえますか』である。
- 2) 田畑精一（1930-2020）大阪生まれの絵本作家。『おいしいれのぼうけん』（童心社）、『さっちゃんのまほうのて』（偕成社）など作品多数。「平和絵本」のタイトルは『さくら』である。
- 3) 和歌山静子（1940 年-）京都生まれの絵本作家。『ひまわり』（福音館書店）など作品多数。「平和絵本」のタイトルは『くつがいく』である。
- 4) 浜田桂子（1947 年-）埼玉生まれの絵本作家。『てとてとてとて』（福音館書店）など作品多数。
- 5) 『花ばあば』は童心社から出版されなかったが、クラウドファンディングで 2018 年「ころから」という出版社から出版された。クオン・ユンドク絵／文、桑畑優香訳。
- 6) 中国の絵本作家は蔡皋、姚红、周翔、岑龙的四人であったが、周翔が断念した。渡辺美奈（2019）「日本軍「慰安婦」を描いた『花ばあば』出版をめぐる 生き抜いた女性たちの存在を伝えたい」、『日本学』第 38 号、p. 25.
- 7) 部数に関しては童心社ホームページによる（2022 年 3 月 10 日最終検索）。
- 8) 藤本朝巳（2000）『昔話と昔話絵本の世界』日本エディタースクール出版部、pp. 39-40 において指摘されている。
- 9) 絵本の読み方は音読、すなわち読み聞かせ（ひとりが複数人に）及び、読み合い（ひとりが一人もしくは二人に）声を出して読むことを言う。
- 10) ジェーン・ドゥーナン（2013）『絵本の絵を読む』玉川大学出版部、pp. 44-45 において、色の三要素の中の彩度、すなわち色の純度を図る言葉であり、感情や温かさを表現する。
- 11) コラージュとは、絵の表面に布や紙、その他の材料を貼り付ける技法のことをいう。この技法を使うことにより、それが何なのかを見極めようとする読者の注意を集める機能が働く。前掲書ドゥーナン、p. 142.
- 12) ズームインとは、カメラなどで被写体を急に大きく写すこと。
- 13) ズームアウトとは、前掲註 12 とは反対にカメラなどで被写体を小さく写すこと。
- 14) 尹惠貞（2021）によると、韓国で出版された 11 冊の「平和絵本」の中の『春姫という名前の赤ちゃん』は「物語絵本」である。
- 15) 韓国は国連に加入した 1991 年に「子どもの権利条約」にも批准している。2021 年現在第 40 条「少年司法」の 2 項 b の (5) については留保。非常戒厳令下における単審制を定めてお

り、子どもの権利を保護することが困難であるため留保している。

- 16) 韓国語の翻訳版のタイトルは『평화란 어떤 걸까?』パク・チョンジン訳、中国語の翻訳版のタイトルは『和平是什么?』林静訳である。

参考文献

- イ・ジェヨン他 (2018) 「韓国における子どもの権利研究の展開」『子どもの権利が拓く』子どもの権利条約総合研究所、162-170 頁。
- 佐藤彰 (2008) 「ナラティブ」『メディアとことば③ [特集] 社会を構築する言葉』ひつじ書房、238-239 頁。
- ドゥーナン・ジェーン (2013) 『絵本の絵を読む』玉川大学出版部。
- ニコラエヴァ&スコット (2011) 『絵本の力学』、玉川大学出版部。
- 藤本朝巳 (2000) 『昔話と昔話絵本の世界』日本エディタースクール出版部。
- 尹恵貞 (2021) 「日・中・韓平和絵本—『春姫という名前の赤ちゃん』を題材に」『東アジア日本学研究』第6号、85-98 頁。
- 渡辺美奈 (2019) 「日本軍「慰安婦」を描いた『花ばあば』出版をめぐる生き抜いた女性たちの存在をつたえたい」『日本学』第38号、25 頁。
- 강명주 (2021) 「한 · 중 · 일 전쟁트라우마와 탈경계의 스토리텔링: 평화그림책시리즈를 중심으로」『다문화콘텐츠연구』37, 2021. 8, 213-239 頁。
- 문경희 (2017) 「전쟁 고통의 재현과 평화 일본 작가들의 평화그림책과 고통의 연대」『한국민족문화』(62)2017. 2, 75-116 頁。
- Labov, W. (1972) *Language in the inner city*. Philadelphia University of Pennsylvania Press.
- Labov, W & Waletzky, J. (1976) Narrative analysis: Oral version of personal narrative. In Helm, J (ed.) *Essays on the verbal and visual acts: Proceeding of the 1966 Annual Spring Meeting of the American Ethnological Society*, pp. 12-44. Settle and London: University of Washington Press.
- Marra, M & Holmes, J. (2004) Workplace narratives and business reports: Issues of definition. *Text*, 24(1): pp. 59-78.

Representation analysis of peace in the Picture Books for Peace from Japan, Korea and China series--Focusing on *What Does Peace Mean?*--

YOON, Hejeong

Abstract

This article focus was on the Japanese author Keiko Hamada's *What Does Peace Mean?* in the 'Japan, Korea, and China Picture Book series.' The reason is that Hamada is the only Japanese

author who was born after World War II, and the word ‘peace’ is included in the title of the book.

By quoting all of the words and presenting some of the pictures in the book, I was able to show how the words and pictures interacted with each other.

In addition, a prior research has pointed out that *What Does Peace Mean?* is a storytelling picture book with a ‘trans-bordering’ effect. Therefore, after clarifying that a storytelling picture book equals to a story picture book only when it has both structural and functional aspects based on the accumulation of ‘narrative’ research, and I positioned it as an itemized storytelling picture book rather than a storytelling picture book in general.

As for ‘trans-bordering,’ in the sense of transcending national borders, it is clarified how the picture book represents peace from the meta-linguistic “Convention on the Rights of the Child”.

Keywords : peace picture books, war picture books, narrative picture books, storytelling picture books, Convention of the Rights of the Child

学会役員

<顧問>

山泉進（明治大学・名誉教授）

李漢燮（高麗大学・名誉教授）

<会長・理事>

金龍哲（東京福祉大学・教授）

<副会長・理事>

安達義弘（日韓言語文化交流センター・
副代表）

李東哲（山東外事職業大学・教授）

権寧俊（新潟県立大学・教授）

崔光准（新羅大学・教授）

杉村泰（名古屋大学・教授）

鄭亨奎（日本大学・特任教授）

李東軍（蘇州大学・教授）

<常任理事>

岩野卓司（明治大学・教授）

崔肅京（富士大学・教授）

李慶国（追手門学院大学・教授）

金珽実（商丘師範学院・副教授）

金光林（新潟産業大学・教授）

<一般理事>

阿莉塔（浙江大学・副教授）

安勇花（延边大学・副教授）

白曉光（西安外国語大学・副教授）

宮脇弘幸（大連外国語大学・客員教授）

李光赫（大連理工大学・副教授）

娜荷芽（内蒙古大学・副教授）

任星（厦門大学・副教授）

施暉（蘇州大学・教授）

王宗傑（浙江越秀外国語大学・教授）

徐瑛（浙江越秀外国語学院・副教授）

朴銀姫（延边大学・教授）

中川良雄（京都外国語大学・特任教授）

堀江薫（新潟県立大学・名誉教授）

飯嶋美知子（北海道情報大学・准教授）

李昌玟（韓国外国語大学校・教授）

宮崎聖子（福岡女子大学・教授）

熊木勉（天理大学・教授）

伊月知子（愛媛大学・准教授）

張韶岩（中国海洋大学・教授）

崔玉花（延边大学・副教授）

李東輝（大連外国語大学・教授）

薛鳴（愛知大学・教授）

李先瑞（寧波理工大学・教授）

仲矢信介（東京国際大学・准教授）

加藤三保子（豊橋技術科学大学・特任教
授）

<事務局>

事務局長

金珽実（商丘師範学院・副教授）

副事務局長

力丸美和（九州大学・助教）

学会動向

◆「第四回東アジア日本学研究国際シンポジウム」開催

2022年9月10-11日に、日本大学にて「第四回東アジア日本学研究国際シンポジウム」がオンラインで開催されました。日中韓3か国を中心に合計77名が参加し、成功裏に閉幕しました。大会では日本国立国語研究所の石黒圭教授、韓国仁川大学の辛銀真教授、鄭州大学の葛継勇教授の基調講演を含めて合計41本の研究（論文）が発表されました。

◆「韓国日本語学会」との学術交流協定

2022年8月1日付で、理事会の審議を経て「韓国日本語学会」（盧姪鉉会長）との学術交流協定が締結されました。今後、東アジア日本学研究に関するさらなる発展が期待されます。

◆「第五回東アジア日本学研究国際シンポジウム」の開催予定地と時間

2023年度開催予定の「第五回東アジア日本学研究国際シンポジウム」は、2023年9月中旬に、韓国日本語学会との共催で韓国の東国大学（ソウルキャンパス）で開催する予定です。

◆学会誌第9号への投稿募集

2023年3月発行予定の『東アジア日本学研究』第9号への投稿を募集中です。会員の皆様の積極的な投稿を期待します。締め切りは10月3日（月）の北京時間24:00です。

東アジア日本学研究学会副会長
李東哲

会員消息

◆新入会員（20名）

王維亨（千葉大学、講師）、権裕羅（名古屋大学、大学院生）、楊迪（名古屋大学、大学院生）、孫守乾（東京都立大学、大学院生）、郝文文（名古屋大学、大学院生）、李劍（神奈川県立保健福祉大学、助教）、林穎（新潟大学、大学院生）、五十嵐啓子（北海道多文化共生 NET、代表理事）、黄美蘭（帝京平成大学、助教）、文都日娜（名古屋大学、大学院生）、呉雨（重慶交通大学、講師）、蔡蕾（浙大寧波理工学院、講師）、陳泳姍（名古屋大学、大学院生）、滝澤修身（長崎純心大学、教授）、于心（成都東軟学院、講師）、李彩蘭（蘇州大学、講師）、張智超（成都東軟学院、講師）、于穎（蘇州大学、講師）、陳依偲（浙江越秀外国語学院、講師）、大橋真由美（東京福祉大学、特任講師）

◆会員の所属・職位変更

崔小萍 名古屋大学（大学院生） → 大連大学（講師）
南明世 名古屋大学（大学院生） → 北陸大学（非常勤講師）
李金鳳 北京外国語（大学院生） → 首都師範大学（ポストドクター）

◆学位取得

崔小萍（名古屋大学、博士（文学）、2022年3月25日）
南明世（名古屋大学、博士（文学）、2022年3月25日）
李金鳳（北京外国語大学日本学研究センター、文学博士、2021年7月 ＊追加登録）

◆受賞

李金鳳 優秀博士論文（北京外国語大学、2021年6月 ＊追加登録）
李東哲 功勞牌（金賞）（韓国日語日文学会、2021年12月 ＊追加登録）

※上記の情報は2022年4月1以降、2022年9月30日までの変動事項です。

東アジア日本学研究学会副会長

李東哲

東アジア日本学研究学会会則

<名称>

第1条 本会は、東アジア日本学研究学会(The Society of Japanese Studies in East Asia)と称する。

<目的>

第2条 本会は、東アジア地域における日本学の学際的研究をととして、また、それぞれの研究者が研究成果を発表し交換し合うことをととして、学問の進歩及び当該地域の平和的發展に寄与することを目的とする。

<事業>

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 東アジア地域における日本学を中心とした学際的研究・調査
2. 学会、研究会、講演会及びシンポジウムの開催
(学会における共通言語は、原則として日本語とする)
3. 機関誌及び図書等の刊行
4. 内外の学術団体、研究者との連絡及び学術上の交流
5. その他本会の目的を達成するために必要と認められる事業

<会員>

第4条 本会の会員は、個人会員、賛助会員とする。

1. 個人会員は、東アジア地域の研究に関心を持ち、かつ本会の目的に賛同する個人
2. 賛助会員は、本会の目的に賛同し、本会の事業に協力する法人・団体または個人

第5条 本会には、名誉会員および顧問をおくことができる。名誉会員および顧問は、理事会が推薦し、会員総会の承認を受ける。

<入会・退会>

第6条 本会に入会を希望する者は、理事会に申請し、その承認を得るものとする。

ただし、大学院生は、指導教員の推薦を得ることとする。

第7条 本会を退会しようとする者は、退会を事務局に通告すれば退会することができる。会費を2年間滞納した者は、理事会において承認のうえ、退会とみなす。

<会費>

第8条 会員の会費は、次のように定める。

一般会員	5,000 円
学 生	3,000 円
賛助会員	50,000（1口） 円

<役員>

第9条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 若干名
3. 理事 30名以内（理事のうち若干名を常任理事とする）
4. 事務局長 1名
5. 会計監事 2名
6. その他理事会が必要と認めた役員

第10条 役員の任期は、就任から2年とする。ただし、再任は妨げない。

<役員の職務>

第11条 本会の役員の職務は次のとおりとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に不都合が生じた時はこれを代理する。
3. 理事は、理事会を組織し、会務を審議執行する。理事会の議事は、出席者の過半数により決定する。
4. 事務局長は、会長の指示に基づいて、事務を執り行う。
5. 会計監事は、会計を監査する。

<役員の選出>

第12条 役員の選出は次のとおりとする。

1. 会長は、会員総会において選出する。
2. 副会長・理事は会長が任命する。
3. 会計監事は、会員総会において選出する。
4. その他の役員は、理事会が委嘱する。

<学会誌編集委員会>

第13条 本会は、理事会のもとに学会誌編集委員会をおく。

1. 学会誌編集委員会は、学会誌の出版計画を立案し、これを理事会に提案する。
2. 委員は、個人会員の中から理事会が推薦し、会長が任命する。
3. 委員の任期は、就任から2年とする。ただし、再任は妨げない。

4. 学会誌編集委員会に委員長を置き、委員の中から互選する。
5. 委員長は、学会誌編集委員会の事務を掌理する。

<会員総会>

第14条 本会は、毎年1回会員総会を開催する。

第15条 会員総会では、次の事項を審議決定する。

1. 事業報告及び決算
2. 事業計画及び予算
3. 会長及び会計監事の選出
4. 会則の変更
5. その他の必要な事項

第16条 臨時会員総会は、理事会が必要と認めたとき、または会員の2分の1以上の要望があるときに開催する。

第17条 会員総会の議決は、出席会員の過半数をもって決する。

<会計>

第18条 本会の運営は、会費及びその他の収入で賄う。

1. 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、3月31日に終わる。
2. 本会の決算は、会計監事の監査を受けなければならない。

<雑則>

第19条 本会の所在地は、〒818-0125 福岡県太宰府市五条2丁目8-8-205とする。

<付則>

1. 本会の設立は、2018年9月1日とする。
2. 本会則は、2018年9月1日から実施する。
3. 本会の運営に必要な事項は理事会が定める。

『東アジア日本学研究』投稿要領

- 1) 『東アジア日本学研究』は、東アジアにおける日本学研究に関する論文・研究ノート・書評などにより構成される。
- 2) 1年に2号（春季号・秋季号）の刊行を原則とする。
 - ・春季号はシンポジウムの論文集とする。毎号シンポジウム終了後3週間以内を目安にその都度締め切りを設ける。
 - ・秋季号はシンポジウムの発表以外の内容も含む学術論文集とする。投稿期間は毎号3月1日から4月1日までとする。

（例：2020年度年会費分の春季号は翌2021年春、秋季号は翌2021年秋に発行予定）
- 3) 『東アジア日本学研究』に投稿できるのは、東アジア日本学研究学会の会員および編集委員会が依頼した者とする。ただし春季号にはシンポジウムで発表した非会員にも投稿資格を認める。その場合、会員の年会費相当額を投稿料として事務局に納入することとする（筆頭著者だけでなく共著者も同様とする）。
- 4) 投稿者が会員の場合、投稿する当該年度までの会費を投稿前に全て納入しなければならない（筆頭著者だけでなく共著者も同様とする）。
- 5) 投稿者が学生会員の場合は、投稿時に投稿原稿、投稿票とともに、指導教員等による承諾書（100字以内で様式は任意。指導教員等の署名または捺印が必須）を提出しなければならない。ただし、編集委員会が投稿を依頼した者については、これを適用しない。
- 6) 投稿原稿は未発表のものでなければならない。投稿者は投稿原稿の不採用が決定される前に当該原稿を他の場所で公刊してはならない。
- 7) 本誌の春季号と秋季号は両方同時に投稿することができる。ただし、両者の内容は異なるものとする。また、春季号も秋季号も一回の投稿期間に投稿できるのは一篇のみとする。
- 8) 『東アジア日本学研究』に掲載された全ての原稿の著作権は東アジア日本学研究学会に帰属する。
- 9) 原著者が『東アジア日本学研究』に掲載された文章の全部または大部にわたって複製利用しようとする場合には、事前に編集委員長に申請しなければならない。編集委員会は特段の不都合がない限りはこれを受理し、複製利用を許可する。
- 10) 『東アジア日本学研究』に掲載された全ての原稿は、東アジア日本学研究学会のホームページにおいてPDFファイルにて公開する。
- 11) 投稿者は、東アジア日本学研究学会ホームページに掲載の「執筆要領」の内容を踏まえ、これに準拠した完成原稿と投稿票を提出する。投稿票は下記の所定の様式で提出すること。
- 12) 完成原稿と論文要旨は、E-mail の添付ファイルとして送付する。ファイル形式は原則

として MS-Word とする。採用が決定された原稿の提出方法は編集委員会から再度通知する。

- 13) 投稿された原稿は、査読者による審査結果をもとに、編集委員会が採否を決定する。
- 14) 採用された場合、投稿者は英文要旨を提出する。英文要旨は、提出前に必ずネイティブ・チェックを受ける。
- 15) 原稿の投稿先および問い合わせ先は次のとおりとする。

東アジア日本学研究学会事務局 E-mail: eaja20172@163.com

(2021年4月20日改正)

※投稿の際は以下の部分を切り取り、原稿に添えて送ってください。

投 稿 票		
投稿日：20 年 月 日		
氏名		
所属・職位	(例) ○○大学・助手、講師、副教授、教授、大学院生	
メールアドレス		
電話番号		
論文タイトル		
種類 (該当を残す)	春季号 / 秋季号	論文・研究ノート・書評
分野 (該当を残す。 複数回答可)	1. 語学・言語教育 2. 文学 3. 文化 4. 歴史 5. 哲学・思想 6. 経済 7. 政治 8. その他	
連絡事項 事務局または編集委員会に連絡したいことがあれば書いてください。特になければ記載不要です。		

『東アジア日本学研究』執筆要領

1) 利用言語

原稿は日本語を使用し、横書きで作成する。

2) 原稿枚数

原稿の枚数は40字×35行を1枚と換算して、春季号論文は5～7枚(注・図表・参考文献を含む)、秋季号論文は10～15枚(注・図表・参考文献を含む)とする。

3) 見出し番号の表記

本文内の各節章の見出しにつける番号はⅠ、Ⅱ、Ⅲ…とし、その下の款項には1.、2.、3. …を用いる。さらにその下の項には(1)、(2)、(3) …を用いる。最初に「はじめに」、最後に「おわりに」を置いてもよい(番号は付けない)。

4) 句読点の表記

句読点は全角の「、」「。」を用いる。

5) 括弧の表記

括弧は原則として全角とする(欧語表記および注記を示す記号に用いる片括弧を除く)。

6) 数字の表記

数字は、熟語など特別な場合を除き半角のアラビア数字を用いる。4桁表記以上となる場合は、コンマ(,)を用いる。また、「兆、億、万」などの漢数字を用いてもよい。

7) 年号の表記

年号は原則として西暦を用いる。必要に応じて、西暦の後に元号などを丸括弧に入れて併用してもよい。

8) 度量衡の単位は、原則として記号(m kg など)を用いる。

9) 図や表には番号とタイトルを記入する。

10) 注は以下のように該当部分の右肩に入れ、論文末にまとめて並べる。

～と考える¹⁾。

11) 参考文献の表記

本文と注記で用いた全ての文献を「参考文献」として本文の最後の一括して表示する。
参考文献の表記は以下のとおりとする。

(日中韓語の書籍) 編著者名(発行年)『書名一副題』出版社。(MS 明朝 9P)

(日中韓語の雑誌論文) 著者名(発行年)「論文名一副題」『雑誌名』巻数(号数)、〇-〇頁。

(日中韓語の書籍中の論文) 著者名(発行年)「論文名一副題」(編者名『書名一副題』出版社)、〇-〇頁。

(日中韓訳書) 編著者名(発行年)『書名一副題』(訳者名、原著は〇年発行)出版社。

(欧文の書籍) 編著者名(発行年) 書名: 副題, 発行地: 出版社。

(欧文の雑誌論文) 著者名(発行年) “論文名: 副題,” 雑誌名, 巻数(号数), pp. 〇-〇。

(欧文の書籍中の論文) 著者名(発行年) “論文名: 副題,” 編者名 ed., 書名: 副題, 発行地: 出版社, pp. 〇-〇。

『東アジア日本学研究』査読要領

【査読スケジュール】

・投稿締切日

(春季号) シンポジウム終了後3週間以内とする。

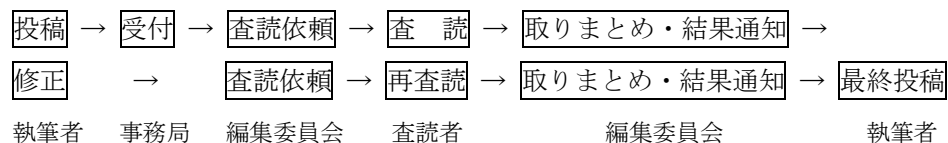
(秋季号) 毎号4月1日(北京時間24:00)とする。

・投稿先: 東アジア日本学研究学会事務局 E-mail: eaja2017@163.com

・査読の流れ

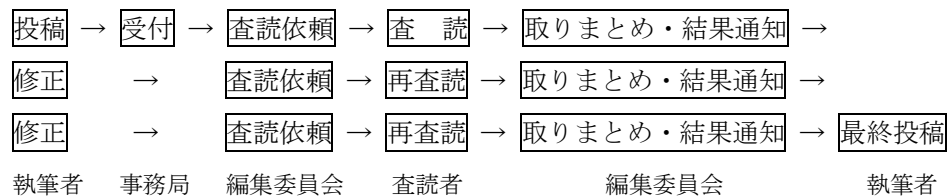
(春季号) 査読は2回までとする。

(2回目の総合評価が「再査読」の場合は結果的に「不採用」となる。)



(秋季号) 査読は3回までとする。

(3回目の総合評価が「再査読」の場合は結果的に「不採用」となる。)



【査読者の構成】

- 1) 論文1編について2名の査読者が査読する。
- 2) 査読者は編集委員会によって原則として会員の中から選任する。会員の中に適任者がいない場合は外部審査員を依頼することができる。審査料は全て無料とする。
- 3) 春季号の場合は、自己の投稿論文でなければ査読可能とする。秋季号の場合は、投稿者は当該号の査読は行わないこととする。

【査読】

- 4) 査読は投稿者・査読者間、査読者間ともに匿名で行うこととする。
- 5) 判定は、「採用」「条件採用」「再投稿」「不採用」の4段階とする。
 - ・「採用」は誤植程度の修正しか必要でない場合とする。
 - ・「条件採用」は査読者から指摘された問題が1週間程度で修正でき、当該号での採用が見込める場合とする。
 - ・「再投稿」は査読者から指摘された問題が2週間程度で修正でき、当該号での採用が見込める場合とする。

・「不採用」は当該号での採用のレベルに達していない場合とする。

- 6) 査読者は所定の「査読票」に査読結果とコメントを記入する。
- 7) 論文の中に投稿者が特定される情報が書かれていることが査読の過程で明らかになった場合でも、原則として査読を継続する。但し、投稿者と査読者が指導教員と指導生の関係、同じ機関に属する等の場合には、査読者の交代を行う。
- 8) 査読にあたり二重投稿等の疑義等が生じた場合、投稿者宛てコメントには記載せず、編集委員会宛てコメントに記載する。

【査読結果のとりまとめ】

- 9) 査読者は「査読票」を編集委員長に送付する。
- 10) 編集委員会では、以下の総合判定ガイドラインに基づいて採否を決める。基本的にこれを順守するが、このガイドラインに従わない方がよいと判断される場合には、編集委員会で審議する。

＜総合判定ガイドライン＞

(◎採用、○条件採用、△再投稿、×不採用)

採用 : ◎◎ (6点)

条件採用 : ◎○ (5点)、○○、◎△ (4点)

再投稿 : ◎×、○△ (3点)、○×、△△ (2点)、△× (1点)

不採用 : ×× (0点)

- 11) 総合判定の確定後、編集委員長は結果を事務局に送付する。
- 12) 事務局は、総合判定結果と査読者のコメントを投稿稿者に送付する。

【再投稿・最終投稿】

- 13) 「採用」の場合は、微修正の確認を編集委員会で行う。
- 14) 「条件採用」と「再投稿」の場合は、初回の2名の査読者で再度査読する。
- 15) 春季号の査読は2回まで、秋季号の査読は3回までとし、査読結果に基づいて編集委員会で最終判定を行う。
- 16) 編集委員会は最終判定結果を事務局に送付し、それを事務局から投稿者に送付する。

【その他】

- 17) 「不採用」に関する投稿者からの反論には原則として応じない。
- 18) 校正は字句等の修正のみ認める。問題が生じた場合には編集委員長が確認する。

編集後記

編集委員長 杉村泰（名古屋大学教授）

本号には11本の投稿がありました。各論文とも2名の査読者による審査が行われ、採用8本、辞退2本、不受理1本という結果となりました。投稿の際は制限頁数などの規程を守り、必ずネイティブチェックを受けてから投稿して下さい。

編集委員 加藤三保子（豊橋技術科学大学特任教授）

新型コロナウイルス感染を避けながら自主的に活動制限をする昨今、特に現地調査が必要な研究の遂行は苦労が多いと思います。多くの情報がネットで検索できる時代ではありますが、「百聞は一見に如かず」です。1日も早く自由に行動できる日が戻りますように。

編集委員 吉川佳英子（愛知工業大学教授）

今回も多彩な論文が多く寄せられました。いずれも力作ぞろいで、興味深く読ませていただきました。本号に掲載された論文のテーマはさまざまで、たいへん刺激的です。研究のすそ野の広さがうかがえます。皆さんのさらなる研究の進展、深まりを楽しみに、あらたな投稿を心待ちにしています。

編集委員 金光林（新潟産業大学教授）

編集委員を担当しながら論文の査読を通して私自身もいい勉強をしています。普通はそこまで精読しない論文を査読者の立場になると責任感から必ず精読するようになります。査読も一種の勉強の過程だと思っています。

【本号の査読者】（50音順）

加藤恵梨（愛知教育大学准教授）、加藤三保子（豊橋技術科学大学特任教授）、関承（広島大学中国学プロジェクト研究センター研究員）、金光林（新潟産業大学教授）、陳秀茵（東洋大学講師）、中川良雄（京都外国語大学特任教授）、任星（厦門大学副教授）、白曉光（西安外国語大学副教授）、橋本恵子（福岡工業大学短期大学部准教授）、吉川佳英子（愛知工業大学教授）、李東軍（蘇州大学教授）

東アジア日本学研究 第8号
Japanese Studies in East Asia No.8

2022年9月20日発行

東アジア日本学研究学会

The Society of Japanese Studies in East Asia

学会事務局 E-mail: ejja2017@163.com（一般）

ejja20172@163.com（学会誌専用）

住所：〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1

東京福祉大学教育学部内

ホームページ <https://www.east-asia.info/>

ISSN 2434-513X
